別記様式第２号（その１の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

基　本　計　画　書

基　本　計　画									
事　項		記　入　欄							備　考
計画の区分		学部の学科の設置							
フリガナ 設置者		ｶﾞｯｺｳﾎｳｼﾞﾝ　ﾎｸｾｲｶﾞｸｴﾝ 学校法人　北星学園							
フリガナ 大学の名称		ﾎｸｾｲｶﾞｸｴﾝﾀﾞｲｶﾞｸ 北星学園大学（Hokusei Gakuen University）							
大学本部の位置		北海道札幌市厚別区大谷地西２丁目３番１号							
大学の目的		本学は、キリスト教による人格教育を基礎とし、広く教養を培うとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知的、応用的能力を発揮させることを目的とする。							
新設学部等の目的		社会福祉学の学びを核としつつ、コミュニケーション力、分析力、デザイン力、支援力、企画・実践力、研究力を育むことを通して、現代社会を生きる人々や地域社会が抱える諸課題と向き合い、「多様性を認め、共に生きる社会の構築･実現」「地域社会の活性化･地域づくり」に資する人材の育成を目的とする。							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	
	社会福祉学部 [School of Social Welfare] 社会福祉学科 [Department of Social Welfare]	年 4	人 120	年次人 ３年次 5	人 490	学士 （社会福祉学） 【Bachelor of Social Welfare】	年　月 第　年次 令和５年４月 第１年次 令和７年４月 第３年次	北海道札幌市厚別区大谷地西２丁目３番１号	
	計		120	３年次 5	490				
同一設置者内における変更状況（定員の移行，名称の変更等）		・令和５年４月　学生募集停止　（※３年次編入学定員は令和７年４月学生募集停止） 社会福祉学部 福祉計画学科（廃止）　(△85) （３年次編入学定員）　(△10) 福祉臨床学科（廃止）　(△85) （３年次編入学定員）　(△10) ・令和５年４月　名称変更 社会福祉学部 福祉心理学科 → 心理学科 ・令和５年４月　入学定員及び編入学定員変更　＜大学全体の収容定員は増加しない＞ 文学部 英文学科〔定員増〕　(18) （３年次編入学定員）〔定員増〕　(1) 心理・応用コミュニケーション学科〔定員増〕　(6) 経済学部 経済学科〔定員増〕　(9) 経営情報学科〔定員増〕　(5) （３年次編入学定員）〔定員減〕　(△1) 経済法学科〔定員増〕　(6) （３年次編入学定員）〔定員減〕　(△5) 社会福祉学部 心理学科（名称変更前：福祉心理学科）〔定員増〕　(6) （３年次編入学定員）〔定員減〕　(△2)							

教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数	
		講義	演習	実験・実習	計		
	社会福祉学部 社会福祉学科	208　科目	52　科目	17　科目	277　科目	124　単位	

教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等						兼任教員等	
			教授	准教授	講師	助教	計	助手		
			人	人	人	人	人	人	人	
新設分	社会福祉学部　社会福祉学科		9 (9)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	146 (146)	
新設分	計		9 (9)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	－ (－)	
既設分	文学部	英文学科	7 (7)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	124 (124)	
既設分	文学部	心理・応用コミュニケーション学科	5 (7)	2 (2)	4 (2)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	111 (111)	
既設分	経済学部	経済学科	6 (8)	4 (4)	4 (2)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	110 (110)	
既設分	経済学部	経営情報学科	6 (7)	2 (2)	2 (1)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	111 (111)	
既設分	経済学部	経済法学科	6 (8)	2 (2)	3 (1)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	107 (107)	
既設分	社会福祉学部　心理学科		6 (6)	1 (1)	2 (2)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	114 (114)	令和４年４月 名称変更届出
既設分	社会福祉学部		3 (4)	0 (1)	0 (0)	1 (1)	4 (6)	0 (0)	172 (172)	
既設分	共通科目部門		8 (9)	2 (2)	3 (2)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	73 (73)	
既設分	言語教育部門		7 (7)	1 (1)	2 (2)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	54 (54)	
既設分	教職課程センター		3 (4)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	4 (4)	0 (0)	9 (9)	
既設分	計		57 (67)	18 (19)	21 (12)	1 (1)	97 (99)	0 (0)	－ (－)	
合計			66 (76)	21 (22)	22 (13)	1 (1)	110 (112)	0 (0)	－ (－)	

教員以外の職員の概要	職種	専任	兼任	計
		人	人	人
	事務職員	100 (100)	29 (29)	129 (129)
	技術職員	1 (1)	0 (0)	1 (1)
	図書館専門職員	6 (6)	3 (3)	9 (9)
	その他の職員	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	計	107 (107)	32 (32)	139 (139)

校地等	区分	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	
	校舎敷地	0 ㎡	70,350.21 ㎡	0 ㎡	70,350.21 ㎡	北星学園大学 短期大学部 (4,000 ㎡)
	運動場用地	0 ㎡	38,851.79 ㎡	0 ㎡	38,851.79 ㎡	
	小計	0 ㎡	109,202.00 ㎡	0 ㎡	109,202.00 ㎡	
	その他	0 ㎡	3,524.00 ㎡	0 ㎡	3,524.00 ㎡	
	合計	0 ㎡	112,726.00 ㎡	0 ㎡	112,726.00 ㎡	

校舎	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	
	0 ㎡ (0 ㎡)	47,636.47 ㎡ (47,636.47 ㎡)	0 ㎡ (0 ㎡)	47,636.47 ㎡ (47,636.47 ㎡)	北星学園大学 短期大学部 (4,150㎡)

教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	
	54 室	32 室	14 室	13 室 (補助職員 2 人)	4 室 (補助職員 1 人)	大学全体

専任教員研究室	新設学部等の名称	室数	
	社会福祉学部 社会福祉学科	13 室	

図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	
	社会福祉学部 社会福祉学科	98,408〔24,047〕 (92,020〔22,831〕)	83〔 11 〕 (83〔 11 〕)	10〔 10 〕 (10〔 10 〕)	1,137 (1,137)	－ (－)	－ (－)	大学全体での共用分 ・図書 529,047冊 〔うち外国書131,389冊〕 ・学術雑誌373種 〔うち外国書 61種〕 ・電子ｼﾞｬｰﾅﾙ、ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽ 132種 〔うち外国書 104種〕 ・視聴覚資料 10,156点
	計	98,408〔24,047〕 (92,020〔22,831〕)	83〔 11 〕 (83〔 11 〕)	10〔 10 〕 (10〔 10 〕)	1,137 (1,137)	－ (－)	－ (－)	

図書館	面積	閲覧座席数	収納可能冊数	
	5,109 ㎡	448	980,000	大学全体

体育館	面積	体育館以外のスポーツ施設の概要	
	5,657.11 ㎡	弓道場	66.24 ㎡

経費の見積及び維持方法の概要	区分	開設前年度	第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次	
経費の見積り	教員１人当り研究費等		500千円	500千円	500千円	500千円	－ 千円	－ 千円	教員１人当り研究費等については、このほかに大学院加算額、科研費加算額、傾斜配分額等が措置される。
	共同研究費等		1,000千円	1,000千円	1,000千円	1,000千円	－ 千円	－ 千円	
	図書購入費	－ 千円	2,090千円	3,740千円	5,710千円	6,030千円	－ 千円	－ 千円	開設前年度の図書購入費・設備購入費については、改組前の学科で経費を見積もっているため、積算しない。
	設備購入費	－ 千円	486千円	486千円	486千円	486千円	－ 千円	－ 千円	

学生１人当り納付金	第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次
	1,130千円	1,030千円	1,030千円	1,030千円	－ 千円	－ 千円

学生納付金以外の維持方法の概要	資産運用収入及び手数料収入等を充当する。

図書費には電子ジャーナル・データベースの整備費（運用コスト含む）を含む。

既設大学等の状況	大学の名称	北星学園大学							
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
		年	人	年次人	人		倍		
	文学部						1.08		北海道札幌市厚別区大谷地西２丁目３番１号
	英文学科	4	113	３年次 14	480	学士（英文学）	1.08	昭和37年度	
	心理・応用コミュニケーション学科	4	90	３年次 10	380	学士（心理・応用コミュニケーション学）	1.10	平成14年度	
	経済学部						1.09		
	経済学科	4	152	３年次 6	620	学士（経済学）	1.09	昭和40年度	
	経営情報学科	4	102	３年次 6	420	学士（経営情報学）	1.11	昭和62年度	
	経済法学科	4	110	３年次 10	460	学士（経済法学）	1.07	平成14年度	
	社会福祉学部						1.09		
	福祉計画学科	4	85	３年次 10	360	学士（福祉計画学）	1.11	平成8年度	
	福祉臨床学科	4	85	３年次 10	360	学士（福祉臨床学）	1.06	平成8年度	
	福祉心理学科	4	64	３年次 7	270	学士（福祉心理学）	1.13	平成8年度	
	大学の名称	北星学園大学大学院							
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
		年	人	年次人	人		倍		
	文学研究科								北海道札幌市厚別区大谷地西２丁目３番１号
	言語文化コミュニケーション専攻（修士課程）	2	8		16	修士（言語文化コミュニケーション）	0.18	平成13年度	
	経済学研究科								
	経済学専攻（修士課程）	2	10		20	修士（経済学）	0.35	平成13年度	
	社会福祉学研究科								
	社会福祉学専攻（修士課程）	2	8		16	修士（社会福祉学）	0.25	平成12年度	
	臨床心理学専攻（修士課程）	2	4		8	修士（心理学）	0.87	平成18年度	
	社会福祉学専攻（博士［後期］課程）	3	3		9	博士（社会福祉学）	0.11	平成12年度	
	大学の名称	北星学園大学短期大学部							
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
		年	人	年次人	人		倍		
	英文学科	2	120		240	短期大学士（英語）	0.81	昭和55年度	北海道札幌市厚別区大谷地西２丁目３番１号
	生活創造学科	2	80		160	短期大学士（生活学）	0.82	平成14年度	
	附属施設の概要	該当なし							

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（社会福祉学部社会福祉学科）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
専門科目	社会福祉学科目	基盤科目	社会福祉学入門	1前	2			○			9	3					オムニバス
			社会福祉の歴史と思想	1後	2			○			1						
			人間の発達と社会	1後	2			○			1						
			社会福祉と法	2前	2			○								兼1	
			社会福祉概説Ⅰ	1前	2			○			1						
			社会福祉概説Ⅱ	1後	2			○			1						
			ソーシャルワーク論の基盤と専門職〔共通〕	1前	2			○			1						メディア
			ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ〔共通〕	1前	2			○			1						メディア
			ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ〔共通〕	1後		2		○								兼1	メディア
			社会福祉基礎ゼミナールⅠ	1通	2				○		3	1				兼3	
			社会福祉基礎ゼミナールⅡ	2通	2				○		4					兼2	
			小計（11科目）	－	20	2	0		－		9	3	0	0	0	兼5	
		展開科目	社会福祉研究法Ⅰ	3前	2			○			1	2					オムニバス
			社会福祉研究法Ⅱ	3後		2		○								兼1	
			社会福祉専門ゼミナールⅠ	3前	2				○		9	3				兼1	
			社会福祉専門ゼミナールⅡ	3後	2				○		9	3				兼1	
			卒業研究	4通	4				○		9	3				兼1	
			小計（5科目）	－	10	2	0		－		9	3	0	0	0	兼2	
	社会福祉学関連科目	福祉デザイン関連科目	心理学と心理的支援	1後		2		○								兼1	
			地域福祉と包括的支援体制Ⅰ	2前		2		○								兼1	
			高齢者福祉論	2前		2		○				1					
			国際福祉論	2後		2		○			3					兼2	オムニバス
			社会福祉調査論	3前		2		○				1					
			福祉政策論	3前		2		○			1						
			現代の精神保健の課題と支援Ⅰ	3前		2		○								兼1	
			海外福祉実習	2通		4				○	1						
			災害と福祉	3前		1		○			1						
			小計（9科目）	－	0	19	0		－		4	1	0	0	0	兼5	
		社会教育関連科目	ジェンダー論	1前		2		○			1						
			生涯学習概論	1通		4		○								兼1	
			社会教育経営論Ⅰ	2前		2		○								兼1	
			社会教育経営論Ⅱ	2後		2		○								兼1	
			生涯学習支援論Ⅰ	2前		2		○								兼1	
			生涯学習支援論Ⅱ	2後		2		○								兼1	
			社会教育演習	4通		4			○							兼1	
			社会教育実習	2通		1				○						兼1	
			青少年問題と社会教育	3前		2		○								兼1	
			家庭教育と社会教育	2前		2		○								兼1	
			現代資本主義論	2後		2		○								兼1	
			日本経済論Ⅰ	3前		2		○								兼1	
			世界史	2前		4		○								兼1	
			地理学	2前		2		○								兼1	
			現代哲学	2後		2		○								兼1	
			地誌概説	2後		4		○								兼1	

専門科目	社会福祉学関連科目	社会教育関連科目	日本史Ⅰ〔前近代〕	2前		2		○								兼1	
			日本史Ⅱ〔近現代〕	2後		2		○								兼1	
			社会保障法	3前		2		○								兼1	
			小計（19科目）	－	0	45	0	－			1	0	0	0	0	兼9	
		福祉教育関連科目	社会学と社会システム	1後		2		○								兼1	メディア
			社会保障論Ⅰ	2前		2		○				1					
			福祉財政論	2前		2		○								兼1	
			障害者福祉論	2前		2		○			1						
			児童・家庭福祉論	2前		2		○			1						メディア
			知的障害者の心理	2前		2		○			1						
			肢体不自由者の心理	2前		2		○					1				
			病弱者の心理	2後		2		○								兼1	
			権利擁護を支える法制度	2後		2		○								兼1	
			司法福祉論	3前		2		○								兼1	
			障害児教育論	3前		2		○								兼1	
			スクールソーシャルワーク論	3後		2		○				1					
			スクールソーシャルワーク演習	4通		1			○			1					
			スクールソーシャルワーク実習	4通		3				○		1					
			スクールソーシャルワーク実習指導	4通		1		○				1					
			小計（15科目）	－	0	29	0	－			3	2	1	0	0	兼6	
	ソーシャルワーク科目	SW専門科目	医学概論	1後		2		○								兼1	
			公的扶助論	2後		2		○				1					
			社会保障論Ⅱ	2後		2		○								兼1	
			地域福祉と包括的支援体制Ⅱ	2後		2		○			1						
			社会福祉管理運営論	3前		2		○				1					
			保健医療と福祉	3前		2		○								兼1	
			ソーシャルワークの基盤と専門職〔専門〕	2前		2		○				1					メディア
			ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ〔専門〕	2前		2		○								兼1	
			ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ〔専門〕	2後		2		○								兼1	
			ソーシャルワーク演習〔共通〕	2前		2			○		3					兼1	
			ソーシャルワーク演習〔専門〕Ⅰ	2後		2			○		3					兼1	
			ソーシャルワーク演習〔専門〕Ⅱ	3前		4			○		3					兼1	
			ソーシャルワーク演習〔専門〕Ⅲ	3後		2			○		3					兼1	
			ソーシャルワーク入門実習	2後		2				○	3	2				兼1	
			ソーシャルワーク実習	3通		8				○	3	2				兼1	
			ソーシャルワーク実践論	2前		2		○								兼1	
			ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	2後		2		○			3	2				兼1	
			ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	3前		2		○			3	2				兼1	
			ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	3後		3		○			3	2				兼1	
			小計（19科目）	－	0	47	0	－			6	3	0	0	0	兼6	
		SW展開科目	精神保健ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	2前		2		○			1						
			精神保健ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ	2後		2		○				1					
			精神医学と精神医療Ⅰ	3前		2		○								兼1	
			精神医学と精神医療Ⅱ	3後		2		○								兼1	
			現代の精神保健の課題と支援Ⅱ	3後		2		○								兼1	
			精神保健福祉の原理Ⅰ	2後		2		○			1						
			精神保健福祉の原理Ⅱ	3前		2		○			1						
			精神障害者リハビリテーション論	4前		2		○								兼1	
			精神保健福祉制度論	3後		2		○			1						
			ソーシャルワーク演習Ⅰ〔精神〕	3後		2			○		2						
			ソーシャルワーク演習Ⅱ〔精神〕	4後		2			○		2						
			ソーシャルワーク実習〔精神〕	4通		7				○	2	1					
			ソーシャルワーク実習指導Ⅰ〔精神〕	3後		2		○			2						
			ソーシャルワーク実習指導Ⅱ〔精神〕	4通		4		○			2	1					
			総合演習Ⅰ	4前		2			○		4	1				兼3	オムニバス
			総合演習Ⅱ	4後		2			○		5	2					オムニバス
			小計（16科目）	－	0	39	0	－			9	3	0	0	0	兼6	

専門科目	地域デザイン専門科目		地域デザイン論	1前		2		○			1						
			地方自治論	3後		2		○								兼1	
			地域デザイン実習	3通		4				○		1					
			ソーシャル･ビジネス論	2後		2		○								兼1	
			ソーシャル・マネジメント論	3前		2		○								兼1	
			医療経済学	2後		2		○								兼1	
			労働法	3前		2		○								兼1	
			行政法	3後		2		○								兼1	
			社会調査方法論	1後		2		○								兼1	
			小計（9科目）	―	0	20	0	―			1	1	0	0	0	兼7	
	教育科目	教育専門科目	倫理学	1後		2		○			2						ｷｬﾝﾊﾟｽ・共同（一部）
			憲法Ⅰ〔人権〕	1後		4		○								兼1	
			憲法Ⅱ〔統治機構〕	2前		4		○								兼1	
			現代社会学	2前		2		○								兼1	
			国際政治学	2前		2		○								兼1	
			宗教学	2前		2		○								兼1	
			現代政治学	2後		2		○								兼1	
			社会思想史	3前		2		○								兼1	
			国際経済学Ⅰ	3前		2		○								兼1	
			法学概論	2前		2		○								兼1	
			小計（10科目）	―	0	24	0	―			2	0	0	0	0	兼7	
		特別支援教育専門科目	知的障害者の病理保健	3前		2		○								兼1	
			肢体不自由者の病理保健	3後		2		○								兼1	
			病弱者の病理保健	3後		2		○								兼1	
			知的障害教育方法論Ⅰ	2前		2		○					1				
			知的障害教育方法論Ⅱ	2後		2		○					1				
			病弱教育方法論	2前		2		○								兼1	
			重複障害・ＬＤ等教育論	2前		2		○								兼1	
			肢体不自由教育方法論	2後		2		○					1				
			視覚障害教育論	3前		2		○								兼1	
			聴覚障害教育論	3後		2		○								兼1	
			障害児教育実習	3通		3				○			1			兼1	
			小計（11科目）	―	0	23	0	―			0	0	1	0	0	兼7	
大学共通科目	人間科学		健康管理学	1前		2		○								兼1	
			身体の科学Ⅰ	1前		2		○								兼1	
			身体の科学Ⅱ	1後		2		○								兼1	
			スポーツ医学	2後		2		○								兼1	
			スポーツ生理学	2前		2		○								兼1	
			スポーツ栄養学	2後		2		○								兼1	
			スポーツ科学	2前		2		○								兼1	集中
			体力育成論	2後		2		○								兼1	
			体育実技Ⅰ	1通		2				○						兼8	
			体育実技Ⅱ	2通		2				○						兼8	
			生涯スポーツⅠ	3通		2				○						兼1	
			生涯スポーツⅡ	4通		2				○						兼1	
			スポーツ指導論	2前		2		○								兼1	
			健康体力論	1後		2		○								兼1	
			人間科学演習Ⅰ	3前		2			○							兼1	
			人間科学演習Ⅱ	3後		2			○							兼1	
			小計（16科目）	―	0	32	0	―			0	0	0	0	0	兼9	
	人文科学		哲学Ⅰ	1前		2		○								兼1	
			哲学Ⅱ	1後		2		○								兼1	
			心理学Ⅰ	1前		2		○								兼3	
			心理学Ⅱ	1後		2		○								兼1	
			現代社会と倫理	1前		2		○								兼1	
			音楽の世界	1前		2		○								兼1	
			美術の世界	1後		2		○								兼1	
			文学の世界Ⅰ	1前		2		○								兼1	
			文学の世界Ⅱ	1後		2		○								兼1	
			文化人類学	1後		2		○								兼1	

大学共通科目	人文科学	比較宗教学	1後		2		○								兼1	
		イスラム教の思想と文化	1前		2		○								兼1	
		人文科学基礎演習Ⅰ	1前		2			○							兼1	
		人文科学基礎演習Ⅱ	1後		2			○							兼1	
		小計（14科目）	－	0	28	0	－			0	0	0	0	0	兼11	
	自然・数理科学	科学と人間	1後		2		○								兼1	
		物質の世界	1前		2		○								兼1	
		生命の科学Ⅰ	1前		2		○								兼1	
		生命の科学Ⅱ	1後		2		○								兼1	
		環境と人間Ⅰ	1前		2		○								兼1	
		環境と人間Ⅱ	1後		2		○								兼1	
		統計学Ⅰ	1前		2		○								兼1	
		統計学Ⅱ	1後		2		○								兼1	
		数学Ⅰ	1前		2		○								兼1	
		数学Ⅱ	1後		2		○								兼1	
		自然・数理科学基礎演習Ⅰ	1前		2			○							兼1	
		自然・数理科学基礎演習Ⅱ	1後		2			○							兼1	
		小計（12科目）	－	0	24	0	－			0	0	0	0	0	兼5	
	社会科学	日本国憲法	1前		2		○								兼2	
		法学	1後		2		○								兼1	
		世界の近現代史Ⅰ	1前		2		○								兼1	
		世界の近現代史Ⅱ	1後		2		○								兼1	
		政治学Ⅰ	1前		2		○								兼1	
		政治学Ⅱ	1後		2		○								兼1	
		経済学Ⅰ	1前		2		○								兼1	
		経済学Ⅱ	1後		2		○								兼1	
		社会学Ⅰ	1前		2		○								兼1	
		社会学Ⅱ	1後		2		○								兼1	
		ジェンダーと社会	1後		2		○								兼1	
		平和学	1前		2		○								兼1	
		社会科学基礎演習Ⅰ	1前		2			○							兼1	
		社会科学基礎演習Ⅱ	1後		2			○							兼1	
		小計（14科目）	－	0	28	0	－			0	0	0	0	0	兼12	
	地域と世界	北海道・北方地域文化論Ⅰ	1前		2		○								兼1	
		北海道・北方地域文化論Ⅱ	1後		2		○								兼1	
		日本の文化Ⅰ	1前		2		○								兼1	
		日本の文化Ⅱ	1後		2		○								兼1	
		中国の文化	1前		2		○								兼1	
		韓国・朝鮮の文化	1前		2		○								兼1	
		アメリカの文化	1前		2		○								兼1	
		ヨーロッパの文化	1前		2		○								兼1	
		国際・比較文化論	1前		2		○								兼1	
		地域と世界基礎演習Ⅰ	1前		2			○							兼1	
		地域と世界基礎演習Ⅱ	1後		2			○							兼1	
		小計（11科目）	－	0	22	0	－			0	0	0	0	0	兼7	
	キリスト教学	キリスト教文化入門Ⅰ	1前	2			○								兼1	
		キリスト教文化入門Ⅱ	1後	2			○								兼1	
		聖書入門Ⅰ	2前		2		○								兼1	
		聖書入門Ⅱ	2後		2		○								兼1	
		キリスト教史Ⅰ	2前		2		○								兼1	
		キリスト教史Ⅱ	2後		2		○								兼1	
		聖書講読Ⅰ	3前		2		○								兼1	
		聖書講読Ⅱ	3後		2		○								兼1	
		キリスト教学演習Ⅰ	3前		2			○							兼1	
		キリスト教学演習Ⅱ	3後		2			○							兼1	
		小計（10科目）	－	4	16	0	－			0	0	0	0	0	兼1	

大学共通科目	キャリア支援	キャリア教育科目	職業と人生	2前		2		○								兼1	
			小計（1科目）	－	0	2	0	－			0	0	0	0	0	兼1	
		日本語科目	日本語表現Ⅰ	1前	2			○								兼7	
			日本語表現Ⅱ	1後	2			○								兼7	
			小計（2科目）	－	4	0	0	－			0	0	0	0	0	兼7	
		情報科目	情報入門	1前	2			○								兼6	
			情報活用	1後	2			○								兼8	
			小計（2科目）	－	4	0	0	－			0	0	0	0	0	兼8	
	外国語	英語	英語Ⅰ	1前		2		○								兼9	
			英語Ⅱ	1後		2		○								兼9	
			英語Ⅲ	2前		2		○								兼11	
			英語Ⅳ	2後		2		○								兼11	
			小計（4科目）	－	0	8	0	－			0	0	0	0	0	兼15	
		ドイツ語	ﾄﾞｲﾂ語Ⅰ	1前		2		○								兼2	
			ﾄﾞｲﾂ語Ⅱ	1後		2		○								兼2	
			ﾄﾞｲﾂ語Ⅲ	2前		2		○								兼2	
			ﾄﾞｲﾂ語Ⅳ	2後		2		○								兼2	
			小計（4科目）	－	0	8	0	－			0	0	0	0	0	兼3	
		フランス語	ﾌﾗﾝｽ語Ⅰ	1前		2		○								兼2	
			ﾌﾗﾝｽ語Ⅱ	1後		2		○								兼2	
			ﾌﾗﾝｽ語Ⅲ	2前		2		○								兼2	
			ﾌﾗﾝｽ語Ⅳ	2後		2		○								兼2	
			小計（4科目）	－	0	8	0	－			0	0	0	0	0	兼4	
		中国語	中国語Ⅰ	1前		2		○								兼2	
			中国語Ⅱ	1後		2		○								兼2	
			中国語Ⅲ	2前		2		○								兼2	
			中国語Ⅳ	2後		2		○								兼2	
			小計（4科目）	－	0	8	0	－			0	0	0	0	0	兼3	
		韓国語	韓国語Ⅰ	1前		2		○								兼4	
			韓国語Ⅱ	1後		2		○								兼4	
			韓国語Ⅲ	2前		2		○								兼4	
			韓国語Ⅳ	2後		2		○								兼4	
			小計（4科目）	－	0	8	0	－			0	0	0	0	0	兼6	
		英語	英語と文化	2後		2			○							兼2	
			海外事情（英語）	2後		2				○						兼2	
			上級英語Ⅰ	3前		2			○							兼1	
			上級英語Ⅱ	3後		2			○							兼1	
			外国語演習Ⅰ（英語）	4前		2			○							兼1	
			外国語演習Ⅱ（英語）	4後		2			○							兼1	
			小計（6科目）	－	0	12	0	－			0	0	0	0	0	兼3	
		ドイツ語	ﾄﾞｲﾂ語と文化	2前		2			○							兼1	
			海外事情（ドイツ語）	2後		2				○						兼1	
			上級ﾄﾞｲﾂ語Ⅰ	3前		2			○							兼1	
			上級ﾄﾞｲﾂ語Ⅱ	3後		2			○							兼1	
			外国語演習Ⅰ（ﾄﾞｲﾂ語）	4前		2			○							兼1	
			外国語演習Ⅱ（ﾄﾞｲﾂ語）	4後		2			○							兼1	
			小計（6科目）	－	0	12	0	－			0	0	0	0	0	兼2	
		フランス語	ﾌﾗﾝｽ語と文化	2前		2			○							兼1	
			海外事情（フランス語）	2後		2				○						兼1	
			上級ﾌﾗﾝｽ語Ⅰ	3前		2			○							兼1	
			上級ﾌﾗﾝｽ語Ⅱ	3後		2			○							兼1	
			外国語演習Ⅰ（ﾌﾗﾝｽ語）	4前		2			○							兼1	
			外国語演習Ⅱ（ﾌﾗﾝｽ語）	4後		2			○							兼1	
			小計（6科目）	－	0	12	0	－			0	0	0	0	0	兼1	

大学共通科目	外国語	中国語	中国語と文化	2前		2			○							兼1	
			海外事情（中国語）	2前		2				○						兼1	
			上級中国語Ⅰ	3前		2			○							兼1	
			上級中国語Ⅱ	3後		2			○							兼1	
			外国語演習Ⅰ（中国語）	4前		2			○							兼1	
			外国語演習Ⅱ（中国語）	4前		2			○							兼1	
			小計（6科目）	－	0	12	0	－			0	0	0	0	0	兼1	
		韓国語	韓国語と文化	2前		2			○							兼1	
			海外事情（韓国語）	2前		2				○						兼1	
			上級韓国語Ⅰ	3前		2			○							兼1	
			上級韓国語Ⅱ	3後		2			○							兼1	
			外国語演習Ⅰ（韓国語）	4前		2			○							兼1	
			外国語演習Ⅱ（韓国語）	4後		2			○							兼1	
			小計（6科目）	－	0	12	0	－			0	0	0	0	0	兼1	
国際交流関係科目	国際交流コース		日本の文学〔国際〕	3前・後		2		○								兼1	
			日本のサブカルチャー	1前・後		2		○								兼1	
			日本の歴史〔国際〕	1前・後		2		○								兼1	
			日本の社会〔国際〕	1前・後		2		○								兼1	
			日本社会における言語とジェンダー〔国際〕	1前・後		2		○								兼1	
			日本の金融と経済〔国際〕	1前・後		2		○								兼1	
			マネジメント論〔国際〕	1前・後		2		○								兼1	
			日本の文化〔国際〕	3前・後		2		○								兼1	
			国際経済〔国際〕	1前・後		2		○								兼1	
			日米（経済）関係〔国際〕	1前・後		2		○								兼1	
			日欧（経済）関係〔国際〕	1前・後		2		○								兼1	
			比較文化〔国際〕	1前・後		2		○								兼1	
			日韓比較文化論	1前・後		2		○								兼1	
			メディア論〔国際〕	1前・後		2		○								兼1	
			コミュニケーション論〔国際〕	1前・後		2		○								兼1	
			環境経済	1前・後		2		○								兼1	
			国際交流特別講義	1前・後		2		○								兼2	
			日本語教授法Ⅰ	2前		2		○								兼1	
			日本語教授法Ⅱ	2後		2		○								兼1	
			日本語教授法Ⅲ	3前		2		○								兼1	
			Academic Skills for Study Abroad	2前・後		2		○								兼1	
			小計（21科目）	－	0	42	0	－			0	0	0	0	0	兼16	
合計（277科目）				－	42	544	0	－			9	3	1	0	0	兼146	

学位又は称号	学士（社会福祉学）	学位又は学科の分野	社会学・社会福祉学関係

卒　業　要　件　及　び　履　修　方　法	授業期間等	
卒業に必要な単位数は124単位である。卒業要件及び履修方法の詳細は、以下の通りである。 学科専門科目から合計74単位以上修得すること。⑴「社会福祉学科目」の「基盤科目」から必修20単位と、「展開科目」から必修10単位を修得すること。⑵「社会福祉学関連科目」の「福祉デザイン関連科目」「社会教育関連科目」「福祉教育関連科目」から各２単位以上を修得すること。⑶上記で修得していない「社会福祉学科目」「社会福祉学関連科目」の科目の中からと「ソーシャルワーク科目」「地域デザイン専門科目」「教育科目」の科目の中から38単位を修得すること。 大学共通科目は、⑴「人間科学」「人文科学」「自然・数理科学」「社会科学」「地域と世界」から各2単位以上を修得すること。また、「キリスト教学」から必修４単位を修得すること。⑵「キャリア支援」の「日本語科目」から必修4単位、「情報科目」から必修４単位を修得すること。⑶「外国語」の英語Ⅰ～Ⅳ、ドイツ語Ⅰ～Ⅳ、フランス語Ⅰ～Ⅳ、中国語Ⅰ～Ⅳ、韓国語Ⅰ～Ⅳのいずれか4科目8単位を修得すること。⑷ ⑴ ～ ⑶ までの上記で修得すべき単位30単位以外に８単位以上を修得すること。 「大学共通科目」及び「社会福祉学科目」「社会福祉学関連科目」「ソーシャルワーク科目」「地域デザイン専門科目」「教育科目」で修得すべき単位112単位以外に必要となる12単位は、上記の修得すべき単位112単位として修得した授業科目以外の「大学共通科目」「学科専門教育科目」「社会福祉学部他学科専門教育科目」「他学部他学科専門教育科目」「国際交流関係科目」から算入できる。ただし、「他学部他学科専門教育科目」「国際交流関係科目」から算入できるのは8単位までである。 （履修科目の登録の上限：48単位（年間））	１学年の学期区分	2学期
	１学期の授業期間	15週
	１時限の授業時間	90分

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（社会福祉学部社会福祉学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	社会福祉学科目	基盤科目	社会福祉学入門	本科目は講義形式で行われる（複数教員によるオムニバス）。１年次導入科目として、社会福祉学の概要（歴史・理念・価値・目的・分野・ソーシャルワークなど）について理解することを目的とする。内容として、社会福祉学成立の経緯、社会福祉学の依拠する価値・理念・哲学、目的概念と実体概念、対象領域、ソーシャルワークの領域と技術について入門的に講義し、統合的な理解を可能にすることを目指す。 （オムニバス方式／全15回） （3　佐橋克彦／4回） 「オリエンテーション」「日本の社会福祉制度の概要」「日本の社会福祉の特徴」「振り返りとまとめ」について （1　K.U.ネンシュティール／1回） 「社会福祉の国際比較入門」について （2　岡田直人／1回） 「地域福祉における課題と取り組み」について （4　伊藤新一郎／1回） 「日本の社会福祉の特質」について （10　松岡是伸／1回） 「なぜ、福祉は恥ずかしいのか―社会福祉におけるスティグマ問題-」について （8　栗山隆／1回） 「児童福祉をめぐる諸問題」について （6　田中耕一郎／1回） 「障害学入門」について （7　中村和彦／1回） 「ソーシャルワークと人間」について （9　永井順子／1回） 「精神保健入門」について （5　西田充潔／1回） 「人間発達入門」について （12　大友秀治／1回） 「スクールソーシャルワーク入門」について （11　畑亮輔　／1回） 「高齢化と日本社会」について	オムニバス
			社会福祉の歴史と思想	本科目は講義形式で行われる。初年次開講の科目であることも踏まえ、社会福祉の歴史と思想に関する基礎的内容を理解することを目的とする。現代における社会福祉の政策・運営・実践を理解するためには、社会福祉の歴史と思想に関する学習が不可欠である。本科目では、特に近代以降の日本に焦点を当てながら、慈善・博愛事業、社会事業、社会福祉への歴史的変遷とそれに係る思想的系譜について、影響を与えた国内外の人物も紹介しつつ、社会福祉学の専門的な学びの基盤となる知識を獲得することを目指す。	
			人間の発達と社会	本科目は講義形式で実施する。人間の生涯発達及びそこにおける社会・環境との相互作用について理解することがねらいである。内容としては、社会的存在としての人間について、その発達の概念について、乳幼児期から青年期までのこども期と成人期・高齢期の各段階における発達的課題とその特徴、それら各段階における社会的役割が持つ意義とその変化、人的・社会的環境との相互作用が人間の生活状態にどのように影響するのかを理解することが目的である。講義の展開においては、各段階における具体的な人間像をイメージするための事例や、逸話的エピソードを交えながら解説をし、その後の社会福祉・教育の専門職、そして社会実践的な活動を担う上での対象となる人間の発達と、それが持つ社会との関係性を理解することが目的である。	
			社会福祉と法	本科目は講義形式で行われる。法の本質的理解から始まり社会保障と生存権の関係についてまず理解する。ついで社会保障・社会福祉各法の内容について理解することを目的とする。内容として、社会保障の基盤と機能の理解、戦前から近年に至るまでの社会保障法制度の史的展開、法体系としての社会保障、傷病給付、労働災害・失業給付、老齢・障害・死亡給付、児童給付各法、社会福祉法及び社会福祉六法を中心とした法体系の理解、受給権の保護について理解することを目的とする。	

専門科目	社会福祉学科目	基盤科目	社会福祉概説Ⅰ	本科目は講義形式で行われる。グローバルな視点に立ち、人間の尊厳の根拠を探るべく、多様性の観点から社会福祉の現代的課題と基本的考え方について理解する。社会福祉の史的展開（欧米および日本）とその特徴、社会福祉の思想と哲学、理論について国内外のものを参考に理解を深める。そのうえで、現代的課題としての福祉多元化の問題、普遍主義化についての理解、ニーズの把握方法などについても理解する。さらには現代的な社会問題としての社会的孤立や偏見・差別問題などを取り上げ、構造的背景と併せて理解できるようになることを目的とする。	
			社会福祉概説Ⅱ	本科目は講義形式で行われる。目的として福祉政策の基本的視点とカギとなる概念である「自由－平等」や「自立－依存」といった関係の整理の中から福祉政策の構成要素、福祉政策の動向と課題及び関連諸施策、利用（供給）過程について理解する。内容として、福祉政策の概念とニーズの関係、資源の考え方、福祉政策におけるPDCAサイクルの考え方、地域包括ケアの考え方、関連諸施策との関係、福祉供給（利用）過程の具体像について学修する。	
			ソーシャルワーク論の基盤と専門職〔共通〕	本科目は遠隔授業（Eラーニング）の形式で、ソーシャルワーク実践のイメージ形成と知識を身につけ基本的枠組みの理解と説明が出来ることを到達目標とする。つまり、①社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけについて理解する、②ソーシャルワークの基盤となる考え方とその形成過程について理解する、③ソーシャルワークの価値規範と倫理について理解することであり、ソーシャルワーカー像を形成し、ソーシャルワーク論への関心を高めるところをねらいとする。そのため、①社会福祉士・精神保健福祉士法の成立過程と定義、②社会福祉サービスと援助活動の関係と範囲、専門援助技術、③専門援助技術の体系と内容、④ソーシャルワークの基盤となる実践内容や形成過程、⑤実践の前提となる社会福祉援助の目的･価値･倫理、⑥福祉援助の臨床を理解する、という内容を概説し展開する。	
			ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ〔共通〕	本科目は遠隔授業（Eラーニング）形式により展開し、ソーシャルワーク（以下、SW）の展開過程において必要とされる理論、知識、スキルを身につけると同時に、実際の場面においてそれらを応用し実践することができるようになることを目標とする。具体的には、①SWの展開Ⅰ（ケース発見、受理面接、問題把握からニーズ確定、ニーズ確定からアセスメント、アセスメントから　支援標的・目標設定、支援標的・目標設定から支援計画、支援計画から支援実施）、②SWの展開過程Ⅱ（経過観察、再アセスメントと支援強化、支援の終結と効果測定、評価、アフターケア、予防的対応とサービス開発）、③SWのためのアウトリーチ技術、④SWのための契約技術、⑤SWのためのアセスメント技術、⑥SWのための介入技術、⑦SWのための経過観察、再アセスメント、効果測定、評価の技術、⑧SWのための面接の技術、⑨SWのための交渉の技術、などを学ぶ。	
			ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ〔共通〕	本科目は遠隔授業（Eラーニング）形式により展開し、相談援助の方法に関する種々の基本的な理論、知識、スキルについて身に着けると同時に、それらを相談援助の実際の場面において応用し、自信をもって実践できるようになることを目標にする。つまり、相談援助の理論とスキルについて学習することを目的としている。本科目の内容としては、集団援助技術の活用や、プレゼンテーション技術、ケースマネジメントとケアマネジメント、相談援助における社会資源の活用・調査・開発、チームアプローチとネットワーキング、コーディネーション、ケースカンファレンスの技術、事例分析と事例研究、事例研究の実際、異文化ソーシャルワーク、相談援助の実際等である。	
			社会福祉基礎ゼミナールⅠ	本科目は演習科目である。ゼミごとに分かれ、１年次通年で配当することにより導入教育及び専門的な学修の基礎を獲得することを目的とする。文献検索の方法、読み込み方、記述方法、プレゼンテーション能力の涵養を通じて今後の学びの基礎とする。とりわけ、大学での学びに必要な基本的なリテラシーを身につけ、基本的な研究倫理を実践できるよう指導を行う。演習科目であるので、当然に学生同士の交流・学生と教員の交流を深めることによって以後の学習意欲の向上にもつなげる。	
			社会福祉基礎ゼミナールⅡ	本科目は演習科目である。ゼミごとに分かれ、２年次通年で配当することにより、より専門的な学修方法の獲得を目的とする。文献検索の方法、読み込み方、記述方法、プレゼンテーション能力の涵養を通じてさらなる学びの基礎とする。とりわけ、社会問題・福祉ニーズの発見、理解、解決方法の検討などを行えるようになることを目的とする。演習科目であるので、当然に学生同士の交流・学生と教員の交流を深めることによって以後の学習意欲の向上にもつなげる。	

専門科目	社会福祉学科目	展開科目	社会福祉研究法Ⅰ	本科目は講義科目である。社会福祉に関する学問や実践に必要となる研究方法の基本について理解することを目的とする。研究を行う上では、先行研究による知見の蓄積を踏まえ、まだ明らかになっていない課題を明確化した上で研究目的を設定し、その目的を達成するために適切な研究方法を採用することが重要になる。そこで講義では、先行研究をレビューするための文献検索の方法、研究目的を踏まえた様々な研究方法、質的研究と量的研究の基本的な実施方法などについて、講義としての説明と演習的な取り組みも含めつつ体系的に学んでいく。 （オムニバス方式／全15回） （11　畑亮輔　／7回） 研究法の基本、研究計画書の作成方法、量的研究方法について （4　伊藤新一郎／3回） 文献検索・文献レビュー・文献研究の方法について （10　松岡是伸／5回） 質的研究方法、研究法の総括について	オムニバス
			社会福祉研究法Ⅱ	本科目は、講義形式で行われる。社会福祉に関する展開的な研究法について（１）文献研究、（２）質的研究法、（３）量的研究法の側面からの理解することで、レポートや卒業論文の執筆につながる研究力の向上を目標とする。（１）文献研究に関しては、文献を用いた研究論文を事例に、文献検索の方法、複数の文献の活用法、論文としてのまとめ方について検討する。（２）と（３）の質的研究法・量的研究法については、具体的な論文を事例にして質的研究・量的研究の方法を批判的に考察し、各自の研究・執筆に活かす方法について検討する。これらは、学生参加を促すためグループワークなどを活用する。	
			社会福祉専門ゼミナールⅠ	本科目はゼミ毎に分かれて、演習形式で行われる。各種福祉・教育・地域デザインなどに関するテーマについて、実践や研究における現状と課題の理解・考察を深めることを目標とする。また、それらを通して各自の問題意識を明確化し、自らの関心のある研究テーマの探索を進めることも目的とする。そのため、各ゼミでは、各実践と研究における現状と課題を理解するために文献講読を進め、自らの問題意識を明確化し、先行研究との関連性を考察し報告する。また、他者との討議を通して、問題意識と関心を広げ、研究報告書などをまとめていく。	
			社会福祉専門ゼミナールⅡ	本科目はゼミ毎に分かれて、演習形式で行われる。各種福祉・教育・地域デザインなどに関するテーマについて、実践や研究における現状と課題の理解・考察を深めることを目標とする。また、それらを通して各自の問題意識を明確化し、次年度の卒業研究に向けて研究テーマの探索を深めることも目的とする。そのため、各ゼミでは、各実践と研究における現状と課題を理解するために文献講読を進め、自らの問題意識を明確化し、先行研究との関連性を考察し報告する。また、他者との討議を通して、問題意識と関心を広げ、研究計画書などを作成する。	
			卒業研究	本科目は卒業必修単位であり、学生個々人が実践的・研究的活動を行う演習（ゼミナール）形式である。学科所属の全教員が担当し、学生少人数の指導体制となる。指導は「社会福祉専門ゼミナールⅠ・Ⅱ」と連動し、原則的にはそれら科目と同一の指導教員によるグループ指導・個別指導が行われる。学生は大学４年間の学びの集大成としての活動を行い、活動の成果は「卒業論文」「自由研究課題」「実習報告書」のいずれかを選択し、学生が自ら設定する活動テーマに即して執筆や発表が行われる。	
	社会福祉学関連科目	福祉デザイン関連科目	心理学と心理的支援	本科目は講義形式で行われる。科学的な心理学の理論、および心の問題への支援に関する基礎的知識について学ぶことが目的である。到達目標は、以下の内容について理解し、専門用語を説明可能になることである。①人の心の基本的な仕組みと機能や、環境との相互作用の中で生じる心理的反応、②人の成長・発達段階の各期に特有な心理的課題、③日常生活と心の健康との関係、④心理アセスメントの方法と支援。上記の目標を達成するために、この授業では、まず、科学的な心理学として、感情、感覚、学習、認知、性格、人と環境、生涯発達、適応、健康生成論などの分野の理論について学ぶ。その後、心理的支援として、心理アセスメント、心理療法などについて学ぶ。	

専門科目	社会福祉学関連科目	福祉デザイン関連科目	地域福祉と包括的支援体制Ⅰ	本科目は講義形式で行う。目的として、地域福祉の基本的理解を目指す。多様な地域福祉の概念を整理しつつ、地域福祉の展開過程を学習し、現代的な意味での地域福祉（共生社会など）の動向の理解を深める。また多様化・複雑化した地域生活課題の現状を踏まえ、その解決に向けた地域福祉の主体、対象等の理解から地域を基盤としたソーシャルワークと切れ目のない支援体制の構築について学修することを内容とする。	
			高齢者福祉論	本科目は講義科目である。加齢に伴う個人の変化と、超高齢社会の到来という社会の変化について、それぞれの変遷をたどりながら概要を説明し、高齢者を支えるためのケアの現状と課題、また高齢社会を支えるための社会システム（高齢者福祉施策）の現状と課題について理解することを目的とする。内容として、単に各法律や制度に基づいた機関・施設・専門職について理解するだけではなく、どのような社会変化の中でそれらの法律・制度が必要となってきたのか、現在どのような役割を果たしているのか、今後どのような課題があるのかということを体系的に理解するための講義を展開する。	
			国際福祉論	この科目は複数教員による講義科目である。福祉の国際教育の一環として位置づけられる。外国の福祉に関する知識を獲得することによって福祉に関する考え方を広げたり、日本の福祉を相対化したり、また、何よりも外国と日本の福祉の関連性を明らかにし意識させたりすることを目的とする。日本に視野を絞る限り殆ど意識されない問題や様々な選択肢に気がついたり、普段はあまり接しない多くの情報を得たりする機会となる。それを基に学生自身が自分なりに様々な条件を比べる能力を身につけることが可能となる。またその中で特に、社会福祉の具体的な問題の解決策だけではなく、その問題の背景・根源にある社会構造、政策、社会観念及びグローバルな関連性についての理解を深める。国により異なる福祉の課題や基本的な考え方･価値観、背景となった歴史などの学習を含む。 （オムニバス方式／全15回） （1　K.U.ネンシュティール／3回） 「キータームの説明」「社会福祉とSDGｓ」「SDGｓの実現と福祉の現状･課題」について （4　伊藤新一郎／3回） 「福祉政策における国際比較とは」「国際比較の理論的視角とその批判」「国際比較からみる先進諸国の動向」について （3　佐橋克彦／3回） 「イギリスにおける福祉国家の成立と展開」「福祉サービスの質評価の日英比較（１）（２）」について （15　安部雅仁／3回） 「医療制度の日米比較」「アメリカの医療保障における問題点」「アメリカの医療保障における改革の方向」について （76　銭本隆行／3回） 「デンマークの自己決定にもとづいた社会」「デンマークの自己決定にもとづいた教育と社会保障」「デンマークの自己決定にもとづいた社会の裏表」について	オムニバス
			社会福祉調査論	本科目は講義科目である。社会福祉のための調査の基礎的な方法を学ぶことを目的とする。社会調査は、社会学の下位分野の一つとして社会の現状を把握したり予測するためのデータを収集するために発展してきた。本科目では、社会調査の歴史、社会福祉と社会調査の歴史的関係性、社会調査における倫理、量的調査の方法、質的調査の方法について触れるとともに、統計学の基礎的な知識をもカバーする。それらにより、社会調査が存在する意義や、それが研究や福祉に関する実践にどのように利用可能であるか（ソーシャルワーク実践の評価における社会調査の活用等）を理解することを内容とする。	
			福祉政策論	本科目は講義形式で行われる。現代における福祉政策の基本的視点（とその背景）、動向及び課題について理解することを目的とする。主に戦後の日本に関する内容を扱うが、その前提として国内外の福祉国家研究・社会政策研究の知見を踏まえた理論的・政策論的な内容を前半で展開する。その上で、福祉と他分野・領域との連関性を意識しながら、具体的に児童家庭、高齢、障害、生活困窮、外国人に係る福祉政策の現状と課題を取り上げ、今後のあるべき政策の方向性を考える。	

専門科目	社会福祉学関連科目	福祉デザイン関連科目	現代の精神保健の課題と支援Ⅰ	本科目は講義形式で行われ、①精神健康の維持とストレスの関係について基礎知識を得て、説明できるようになる、②家族、学校、職場の各場面の精神健康の課題の基礎知識を得て、説明できるようになる、ことを目標とする。まず、精神保健学は、精神疾患の原因や治療に関するものに限定されず、広く精神健康の維持、増進にかかわる問題を扱う領域であること、精神保健活動の対象は、精神障害者や家族に限定されず、地域住民全体がその対象であることを学習する。そのうえで、精神保健に関する知識と、精神健康を維持するために有効な考え方や対応策について学習するが、とくに家族、学校、職場という視点で、各場面での精神発達上の課題や遭遇しやすいストレスについて講義する。	
			海外福祉実習	この科目は実習形式で行う。この授業では、１年間を通じて海外の福祉先進国のうち１国に焦点を当て、その国の福祉実践と地域共創の実践例について学ぶことを目的とする。この授業では、夏休みを利用して福祉先進国を実地視察し、現地の福祉に関して総合的に学ぶ。そのため、実地視察をはさんで、前期に事前学習（その国の概要、福祉に関する法律・制度・サービス・利用者・支援者・地域、地域共創）、後期に事後学習（実地視察のまとめ）を行う。事後学習の総まとめとして、報告書を作成する。	
			災害と福祉	この科目は講義形式で行う。この授業では、日本の気候や地学的条件により引き起こされる自然災害を理解し、古代から現代まで福祉的救援・支援がどのように行われてきたのかを理解することを目的とする。日本は台風、地震等の自然災害が多い国である。そもそもなぜ自然災害が多い国なのかを理解することで、その備えについて考えることができる。そして、発災後には、どのように救援・支援が行われてきたのかを学ぶ。特に、阪神淡路大震災、新潟県中越地震、東日本大震災における福祉的支援活動について取り上げる。また、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)がもたらした災いと福祉について取り上げる。	
		社会教育関連科目	ジェンダー論	本科目は講義科目である。ジェンダーの視野から「生きづらさ」を問うことを目的とする。いわゆる「性的マイノリティ―」に属するLGBTIQに限らず、性別役割意識の縛りを（多かれ少なかれ）不愉快に感じる人は非常に多い。私たちの社会、その秩序、規範や価値観、意識的・無意識的な期待は、密接に「ジェンダー」と結びついている。残念ながら社会福祉の分野もその例外ではない。とくに性別役割分業に着目し、本講義では、鍵概念（キータ―ム）を説明した上で、まず福岡女性学研究会が編集した書籍の「性別役割分業は暴力である」という主張の中身や根拠を検討する。様々な分野（例えば、家族、職場、学校等）で性別役割分業が生み出している条件を具体的なデータによって明らかにし、ジェンダーと性別役割分業との関連性を検討し、海外の様々な国の条件とも比較する。それによって「性別役割分業は暴力である」と言える理由を明白にし、その背景にあるジェンダー意識を変える方法を考える。	
			生涯学習概論	本科目は講義科目である。人生は学びの連続であり、生涯学習とは、端的には「一生涯の学習」である。学校での学びが学習の全てではない。おもに、公民館、生涯学習センター、図書館、博物館等で行なわれる学習を支援することを社会教育と呼び、本科目ではこれらの、学校以外の教育に焦点を当てて授業を展開する。内容の一部を紹介すると、人間と教育の関係、生涯学習および社会教育の歴史、社会教育施設の概要、社会教育主事など学習を支援する専門職員の仕事、地域づくり、学習支援の方法としてのファシリテーション、などである。このように本科目では、一生涯の学習を支援することについての歴史・施設・職員・方法・事例等について、理解を深めてもらうことを目的にしている。	
			社会教育経営論Ⅰ	本科目は講義科目である。地域住民が自ら暮らす地域の歴史、風土、現在の社会環境などを理解し、自らが暮らす地域に誇りを持ち、自らが暮らす地域に自分自身何ができるかを問い、なぜ自分がこの地域に暮らしているのかを振りかえり、自分の立ち位置を確立させ、自ら暮らす地域の良し悪しを内外に情報発信していくことを検討する。社会教育行政と地域活性化、社会教育行政の経営戦略、ソーシャルキャピタルによる地域課題の解決方法、地域学習を推進していくための地元学の人選事例などを通して、地域を創造し活性化させていく地域の老若男女を育成し、重要な役割を果たす社会教育主事に備わるべき基礎的な資質を形成するための学習を深めていく。	

専門科目	社会福祉学関連科目	社会教育関連科目	社会教育経営論Ⅱ	本科目は講義科目である。目的は地域社会形成の拠点となる社会教育施設のあり方を問うことである。地域社会の活性化、住民に親しまれる地域を創造していくには、行政、民間、住民との協働作業が必要である。このプランナーたる人材が、行政では社会教育主事であり、生涯学習推進の手法を取り入れ、プログラムを策定する。本科目では、新型コロナウイルス感染対策の中のいわゆる特異な社会環境下で行われ、そして学習成果は同ウイルス感染が治まった後の新しい社会環境下での街づくりにも十分生かされることを目標として、社会教育施設の経営、指定管理者制度、社会教育における地域人材の育成、学習成果の評価と活用の実際、社会教育を推進する地域ネットワークの形成、社会教育施設や企業の社会貢献事業等の経営戦略を学ぶことを内容とする。	
			生涯学習支援論Ⅰ	本科目は講義科目である。生涯学習における学習支援の理論と、それを具体化した学習プログラムについて理解を深めることを目的としている。現代社会は既存の知識を基にしながらも、新たに知創造することが強く求められるようになった。そこで、本科目の前半では、知識の伝達・詰め込み教育への批判論や、新たな知を生み出すために対話を中心とした学習の重要性を扱う内容となっている。J.デューイやM.ノールズ、またソクラテスの産婆術、対話の重要性を説くD.ボームの思想を紹介する。後半では、社会教育たとえば図書館、博物館、公民館などで行なわれている学習支援の実例を紹介する。また、学習プログラムの作成方法を理解してもらい、実際に受講者にも学習プログラムを作成してもらう。	
			生涯学習支援論Ⅱ	本科目は講義科目である。生涯学習支援のあり方とその技法について理解することが、本科目の目的である。内容としては、生涯学習の専門的支援者に求められる基礎的で実践的な技能について学ぶ。具体的には、学習支援において有効な手法であるファシリテーション、情報をわかりやすく伝えるプレゼンテーション、また参加体験型で創造的な手法であるワークショップなどについて理解を深める。さらには、ブレインストーミング、KJ法など学習支援の多様な手法を学ぶ。こうした技法は、単に学習支援者として有効なだけでなく、地域住民の合意形成や、企業や組織における商品開発・プランの作成に役立つ。	
			社会教育演習	本科目は演習科目である。社会教育専門職の基礎的資質形成を目的とする。前期では社会教育実践に関する文献講読、後期では社会教育施設職員または社会教育主事に、聞き取り調査を行なう。前期の授業では、受講生によるレポートを中心に教科書を読み解き、報告内容について討議する。後期の授業では、札幌市内や近郊の社会教育施設を調査・視察し、社会教育主事の仕事についての理解を深める。同時に社会教育における調査方法を学んでいく。	
			社会教育実習	本科目は実習科目である。社会教育現場やその活動を体験すること目的としている。実習先では、例えば、学習支援事業の準備・運営・片付け等を行なうことになる。また、小学生など地域の学習者との触れ合いの機会も設定したい。事前指導では、主に実習を行なうための準備をする。諸条件が整えば、実習先の社会教育主事の指導のもとで学習プログラムを作成し、現地に赴いてそのプログラムを実践することも視野に入れている。事後指導では、体験後に学んだことを報告してもらい、受講者同士で意見交換を行ない、社会教育現場の理解を深めることとする。	
			青少年問題と社会教育	本科目は講義科目である。青少年の成長とメディアの関係性を理解するとともに、青少年問題において、社会教育として何ができるかを考察することが目的である。現代は情報通信機器の発達した時代である。テレビはもとよりインターネットにより、世界中の情報が即座に集まる社会となった。このような高度情報社会が、青少年の生活に問題をもたらしている。とりわけ注目すべきなのは、バーチャルな体験が増大してリアルな体験が少なくなったことである。本科目は、メディアの歴史やその功罪を理解するとともに、それに対する社会教育の在り方を考える内容になっている。なお、ここでのメディアは広い意味で捉えていて、意思や情報を伝える媒体という意味であり、声や文字、紙や本などを含めている。	
			家庭教育と社会教育	本科目は講義科目である。子育てを市町村が支援する時代になったのは近年である。この自治体による子育て支援に、社会教育が関わっている。例えば、公民館などで実施する母親父親学級や子育てサークルの支援、図書館が行なうブックスタートという幼児期に絵本にふれる事業である。本科目では、子育てを支援する社会教育のあり方について理解することを目的としている。家庭教育に関わる法律やしつけ、子どもの権利、子育ての現代的課題、子どもと親の育ち合い、子ども向けの本などについて取り上げる。	

専門科目	社会福祉学関連科目	社会教育関連科目	現代資本主義論	この科目は講義形式で行う。本科目では、①アメリカ、②ヨーロッパ、③アジア等の新興諸国、④日本、これらの4つの国と地域を対象に，第2次世界大戦後から現在までの資本主義経済の発展過程を学んでいく。本科目のテーマは、国と国あるいは地域と地域の間の経済的交流のうえに浮かび上がってくる「グローバル資本主義」を大枠で理解することにある。現代資本主義にアプローチするためには、各国・地域経済に還元できないこうしたメタレベルにおける経済過程を概観することが必要となる。将来の自分を見据え、今後の学生生活をどのように積み重ねていくのかを各自が考えるうえでの基礎を、現代資本主義の学習を通じて築くことが本科目の目的である。	
			日本経済論Ⅰ	この科目は講義形式で行う。本科目では、経済学という教養を身につけることを目的とする。現代の日本経済を解き明かすためには、経済理論・金融・財政・会計・経済史などの諸領域の知識を総動員する必要がある。他方で、古今東西、経済問題については同じような対立軸での議論が繰り返されてきており、こうした議論の枠組みを知ることが経済学的思考を身につけていく上で有効である。日々のニュースに即して日本経済の「いま」について考えながら、経済学諸領域での学びを見つめ直し、アクチュアルに経済学的思考を養う。	
			世界史	この科目は講義形式で行う。本科目では、「世界」史とは何かを認識する基礎を養うことを目的とする。そもそも、「世界」はいつ、どのように認識されるようになったのか。歴史具体的に敵対的な討伐対象として、ヨーロッパ以外の地域がヨーロッパに認識されるようになったのは、十字軍以後のことであると言える。その後、大航海時代に、往来の規模がグローバルになり、初めて現代の我々が「世界」と呼ぶような基準で国際的な繋がりが認識されるようになった。その後、パックスブリタニカ、パックスアメリカーナを経て、現在では、アメリカが「世界の警察」を放棄して以後、覇権国家の存在が極めて希薄化した多軸的な世界が展開している。世界の歴史を基軸となった地域や国家を中心に、全ての地域世界に渡って「通史」として講義を展開していく。	
			地理学	この科目は講義形式で行う。本科目では、地理学の基礎を学ぶことによって人と土地との関係を考えるという地理学的なモノの見方を身につける。また、課題解決のためのアプローチ方法の基礎を習得し、地理空間情報処理能力を養うことで、地域や教育に活用できるスキルを身につけることを目的とする。授業では、地理学の中でも人文地理学と言われる分野を中心に、地理学の基礎を解説する。地理学の中でも農業、工業、商業、都市、開発、環境という各分野の概説を日本の事例を中心に解説し、これまでの地理学の成果を学んでいく。そしてこのような地理学で得られた成果が、どのような調査からもたらされたのかを学ぶ。地理学において多くの地理学者が「フィールドワーク」の重要性を説いており、そこで地理学の課題を解決するための調査法も合わせて解説し、自身の疑問に対する課題解決のための地理学的アプローチ方法を身につける。	
			現代哲学	本科目は講義形式で行う。本科目では、哲学と「全体主義」との関係を理解し、現代哲学の課題を描き出せることを目的としている。大衆社会における「全体主義」の出現をテーマに、「自由からの逃走」(E.フロム)や「啓蒙の弁証法」(M.ホルクハイマー)から20世紀の西洋哲学を概観する。さらにそれらを通じて、現代哲学において何が問題になってきたのか、あるいは現代哲学は何と格闘してきたのかを理解し、その問題意識および手法を共有することを目指すこととする。C.シュミットやL.シュトラウス、H.アーレントなどの現代哲学者たちの基本理念や思考様式、問題式を正確に理解し説明できる知識を得るものである。	
			地誌概説	この科目は講義形式で行う。本科目では、東南アジアと北海道とを対象にし、その土地の地理的条件と人々の活動の関係を通して地誌学の基礎概念を身につけることを目標とする。また、東南アジアというグローバルな視点から、北海道や市町村といったローカルな視点で地域を知ることにより、多面的多角的なモノの見方を習得する。まず、北海道を道から市町村とスケールを変えながら、農業・水産業・工業・観光業と各産業に着目しながらその地域性を俯瞰し、市町村レベルで地域の形成過程を見ていく。また、近年スキーリゾート開発が進み、インバウンド観光が盛んとなったニセコエリアを対象とし、ミクロな地域の変容を解説する。次にマレーシアを中心とした東南アジアの地理的条件および産業を学び、アジア通貨危機と世界金融危機によってどのような影響を受けたのかを解説する。そして東南アジア諸国における港湾の発達、知的クラスターの形成、そうして生み出された知的財産家の保護に焦点をあて説明する。	

専門科目	社会福祉学関連科目	社会教育関連科目	日本史Ⅰ〔前近代〕	この科目は講義形式で行う。本科目では、歴史研究・歴史教育における探究の力を涵養することを目的にする。歴史教育における「主体的な学び」とは何か、どのようにすれば身につけられるのか等について、歴史研究の筋道や方法を振り返ることで、人文社会科学に通底するような、方法論をいくつかに絞ることは可能である。そこで、それぞれの「型」や「構え」について考えていく。前近代の日本における歴史と文化が、現在の私たちの社会にいかにつながっていたのか、また世界（世界史）のなかでどのような位置づけを与えられるべきなのか、自分なりの考えをもち、過去の事象をできる限り「自分事」として捉え、あたたかな「共感」をもって過去を見つめることができるようになることを目標とする。	
			日本史Ⅱ〔近現代〕	この科目は講義形式で行う。本科目では、幕末開港から高度経済成長期までの政治・軍事、外交、財政経済の諸側面とそれらの相互関連に関する基礎知識を獲得することを目的とする。ペリー来航を契機に、日本は資本主義的世界体制に組み込まれ、国内では急速な工業化を達成しながら近代国家を形成する。その後、日清・日露戦争を経て東アジアを支配地域に組み込みながら日中戦争とアジア太平洋戦争に突入する。戦後は、アメリカによる戦後改革が実施され、やがては世界に類を見ない高度経済成長を達成することになる。こうした歴史的過程において、どのような政治主体（内閣・軍・政党・財界・労働者・農民・民衆）が、いかなる制約条件の下でどのような選択をしながら歴史をつくっていったかを教科書である『資料集』を使いながら理解する。	
			社会保障法	この科目は講義形式で行う。社会保障制度とは、一定の事由（老齢・病気・障害など）を有する人々に対して、人々の支え合いを仕組み化することによって、こうした人々の生活の安定を図る制度である。この講義では、社会保障制度を構成する制度のうち、社会保険（公的年金保険、公的医療保険）、公的扶助（生活保護）、社会福祉（高齢者福祉／公的介護保険）を中心に、それぞれの仕組みを理解するとともに、「なぜ」必要なのか、「なぜ」そのような仕組みになっているのかという観点から、制度を支える根拠を探求していくことを目的とする。	
		福祉教育関連科目	社会学と社会システム	本科目は遠隔授業(Eラーニング)として行う。現代社会の課題を社会学の発想を使って考える、説明できることができることが到達目標である。また、社会学と社会システムに関する基礎的なキーワードと考え方の理解を目指す。そして、社会学の中でも、社会福祉を考察・実践する上で基礎となるような考え方を中心に扱っていく。その中で、社会学の基礎的なキーワードを説明することにより、（１）現代社会の特性の理解、（２）現代社会の生活の多様性についての理解、（３）人と社会の関係についての理解、（４）社会問題とその背景についての理解を深める授業計画となっている。	
			社会保障論Ⅰ	本科目は講義形式で、到達目標は以下の４点である。①社会保障の概念や対象及びその理念について、社会保障制度の展開過程も含めて理解する。②現代社会における社会保障制度の役割と意義、取り組むべき課題について理解する。③社会保障制度の財政について理解する。④公的保険制度と民間保険制度の関係について説明できる。現在、わが国では少子高齢化の進展を背景に、社会保障制度のあり方が国民的議論の対象となっている。社会保障制度は、国民生活の安定に不可欠な社会連帯の仕組みであり、その制度構造は政治・経済・社会といった視点から多面的に捉えた上で検討されるべきものである。そのためには、社会保障制度に関する基本的事項についての理解が不可欠である。これらを踏まえ、本科目ではわが国の社会保障制度を中心としつつ、その概念・理念、役割、歴史及び課題に加え、公的保険と民間保険の関係等について扱う。	
			福祉財政論	本科目は講義形式で行われる。民間部門に対する財政（広くは公共部門）の役割が拡大する一方、財政赤字と公債残高が増加しており、また、経済の低成長と少子高齢化が長期的トレンドと予測される中で、いかに財政再建と社会保障改革を進めるかが問われている。現在、日本において進められている「社会保障と税の一体改革」がその一例であり、租税（とくに消費税）等の国民負担（率）の引き上げにより、社会保障の財源を確保することが焦点になっている。また、社会保険料や患者・利用者それぞれの負担のあり方も、大きな課題になっている。以上を踏まえ、本科目では、財政の３機能（所得再分配、資源配分および経済安定成長の各機能）の基本的考え方と、その成果と課題を踏まえながら社会保障財政の実態と今後の方向を学ぶ。	

専門科目	社会福祉学関連科目	福祉教育関連科目	障害者福祉論	本科目は講義形式で、到達目標は①障害者とその家族の生活実態とこれを取り巻く社会環境や福祉ニーズ、障害者福祉の歴史及び制度の発展過程について説明できる、②障害者の福祉･介護に関する法制度と支援の仕組みについて説明できる、③障害の概念、障害者福祉に係る諸理念、国内外の障害者福祉の歴史について説明できる、④障害者やその家族に対する適切な支援のあり方について説明できることである。そのため、障害者の生活実態とニーズ、障害の概念、障害者福祉に係る諸理念、国内外の障害者福祉の歴史、障害者福祉サービスの供給に関する法制度の成立経緯と概要･課題、障害種別毎の法制度の形成過程とその概要･課題、住環境･交通機関等のアクセスに関する実態と関連する法制度･施策概要及び課題、障害者の就労状況と雇用確保･就労支援に係る法制度の成り立ちと概要･課題等について学ぶ。さらに、上記障害者とその家族のニーズを踏まえ、相談援助における適切な支援のあり方を理解する。	
			児童・家庭福祉論	本科目は遠隔授業(Eラーニング)で行われる。子ども家庭福祉問題に関する基礎知識を習得し、開講期間中24時間いつでも主体的に講義コンテンツを活用しながら、子ども家庭福祉全般に対して、基礎知識を持つことができるようになることが到達目標である。そこで、①児童が権利の主体であることを踏まえ、児童・家庭及び妊産婦等の生活とそれを取り巻く社会環境について理解する、②児童福祉の歴史と理念、児童観の変遷や制度の発展過程について理解する、③児童や家庭福祉に係る各種法制度について理解する、④児童や家庭福祉領域における支援の仕組みと方法、各職種と資格（社会福祉士等）の役割・機能について理解する、⑤児童・家庭及び妊産婦等の生活課題を踏まえ、適切な支援や連携のあり方を理解する、などの内容で授業を展開する。	
			知的障害者の心理	本科目は講義形式で行われる。到達目標は、人が、自己を取りまく周囲の人々や事物との相互作用を通して発達していく過程を学び、そのことを通じ知的障害についての理解を深めること、また、発達的視点についての理解、人間心理のうちの知的側面についての理解、知的障害への理解、更に染色体異常（ダウン症）や自閉症スペクトラム障害、発達障害への理解と支援の手だてについて説明できることである。そのため、知的障害児・者の課題を、発達的視点にもとづいて、さまざまな側面から総合的に捉え、障がいに対する見方と特別支援教育に取り組む糸口を見出すことをねらいとする。主として、次の３点を柱として講義を展開する。（１）知的側面の発達と問題の形成のプロセスを理解する。（２）環境とのかかわりという視点から知的障がい者の発達課題を理解する。（３）特別支援教育の支援の手がかりを探る。	
			肢体不自由者の心理	本科目は講義形式で、肢体不自由者の心理についての基本的な知識を獲得し、心理特性を踏まえた支援方法や特別支援教育の現場における指導、並びに社会制度等について説明できるようになることを目標とする。そのため、肢体不自由児・者の心理について理解し、肢体不自由教育に必要な基礎的・基本的な知識だけでなく、本人・保護者の気持ちに寄り添うための教育観を身につける。具体的には、（１）障害の定義や主な原因について理解し、肢体不自由児・者の心理特性について知る、（２）肢体不自由児・者の心理特性を踏まえ、学校や社会での指導や支援の在り方を学ぶ、（３）本人やその家族が地域で生活するためにはどのようなことが必要か、自分自身が成すべきことを考える。	
			病弱者の心理	本科目は講義形式で行われる。到達目標は、病弱児・者の教育、医療について大まかに把握し、病気になることによる心理面での特徴と発達の過程に沿った心理面の変容等を理解し、説明できるようになることを目指す。また、病弱児・者の主な病種ごとの「こころを理解する」という学びを通して、病弱児・者の生きる力を高め、主体的に社会生活を営むために必要な彼らの支援者や理解者となることを目標とする。そのため、病弱教育を踏まえながら、病弱児・者の様々な心理について理解するとともに、病気になったことによるいろいろな変容や発達を妨げる面と成熟を促す二つの面から「病いと学び」などについて学ぶ。また、病弱児・者が、病気に対する正しい理解や治療の必要性と自分自身の心理を理解することで、病気になった現実を受けとめ、その事態に向かい合う生き方を身に付けさせるためには何が大切かを考えていく。	
			権利擁護を支える法制度	本科目は講義形式で行う。到達目標は①社会において弱い立場に置かれた人々の権利保護の重要性を説明できるようになる、②「権利擁護」の意義、特に通常の権利救済との違いを説明できるようになる、③事例の特徴を把握し、その事例に即した「権利擁護」のための方法を考案できるようになる、④苦情解決・意思決定支援・成年後見制度の仕組みを活用できるようになることである。そこで、ソーシャルワークにおける「権利擁護」の重要性とその基盤となっている法制度の仕組みを学んでいく。まず「法」あるいは法的思考の特徴を学んでいくとともに、私たちの生活に特に密接に関わる法制度の基本的な仕組みについて学ぶ。その上で、権利の"非実現"とも言うべき状況について、ソーシャルワーカーに可能な権利の"実現"に向けた支援の仕組み・あり方にはどのような方法があるのかを学習していく。	

専門科目	社会福祉学関連科目	福祉教育関連科目	司法福祉論	本科目は講義形式で行う。到達目標は、①刑事司法制度と少年司法制度の異同を説明できるようになる、②更生保護制度・医療観察制度の内容について説明できるようになる、③更生保護制度を取り巻く関係者・機関について理解し、犯罪・非行を行ってしまった者に対する支援の方法を考案できるようになる、④刑事司法の仕組みにおける福祉的観点（司法福祉という考え方）の重要性を説明できるようになることである。そのため、近年の刑事司法制度を取り巻く状況及び刑事司法制度の対象となる人々の特徴を理解した上で、刑事司法・少年司法それぞれの仕組みと特徴（差異）を学ぶ。その上で、そこでの社会福祉士・精神保健福祉士の役割を常に念頭に置きながら、犯罪・非行を行ってしまった者の社会復帰に向けた支援を行う基盤となる仕組み（更生保護制度・医療観察制度）について学習する。これらに加え、犯罪被害者支援に関する制度についても解説を行い、刑事司法を取り巻く福祉的支援の全体像を学ぶ。	
			障害児教育論	本科目は講義形式で行う。障がいのとらえ方は様々あるが、障がいのある児・者を社会的弱者として理解するのではなく、同じ社会の対等な構成員であることを実感として捉えることができるようになることを目標とする。合わせて日本の特別支援教育成立の過程や意義等について、世界や日本の歴史、動向から理解を深め、説明できるようになることを目指す。障がいのある人の人権や生き方、考え方を尊重し、彼らの支援者や理解者となることを目標とする。そこで、障がい児に対する教育が、特殊教育から特別支援教育へ発想が転換し、インクルーシブ教育システムの構築を目指すことを踏まえ、特別支援教育の概念成立までの歴史的背景やノーマラーゼーション思想を始めとする動向などを押さえつつ、日本の障がい児教育全般について理解し、これからの展望についても学ぶ。	
			スクールソーシャルワーク論	本科目は講義形式で行われ、学校教育現場におけるスクールソーシャルワーク実践の必要性を理解し、説明できるようになることを目標とする。また、スクールソーシャルワーカーの役割及び活動内容を理解し、使用される専門用語を用いて表現が出来るようになることを目指す。近年の学校においては、不登校やいじめ、非行などの課題のほか、発達障害や家庭養育問題などを抱える子どもたちの課題が複雑化、深刻化している。これらの課題を解決する支援方法として求められるもの一つに、スクールソーシャルワークがある。そこで、①今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入する意義とその必要性を理解する、②スクールソーシャルワークの発展過程について理解する、③海外のスクールソーシャルワーカーの役割と活動について理解する、④スクールソーシャルワークの実践モデルについて理解する、などの内容で授業展開をする。	
			スクールソーシャルワーク演習	本科目は演習形式で行われ、ソーシャルワークの演習を応用しながら、スクールソーシャルワークの視点と方法を演習を通じて理解、実施できることを目標としている。そのため、①講義を通じてアセスメントの方法を確認し、各自が事例に基づいてアセスメントする演習を行う。②ソーシャルワークの機能を再学習して、演習を行う。③学校機能について演習を行う。これらを通して、ミクロからメゾ・マクロを含むソーシャルワーク支援方法、実習先での学校理解、地域理解の習得をする。また、学校というところについて確認を行い、スクールソーシャルワーカーに必要な事例研究を積み重ね、実践の視点と方法を学ぶ。	
			スクールソーシャルワーク実習	本科目は現場実習形式で行われ、スクールソーシャルワーカーによる実践を体験的に理解し、実践の視点と方法を習得することを目標とする。具体的には、①実践の場で、子どもや家族への支援だけではなく、学校や関係機関との協働や援助関係の形成について学ぶ。②子ども・家族・学校・教育現場の現状を知り、学校組織や学校運営、教育委員会組織のほか、教育センターや適応指導教室による支援などの基本的理解と実際を体験的に学び、スクールソーシャルワークに対するニーズを把握して支援計画を作成する。③ミクロおよびメゾ実践を通して、SSWにおける知識と技術について具体的かつ実際的に理解し、子ども・家族や教職員とのコミュニケーションと援助関係の形成、校内ケース会議の進め方など、実践的な技術を体得する。	
			スクールソーシャルワーク実習指導	本科目は講義形式で行われる。到達目標は、①学校・教育機関で求められるスクールソーシャルワークの視点を養う、②事前学習などによりスクールソーシャルワーク実習の準備ができる、③実習終了後にスクールソーシャルワークの総まとめができることである。そのため、実習前準備として事前学習を行う。具体的には、学校内の子どもの課題となる行動や、子どもの成長発達について基本的な理解をはじめ、日々子どもたちが過ごす学校現場について学校組織、教育委員会、教育法規について学習し、学校文化と生徒指導についても学習する。また、実習直前の準備として実習計画書、実習事前学習報告書を作成する。実習終了後には、実習総括と実習報告会を行う。	

専門科目	ソーシャルワーク科目	SW専門科目	医学概論	本科目は講義形式で行われ、①人のライフステージにおける心身の変化と健康課題について説明できるようになる、②人の身体構造と心身機能に関する知識を身につけ、医学用語で説明できるようになる、③疾病・障害の捉え方、病変の成立機序、回復過程について説明できるようになる、④公衆衛生の概要について理解し、基本的用語を説明できるようになる、ことを目標とする。具体的には、人間の人体の構造と機能および疾病や障害の概要について、成長、発達との関係をふまえ、基礎的な理解を得ることができるよう、まず人体解剖学の概略、次に人体の体液生理学・循環生理学・呼吸生理学・内分泌生理学の概略、そして生活習慣病および頻度の高い疾病・障害の概要について学ぶ。	
			公的扶助論	この科目は講義形式で行う。この授業では、日本における貧困・生活困窮の実態と公的扶助・低所得者支援等の制度を理解することを目的とする。日本において公的扶助制度の中核を担っている生活保護制度を中心に法制度、対象、範囲、歴史を学習する。そして公的扶助の在り方や現状、生活困窮者自立支援法、低所得者対策等の法制度、対象、歴史を学習・理解していく。さらに諸外国の動向と歴史を深めることで幅広い見識と論理的な思考を涵養していく。本授業では、公的扶助・生活困窮者自立支援について、ゲストスピーカーを招聘し最新の公的扶助にかかるソーシャルワークの実践、動向の理解を深める予定である。	
			社会保障論Ⅱ	本科目は講義形式で行われ、日本における社会保障制度の内容と課題を理解することを基本目的とする。具体的には、社会保障の公的諸制度、特に年金保険、医療保険、介護保険等の各制度（民生費を含む）がそれぞれどのような仕組みで運用・管理されているかについて、国と地方自治体、各保険者等の関係を踏まえながら整理・検討する（制度成立の背景についても概観する）。本科目は、「社会保障論Ⅰ」で学んだ基本的な内容を踏まえて展開される。そのうえで、社会保障各制度の仕組みや運用・管理上の諸問題を理解して、今後の方向を展望する力量を涵養する。また、講義の後半では、国際的な視点から社会保障制度を概観しながら、上記の内容を広く整理・展開する。	
			地域福祉と包括的支援体制Ⅱ	この科目は講義形式で行う。この授業では、地域福祉と包括支援体制について理解することを目的とする。この授業では、①包括的支援体制の考え方と、多職種及び多機関協働の意義と実際について、②地域生活課題の変化と現状を踏まえ、地域包括支援体制における社会福祉士の役割について、③全国の先進事例から今後の地域福祉と包括的支援体制のあり方について、④地域福祉と包括的支援体制を推し進める地域の支援計画の作り方について、⑤コミュニティソーシャルワークの実際について学びます。	
			社会福祉管理運営論	この科目は講義形式で行う。本科目では、社会福祉組織の経営・管理運営について、サービス利用者・家族としての視点、現場における福祉実践者としての視点、現場のミドルマネージャー・リーダーとしての視点、さらに経営者としての視点、及び地域のステークホルダー並びに社会保障費など国政としての視点など、多角的に理解することを目的とする。 本科目では、まず現代社会の状況とこれまでの社会福祉組織が置かれてきた環境を整理する。それらを基に、社会福祉組織の経営と管理運営の課題を理解し、今後の社会福祉サービス運営の目指すべき方向性について検討を行う。	
			保健医療と福祉	本科目は講義形式で行われ、①ソーシャルワーク実践において必要となる保健医療の動向を説明できるようになる、②保健医療に係る政策、制度、サービスについて説明できるようになる、③保健医療領域におけるソーシャルワーカーの役割と多職種連携や協働について、現状や意義を説明できるようになる、④保健医療の課題を持つ人に対する、ソーシャルワーク実践の概要を説明できるようになる、ことを目標とする。保健医療機関では、児童、障がい者、高齢者など、社会的弱者になりがちな人たちへの支援を広域に考えていく必要がある。そこで、多種多様な生活課題とソーシャルワーカーに求められる専門的な視点や価値、技術を学習する。また、関係機関との連携、地域支援の展開、ソーシャルアクションなどミクロ、メゾ、マクロ領域の実践についても学習し、健康問題が生じても、各々の人生が豊かでその人らしいものであることを目指す支援について考えていく。	
			ソーシャルワークの基盤と専門職［専門］	本科目は遠隔授業（Eラーニング）により開講する。ソーシャルワークの現場において必要不可欠な、職域と役割、専門職の概念と範囲、各レベルにおけるソーシャルワークの対象と実際、包括的支援と他職種連携の意義を理解し、実践現場を想定して適切に対応できることを目標とする。そのため、①社会福祉士の職域と求められる役割について理解する、②ソーシャルワーク専門職の概念と範囲について理解する、③ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と関連性について理解する、④包括的な支援と他職種連携の意義と内容について理解することを内容に授業展開する。	

専門科目	ソーシャルワーク科目	ＳＷ専門科目	ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ〔専門〕	本科目は講義形式で、具体的到達目標は以下に示す通りである。①支援を必要とする人との援助関係の形成やニーズの掘り起こしのための知識と技術について理解し、説明できる。②社会資源の活用の意義を踏まえ、地域における社会資源の開発やソーシャルアクションについて理解し、説明できる。③個別事例の具体的解決策および、事例の共通性や一般性を見出すための事例分析の意義や方法を理解し、説明できる。ソーシャルワーカーとしてはこれらの個別・具体・特殊な課題を解決に導いていかなければならないが、これまでの実践的あるいは研究的積み重ねの中で、様々な理論や方法が創出され、具体的な介入レパートリーとして展開されてきている。そこで、上記の目的を達成するために、昨今のソーシャルワーク理論動向をふまえ、基礎理論を理解しつつ、実践的かつ効果的な理論や方法についての解説をおこない、事例を活用した演習も取り入れながら、知識を深め、定着させる。	
			ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ〔専門〕	本科目は講義形式で行う。具体的到達目標は、①支援を必要とする人との援助関係の形成やニーズの掘り起こしのための知識と技術について理解し説明できる。②社会資源の活用の意義を踏まえ、地域における社会資源の開発やソーシャルアクションについて理解し説明できる。③個別事例の具体的解決策および、事例の共通性や一般性を見出すための事例分析の意義や方法を理解し説明できる、ことである。ソーシャルワークという固有な発想・視野・視点をもつ実践活動は、利用者（生活者）が抱えている課題の解決、社会的機能の改善・再構築・維持・向上、さらには自己実現を、利用者とソーシャルワーカーによる「参加と協働」体制から達成していくことに一大目標があるが、その成果は利用者自らの実感により確認できるものである。そこで、基礎理論を理解しつつ、実践的かつ効果的な理論や方法についての解説を行い、事例を活用した演習も取り入れながら、知識を深め、定着させるよう授業展開する。	
			ソーシャルワーク演習〔共通〕	本科目は演習形式で行い、ソーシャルワークの基礎を理解することを目的とする。医療・保健・福祉・教育などの各分野で、ますます社会福祉等の専門家に対するニーズが増加してきている。それぞれの分野で求められる資質や援助技術は多様で専門的なものであり、それらあらゆる分野で活躍できる社会福祉の専門家となることもまた必要とされる。そこでこの授業ではソーシャルワークの基本的な資質と考え方についての学習を前提に、各自がそれらを実践的に捉え技術の向上を目指した学習を行う。授業の展開は、大単元として、①自己覚知、②基本的コミュニケーション技術、③基本的な面接技術、④ソーシャルワークの展開過程、⑤ソーシャルワークの記録、⑥グループダイナミクスの活用、⑦プレゼンテーション技術の7つをとりあげる。	
			ソーシャルワーク演習〔専門〕Ⅰ	本科目は演習形式で行い、ソーシャルワーク及び地域福祉の基盤整備と開発に係る事例の捉え方を理解することを目的とする。医療・保健・福祉・教育などの各分野で、ますます社会福祉等の専門家に対するニーズが増加してきている。それぞれの分野で求められる資質や援助技術は多様で専門的なものであり、それらあらゆる分野で活躍できる社会福祉の専門家となることもまた必要とされる。授業ではソーシャルワーク実習前にその連動を意識して、①具体的な事例等を活用し、支援を必要とする人が抱える複合的な課題に対する総合的かつ包括的な支援について実践的に学ぶ。②①に掲げた事例等を題材として、具体的なソーシャルワークの場面及び過程を想定した実技指導を行う。③②の実技指導に当たっては、関連する各種技法についても学ぶ。	
			ソーシャルワーク演習〔専門〕Ⅱ	本科目は2コマ続きで演習形式で行い、ソーシャルワーク及び地域福祉の基盤整備と開発に係る事例の捉え方を理解することを目的とする。医療・保健・福祉・教育などの各分野で、ますます社会福祉等の専門家に対するニーズが増加してきている。それぞれの分野で求められる資質や援助技術は多様で専門的なものであり、それらあらゆる分野で活躍できる社会福祉の専門家となることもまた必要とされる。２コマ連続の授業展開において、ソーシャルワーク実習前にその連動を意識して、①具体的な事例等を活用し、支援を必要とする人が抱える複合的な課題に対する総合的かつ包括的な支援について実践的に学ぶ。②①に掲げた事例等を題材として、具体的なソーシャルワークの場面及び過程を想定した実技指導を行う。③②の実技指導に当たっては、関連する各種技法についても学ぶ。	
			ソーシャルワーク演習〔専門〕Ⅲ	本科目は演習形式で行い、ソーシャルワーク実習の経験を踏まえたソーシャルワークに係る知識と技術の概念化･理論化を行うことを目的とする。授業では、ソーシャルワーク実習後にその成果との連動を意識して、事例研究、事例検討およびスーパービジョンを通じて、ソーシャルワークに係る知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的かつ学術的な知識及び技術として習得できるよう、集団指導並びに個別指導による実技指導を行う。	

専門科目	ソーシャルワーク科目	ＳＷ専門科目	ソーシャルワーク入門実習	本科目は、社会福祉士国家資格の受験資格取得に必要な「ソーシャルワーク実習」を履修するための前提となるものであり、本学が独自に設定する実習科目である。実習は、原則として「ソーシャルワーク実習」と同一の施設・機関で行い、40時間以上の臨床実習が実施される。学生は配属された実習施設・機関において、ソーシャルワーク専門職である社会福祉士が業務を遂行する基本的な業務とその職場を理解し、また支援の対象となる人や地域を捉え、それらとの実習生としての基本的な関係形成を行う。次年度に実施する「ソーシャルワーク実習」に向けた体験的・入門的な実習を行う。	
			ソーシャルワーク実習	本科目は実習科目であり、「ソーシャルワーク専門職である社会福祉士」に求められる実践能力を身につけることが目的である。本科目は、社会福祉士国家資格の受験資格取得に必要となる指定科目であり、厚生労働省令に定める実習施設・機関において240時間以上の臨床実習を実施する。学生は、実習中の実習指導者（スーパーバイザー）による指導に加え、担当教員による週1回以上の巡回指導及び帰校制による指導を受けながら、各種の福祉現場におけるソーシャルワーク実践能力（利用者理解と関係形成、ニーズの把握と支援計画の作成・実施と評価、多職種連携とチームアプローチ、社会資源の活用・調整・開発を含む地域における分野横断的なネットワークの形成、施設・団体・機関等の経営管理とマネジメント、職業倫理と社会的責任の履行等）を修得し、同時に人々が暮らす地域における包括的支援の展開について、その実際を理解する。	
			ソーシャルワーク実践論	本科目は、本科目の単位修得後に履修することとなる「ソーシャルワーク実習指導Ⅰ」及び「ソーシャルワーク入門実習」の前提科目であり、講義科目として本学が独自に展開する。本科目では、ソーシャルワーク実践が行われている各種の社会福祉施設・機関の実践内容を理解し、学生自らがその後の「ソーシャルワーク実習」に参加していくための目的意識と動機づけ・学習レディネスを高めることを目的としている。講義は、本学専任教員による授業運営と責任のもとで、各実践現場において現職としてソーシャルワーク実践に携わる社会福祉士複数名を臨時講師として招聘し、その実践内容や実践上の特徴や課題、これからの実践を担う学生に対する期待や要望などを講義してもらう。これらの講義を踏まえ、学生は「ソーシャルワーク実習」の実習先選定に向けた実習希望選択票の作成に向かう。	
			ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	本科目は、グループ指導・個別指導を含めた講義形式で、１クラスあたり20人以下の学生数で実施する。「ソーシャルワーク実習」及び「ソーシャルワーク入門実習」に向けた諸準備を行うことを目的としている。次年度に履修する「ソーシャルワーク実習指導Ⅱ」「同Ⅲ」と連動し、これら一連の科目において、厚生労働省令に定める「ソーシャルワーク実習指導」の内容を教授する。具体的には、「社会福祉士に求められる価値と倫理」「実習の意義と目的」「実習関係三者の役割と責任」「個人情報保護と守秘義務」「倫理的ディレンマ」について理解するとともに、「ソーシャルワーク入門実習」に向けた準備として、「記録作成の練習」「事前学習報告書・実習計画書の作成」を行う。	
			ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	本科目は、社会福祉士国家資格の受験資格取得に必要な指定科目である「ソーシャルワーク実習」の事前指導（事前教育）を行う科目であり、グループ指導・個別指導を含めた講義形式で、１クラスあたり20人以下の学生数で実施する。前年度に単位修得した「ソーシャルワーク入門実習」の学びを踏まえて、社会福祉士として求められる価値・倫理に基づく専門職としての姿勢と役割に対する理解を深めるとともに知識・技術についても具体的・実践的に理解し、ソーシャルワーク機能を発揮するための基礎的能力の修得することが目的である。併せて、「ソーシャルワーク実習」に参加するための諸準備（「事前学習報告書・実習計画書」の作成、実習指導者との事前訪問打合せの実施等）を行う。	
			ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	本科目は、社会福祉士国家資格の受験資格取得に必要な指定科目である「ソーシャルワーク実習」の事後指導（事後教育）を行う科目であり、グループ指導・個別指導を含めた講義形式で、１クラスあたり20人以下の学生数で実施する。「ソーシャルワーク実習」での体験・経験及び学習内容について、改めてソーシャルワークの視点から振り返り、価値規範・知識・技術として概念化・理論化する作業を通して、「ジェネラリスト・ソーシャルワーカー」として獲得したソーシャルワーク実践能力を明確にしつつ、残された課題を整理し、更なる理解に向けた取り組みを行う。「ソーシャルワーク実習」との循環的なこれら一連の活動は、個々の学生による「実習総括レポート」として執筆され、グループ活動としての「全体総括会」においてその成果を発表する。	

専門科目	ソーシャルワーク科目	ＳＷ展開科目	精神保健ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	本科目は講義形式で行う。到達目標は、①精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対するソーシャルワークの過程を理解し説明できる、②精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人と家族の関係、家族への支援方法を理解し説明できる、③精神医療、精神障害者福祉における多職種連携・多機関連携の方法と精神保健福祉士の役割について理解し説明できる、ことである。1997年、『精神保健福祉士法』が制定され、精神保健医療福祉分野における支援を担う専門職として、「精神保健福祉士」が国家資格化された。以来、その活動範囲は拡大し、社会的期待はますます高まっている。そこで、精神保健医療福祉領域における精神保健福祉士による支援展開の内容、精神保健ソーシャルワーク実践の内容・方法について学ぶ。また支援の過程、家族支援の実際、多職種・多機関連携、チームアプローチ等について講義を展開する。	
			精神保健ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ	本科目は講義形式で行う。到達目標は、①精神保健福祉士と所属機関の関係を踏まえ、組織運営管理、組織介入・組織活動の展開に関する概念と方法について理解する、②個別支援からソーシャルアクションへの実践展開を、ミクロ・メゾ・マクロの連続性・重層性を踏まえて理解する、③精神保健福祉分野以外における精神保健福祉士の実践展開を理解する、ことである。精神保健ソーシャルワークでは、他のソーシャルワーク分野と同様に組織への介入や、ミクロからマクロまでの実践展開を理解することが必要である。なおかつ、生活モデルに基づく組織変革や予防的介入など、精神保健福祉分野において特徴的なソーシャルワーク理論と方法を学習する。	
			精神医学と精神医療Ⅰ	本科目は講義形式で行われ、①精神医学の基礎概念、成因論、現代の診断分類に関する基本的概念について説明できるようになる、②基本的な精神症状と状態像について、精神医学的に説明できる、③代表的な精神上および行動上の障害について、症状、経過などについて知識を習得し、治療の概要を説明できる、ことを目標とする。まず基本知識として、精神医学概念、精神医学・医療の歴史を学ぶ。また精神症状の基礎にある脳および神経系の構造と生理について学び、関連する症状を理解する。そのうえで、精神症状と状態像の理解、症状の把握法、精神疾患の分類法を学び、代表的な精神疾患について、成因、症状、診断法、治療法、経過、本人や家族への支援などを学習する。	
			精神医学と精神医療Ⅱ	本科目は講義形式で行われ、①精神科医療における人権擁護の問題の歴史を理解し、人権擁護のための仕組みを説明できる、②精神科医療におけるチーム医療の意義と精神保健福祉士の役割を説明できる、③早期介入、再発予防や地域生活支援等における多職種連携・多機関連携の意義と精神保健福祉士の役割を説明できる、ことを目標とする。精神科医療の種々の専門的治療の特性について学習することにより精神科医療の実際や関連制度についての知識を深める。また、チーム医療、多職種連携・多機関連携における地域精神医療と福祉の連携の実際と、そこにおいて精神保健福祉士が担うべき役割について学ぶ。	
			現代の精神保健の課題と支援Ⅱ	本科目は講義形式で行われ、①現代社会における精神保健の諸課題と精神保健の実際および精神保健福祉士の役割について説明できる、②地域精神保健施策の流れや関連法規について説明できる、③諸外国における精神保健の概要を説明できる、ことを目標とする。精神保健とは広義には精神的健康の保持・増進を目的とする諸活動であり、狭義には精神疾患の予防、治療、リハビリテーション、または精神的健康の保持・増進に関する行政上の諸活動を指す。現代社会においては、災害にともなうメンタルヘルス危機や自死、依存症、社会的孤立など、様々な精神保健上の課題が存在しており、精神疾患の予防や精神的健康の保持・増進の取組が求められている。本科目では、それら精神保健上の課題を理解し、課題の解決に向けた諸施策等を、諸外国の動向も含めて学習するとともに、そこにおける精神保健福祉士の役割に関し理解を深めていく。	
			精神保健福祉の原理Ⅰ	本科目は講義形式で行われ、①精神保健福祉士の存在意義を理解し、職業的アイデンティティの基礎に気づくことができる、②精神保健福祉士の基本的枠組みについて、理念や視点等から理解し、説明できる、③精神保健福祉士の倫理綱領について理解し、説明できる、④精神保健福祉士を規定する法律を把握し、求められる機能や役割を理解し、説明できる、⑤昨今の精神保健福祉の動向を踏まえ、精神保健福祉士の職域と業務の特性を理解し、説明できる、ことを目標とする。本科目では、実践の基盤となるソーシャルワークの専門性を前提に、特に精神保健医療福祉領域のソーシャルワーカーの基盤となる精神保健福祉の原理、また機能と役割について、精神保健福祉士法の成立の背景なども踏まえながら、視野や視点、内容や方法等から理解が促進されるよう講義をおこなう。	

専門科目	ソーシャルワーク科目	ＳＷ展開科目	精神保健福祉の原理Ⅱ	本科目は講義形式で行われ、①「障害者」に対する思想や障害者の社会的立場の変遷をふまえ、障害者福祉の基本的枠組みについて説明できる、②精神保健福祉士が対象とする「精神障害者」の定義とその障害特性、精神障害者の生活実態について説明できる、③精神疾患や精神障害をもつ当事者の社会的立場や処遇内容の変遷をふまえ、それに対する問題意識をもつ価値観を体得する、ことを目標とする。1993年の障害者基本法の改正により、精神障害者が障害者の一員に位置付けられて以降、精神障害者への福祉は障害者福祉の理念のもとに置かれている。本講義では、障害者福祉の理念、障害の概念を理解するとともに、精神障害者の排除の歴史と現存する社会的障壁について学び、それに対する問題意識を醸成する。さらに、その問題意識を背景に、精神障害者の生活実態を理解する視座を学んでいく。	
			精神障害者リハビリテーション論	本科目は講義形式で行われ、①精神障害リハビリテーションの概念とプロセス及び精神保健福祉士の役割について説明できる、②精神障害リハビリテーションプログラムについて説明できる、③精神障害リハビリテーションの実施機関と精神障害リハビリテーションプログラムの関連について説明できる、ことを目標とする。具体的には、精神障害リハビリテーションの理念、定義、基本原則、構成と展開を理解し、医学的リハビリテーション、職業的リハビリテーション、社会的リハビリテーション、教育的リハビリテーションのそれぞれの考え方や実践、精神保健福祉士の役割について学習する。また、家族支援プログラムや当事者主体のリハビリテーション（ピアサポートなど）についても理解を深める。これらを通して、具体的かつ包括的な視点から精神障害リハビリテーションを理解したうえで、援助場面で活用することをイメージできるようになることを目指す。	
			精神保健福祉制度論	本科目は講義形式で行われ、①精神保健福祉法、医療観察法等の医療に関する制度の概要と課題、制度に規定されている精神保健福祉士の役割について学び、制度とその限界について説明できる、②障害者総合支援法など生活支援に関する制度の概要と課題、制度に規定されている精神保健福祉士の役割について学び、制度とその限界について説明できる、③生活保護制度や生活困窮者自立支援制度等の経済的支援に関する制度の概要と課題、制度に規定されている精神保健福祉士の役割について学び、制度とその限界について説明できる、ことを目標とする。精神障害者の支援においては、各種法制度の活用が不可欠である。本科目では、精神障害者の支援に関わる法制度を学び、将来精神保健福祉士として、それらの法制度を活用できるように知識を身に着けることとともに、制度の限界についても考察できるようになることを目指す。	
			ソーシャルワーク演習Ⅰ〔精神〕	本科目は演習形式で行われ、①精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人の状況や困難、また希望を的確に聞き取り、とりまく状況や環境を含めて理解してソーシャルワークを展開するための精神保健福祉士の専門性（知識、技術、価値）の基礎を獲得する、②精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための諸制度、サービスについて、その概念と利用要件や手続きを知り、説明できるようになる、ことを目標とする。そのため、事例を活用し、精神保健福祉の課題を捉え、その解決に向けた総合的かつ包括的な援助について実践的に習得することを目指す。すべての事例において、精神保健福祉士に共通する原理として「社会的復権と権利擁護」「自己決定」「当事者主体」「社会正義」「ごく当たり前の生活」を実践的に考察することができるように指導する。また、アセスメント、個別支援計画の作成をに必要な視点、技法を実践的に学習する。	
			ソーシャルワーク演習Ⅱ〔精神〕	本科目は演習形式で行われ、①精神保健ソーシャルワークの関係機関や職種の役割を理解し、チーム支援においてコーディネート役を担えるようになる、②共生社会を実現するための活動を精神保健福祉士の役割として認識し、政策や制度、関係行政や地域住民にはたらきかける方法をイメージできるようになる、③精神保健福祉士として考え、行動するための基盤を獲得し、職業アイデンティティを構築する意義を理解できる、ことを目標とする。前期においては複数の事例検討をグループで行い、精神保健ソーシャルワークについて、法制度・サービスを含めて理解を進めるほか、当事者との個別面接体験等に基づき援助技術を実践的に学習する。後期においては、実習における実習体験に基づく記録作成、グループでの検討等を行いながら、ケアマネジメント、アウトリーチ、コミュニティ・ソーシャルワーク等のソーシャルワークの視点と知識、技術の定着を目指す。	

専門科目	ソーシャルワーク科目	ＳＷ展開科目	ソーシャルワーク実習〔精神〕	本科目は精神科医療機関と地域機関・事業所の2ヵ所における、あわせて210時間以上の配属実習である。①精神保健福祉士としてのソーシャルワークに係る専門的知識と技術の理解に基づき現場での試行と省察の反復により実践的な技術等を体得する、②精神障害のある人等の生活実態や生活上の課題について実習先において調査し具体的に把握する、③実習指導者からのスーパービジョンを受け、精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する、④総合的かつ包括的な地域生活支援と関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する、ことを目標とする。	
			ソーシャルワーク実習指導Ⅰ〔精神〕	本科目は講義形式で行われ、①実習の意義を知る、②精神疾患や精神障害のある人の生活の実態や生活上の困難についての知識を身につける、③個別指導及び集団指導を通して、精神保健ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実践的に習得する、④精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理を学習し、自己の課題把握を行う、ことを目標とする。まず、社会福祉士のソーシャルワーク実習の成果と課題を整理し、本実習の意義を講義により把握する。次に、実習先機関の施設見学、記録作成を行う。また、4年生による精神保健ソーシャルワーク実習報告会編の参加や、精神保健福祉士を臨時講師とした講義により、具体的な職場・職種理解を進める。これらを通じて、精神保健福祉援助の知識・技術を実践の観点から深化させるなかで、学生自身が自己理解を進めながら、精神保健福祉士として有すべき援助能力の開発、倫理観の醸成を目指す。	
			ソーシャルワーク実習指導Ⅱ〔精神〕	本科目は講義形式で行われ、①個別指導及び集団指導を通して、精神保健ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実践的に習得する、②精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理を学習し、精神保健ソーシャルワーク実習に向けて目的を明確化した上で、実習計画を作成する、③精神保健ソーシャルワーク実習における学びを総括し、報告書を作成する、ことを目標とする。前期においては、実習に必要な精神保健福祉に関する専門的知識と援助技術、倫理を実践できるよう具体的に理解する。また、実習先指導者との協議もふまえて実習計画を作成する。実習中は教員が巡回指導を実施する。後期においては、実習中の学習内容を総括して振り返り、具体的な体験や援助活動を、専門的知識及び技術の観点から一般化し体系立てて理解していくことができるよう、 実習の評価全体総括会を実施し、実習総括レポートを作成する。	
			総合演習Ⅰ	本科目は演習形式で行われ、ソーシャルワーク専門職としての社会福祉士や精神保健福祉士に必要な価値・知識・技術について総括的・体系的に確認し、今までの学びを統合することを目的とする。 （オムニバス形式／全15回） （11　畑亮輔／7回） 「社会福祉士・精神保健福祉士に求められる価値・知識・技術の体系」「社会福祉士と精神保健福祉士に共通する価値・知識・技術の確認」「社会福祉士に固有の価値・知識・技術の確認」「ソーシャルワーク専門職としての社会福祉士・精神保健福祉士に求められる価値・知識・技術の最低水準と学生の到達状況の確認」「社会調査の基礎の振り返りと確認」「福祉サービスの組織と経営の振り返りと確認」「高齢者福祉論の振り返りと確認」について （3　佐橋克彦／2回） 「社会福祉の原理と政策の振り返りと確認①」「社会福祉の原理と政策の振り返りと確認②」について （1　K.U.ネンシュティール／1回） 「社会学と社会システムの振り返りと確認」について （15　安部雅仁／1回） 「社会保障制度の振り返りと確認」について （6　田中耕一郎／1回） 「障害者福祉の振り返りと確認」について （16　横山穣／1回） 「ソーシャルワークの基盤と専門職（共通）の振り返りと確認」について （17　池田雅子／1回） 「ソーシャルワークの理論と方法（共通）の振り返りと確認」について （5　西田充潔／1回） 「心理学と心理的支援の振り返りと確認」について	オムニバス

専門科目	ソーシャルワーク科目	ＳＷ展開科目	総合演習Ⅱ	本科目は演習形式で行われ、ソーシャルワーク専門職としての社会福祉士や精神保健福祉士に必要な価値・知識・技術について総括的・体系的に確認し、今までの学びを統合することを目的とする。 （オムニバス形式／全15回） （10　松岡是伸／4回） 「貧困に対する支援の振り返りと確認」「刑事司法と福祉の振り返りと確認」「権利擁護を支える法制度の振り返りと確認」「社会福祉士・精神保健福祉士に必要な姿勢と学びの統合」について （4　伊藤新一郎／5回） 「ソーシャルワークの基盤と専門職（専門）の振り返りと確認」 「ソーシャルワークの理論と方法（専門）の振り返りと確認」「保健医療と福祉の振り返りと確認」「社会福祉士と精神保健福祉士に共通する価値・知識・技術の総合的な振り返りと確認」「社会福祉士に固有の価値・知識・技術の総合的な振り返りと確認」について （2　岡田直人／2回） 「地域福祉と包括的支援体制の振り返りと確認①」「地域福祉と包括的支援体制の振り返りと確認②」について （8　栗山隆／1回） 「児童・家庭福祉の振り返りと確認」について （7　中村和彦／1回） 「精神保健福祉の原理の振り返りと確認」について （9　永井順子／1回） 「精神保健福祉制度の振り返りと確認」について （12　大友秀治／1回） 「精神保健ソーシャルワークの理論と方法の振り返りと確認」について	オムニバス
	地域デザイン専門科目		地域デザイン論	この科目は講義形式で行う。この授業では、地域に既にある強さ（ストレングス）を発見し、強さを再評価し、強さを複数組み合わせることで、その地域の生活の困り事の解決法を描き出すことを目的にする。特に北海道は、日本でも最先端の地域生活課題が生じており、参考となる先行例もあまりないなか、どのように対応していくのか模索が続けられている。地域生活課題の解決には人・金・物が不可欠だが、外部から都合よく与えられるものではないため、既存の地域の社会資源等を再評価し、活かすことでその地域に馴染みのいい対応を講じることができる。この授業では、受講生の出身地等のよく知る地域を対象として、住みよい地域を描きだしてもらう。その際、地域特性、SDGｓ、農福連携、6次化などについても取り上げ、実社会ですぐに使えそうなプランを考えてもらう。	
			地方自治論	この科目は講義形式で行う。本科目では、日本の地方自治の理論と実践について理解することを目的とする。行政サービスには、国が提供するものと、自治体が提供するものがあり、税金にも、国税と地方税が存在する。選挙も、国会議員を選ぶ選挙と、自治体の首長や議会の議員を選ぶ選挙がある。地方自治は、国よりも私たちにとって身近であり、また政治参加や民主主義の実現といった観点からも、重要性が高まっている。授業内では、地方自治の意義を身近な例をとって考えていく。	
			地域デザイン実習	本科目は実習形式である。地域デザインとは、地域や生活上の諸問題について、地域住民が自ら問題解決していく仕組みを構築することである。そこで本実習では、人口減少社会や少子高齢化等の社会構造的問題が地域レベルでどのような地域課題となっているのかを明らかにしつつ、個人レベルの地域生活が抱える諸問題について学びを深め、地域問題を捕捉し問題解決する仕組みづくりをコーディネートし、地域デザインする知識と力量を習得していく。そのため地域理解を深めるためのフィールドワーク、地域特有の諸問題を把握するためのフィールドリサーチ、それらを通じて地域問題を解決する仕組みやそれらを提案する分析力、プレゼンテーション等の力量を涵養する。また具体的な実習フィールドは主として、旧産炭地域であり、市として日本最小の人口規模である北海道歌志内市と、政令指定都市であるものの人口ダム機能があまりみられない北海道札幌市等である。	

専門科目	地域デザイン専門科目	ソーシャル･ビジネス論	本科目は講義形式である。社会的課題への解決をボランティアとして取り組むのではなく、ビジネスの手法を用いて行う社会的活動の形がソーシャル・ビジネスである。本講義では、ソーシャル・ビジネスの概念と目的を、ソーシャル・ビジネスの3要件（社会性・事業性・革新性）から明らかにし、その理解を深めることを目的としている。そして株式会社（とくにベンチャービジネス）やNPO法人、公益法人あるいは労働者協同組合によるソーシャル・ビジネスの実践事例を用いて、事業内容とお金の流れを通して検討し、新しい社会的価値を産み出し、社会に貢献する事業とは何かを考察する。これらを通じて、ビジネスの手法を用いた社会的課題の現状と課題および社会協働のあり方への理解を深める。	
		ソーシャル・マネジメント論	本科目は講義形式である。行政、NPO、企業等の強みや課題を理解した上で、地域で連携して社会課題解決に取り組む事例研究を中心に、それぞれの組織の役割や持続可能な取り組みとして地域社会に根付いていくために必要なマネジメントについて学ぶことを目的とする。人口減少、少子高齢化、格差拡大など現代の社会背景の下、社会課題は、ますます多様化、複雑化している。公共の担い手である行政だけでは、この社会課題を解決していくことはできない。一方、新たな公共の担い手として多様なNPOが存在し、また、SDGsやESG等に代表される社会課題解決に取り組む企業の取り組みが拡大している。福祉マインドを持った学生が、ソーシャル・マネジメントを学ぶことで、社会人として地域社会の繋がりを創り、社会課題への対応力が高まった地域の担い手として役割への理解を深めるものとする。	
		医療経済学	本科目は講義形式で行われ、日本の医療保険制度の意義と課題を考えることを基本目的とする。医療経済の目的は、受診機会の平等、治療方法の効率および費用負担の公平の観点から医療制度を評価して、改革の方向を探ることにある。日本では、1961（昭和36）年の国民皆保険の制度的定着以降、受診機会の平等が基本的には保証され、長寿社会や長い健康寿命および低い乳児死亡率といった点で一定の成果も得られている。一方において、医療費が増加する中で医療保険財政の赤字が拡大し、これが制度の持続（可能）性を低下させる要因にもなっている。少子高齢化と経済の低成長が長期的トレンドと予測される現代において、医療制度改革は重要課題の一つになっている。本講義は、こうした課題について、上記の目的に加え財政との関係を踏まえながら整理・検討する。また、アメリカのマネジドケア（管理医療）との比較を通して、日本の医療制度の特徴を考える。	
		労働法	本科目は講義科目である。到達目標は、①わが国の労働法体系の基本的枠組みを理解すること、②現在生じているさまざまな労働問題に対して、法的な視点から当該問題の発生原因とその解決法を説明できる能力を習得すること、である。具体的内容としては、労働法全体の法体系を理解した上で、就職活動から採用そして就労から退職に至るまでの労働者としての生活の中の個別的関係における労働問題に主眼を置いて、学説の状況や様々な裁判例を交えて学習する。さらにこれらの問題に対して労働者集団（労働組合）としてどのように対応が可能かという集団的労使関係の重要性について理解を深めていくものとする。	
		行政法	本科目は講義科目である。本科目の目的は、第一に、行政活動という、社会を管理する国家活動の存在意義と内容について精確な理解に達すること、第二に、憲法学を基礎とした「法治主義」の内容について精確な理解に達すること、第三に、判例の精読を通じて法理論的な思考を涵養することにある。本科目の内容は、行政法総論（行政作用法）の概説である。内容を詳述する。まず、行政活動に関する根本原則すなわち法治行政の原則につきその成立史と内容を示す。第二に、行政活動をいくつかのグループ（行為形式）に分類し各々の行為形式に特有の法的諸問題の検討を行う。第三に、最高裁判所などの判例を素にして行政実務の実態・行政判例に特有の思考形式について紹介する。	

専門科目	地域デザイン専門科目		社会調査方法論	本科目は講義科目である。データを読むための基礎的な考え方の習得を目的とする。すなわち。調査データの集計やその後の分析に必要な社会統計学の基礎を学ぶことである。また、データは何を意味し、また、そこから我々は何を知ることができるのかを考えることにより、社会科学的な思考を知ったり、また、自分の興味のある問題解決のための調査方法を学ぶこともまたその目的の一つである。内容としては（高等学校で学ぶ程度の）必要最小限の数学的知識を用いて講義を展開していく。したがって、「数学や数式」という先入観にとらわれずに、そのデータに潜む人間の行動や態度、意識に関するイメージをしながら内容を展開していく。	
	教育科目	教育専門科目	倫理学	本科目は講義形式で行われ、①障害･病気･高齢・死をめぐる倫理学的論点を説明できるようになること、②障老病と「共に在る」ための支援規範を考察するための理論枠組みについて表現できるようになること、を目標とする。 （オムニバス形式／全15回） （9　永井順子・6　田中耕一郎／1回）（共同） 科目の概要、講義方法の説明。 （9　永井順子／7回） 人権の思想的背景を理解するために近代社会の成立と社会契約論について理解し、これをふまえ「罪と罰」「死」「自殺」「国家と優生」「社会と老い」をめぐる倫理学的論点について学ぶ。 （6　田中耕一郎／7回） 知的障害者の位置づけという視点から伝統哲学･倫理学等のありようを学び、これをふまえ「正義」「承認」「分配」をめぐる議論を確認しながら障老病と「共に在る」ための支援規範について考える。	オムニバス・共同 （一部）
			憲法Ⅰ〔人権〕	本科目は講義形式で行われ、①立憲主義の理念をふまえ、日本社会で果たす憲法の役割について正しく理解できること、②人権保障の内容とその限界について通説を正しく理解するとともに、学説の対立状況を的確に把握できること、③人権保障における裁判所の役割について正しく理解するとともに、憲法の基本判例について事実と判旨を正確に説明することができること、を目標とする。まず、国家において憲法を制定する目的にかかわる立憲主義の思想と、憲法の概念について整理する。また、大日本帝国憲法と現行の日本国憲法の制定史を学ぶとともに、2つの憲法の特質と差異について考える。さらに、立憲主義を制度として確立するための2つの基本原理、すなわち三権分立と基本的人権について学修する。本科目では、人権保障のうち包括的基本権と精神的自由権につき、基本判例を網羅的に取り上げ、重要論点についての学説上の対立について解説する。	
			憲法Ⅱ〔統治機構〕	本科目は講義形式で行われ、①憲法の重要な基本判例について正確に理解し説明することができること、②憲法の基本論点について通説を中心に学説の対立点を的確に指摘する力を身につけること、③憲法の現代的な論点について判例と学説などの知識を動員して自分の見解を説得的に主張することができること、を目標とする。憲法Ⅰに引き続き前半は基本的人権の保障を学修する。経済的自由権、社会権、参政権を中心に判例学説を広く解説する。また、すべての人権にかかわる論点である人権の享有主体性と私人間適用の問題も取り上げ、人権学修の総まとめを行う。後半は、国会、内閣、裁判所の地位と権能について説明するとともに、日本の政治システムにかかわる問題を考える。最後に天皇制と平和主義の問題を取り上げ、日本国憲法の特質について再確認する。	
			現代社会学	本科目は講義形式で行われ、①現代社会学の基礎を、学史として説明できるようになること、②「社会」という枠組みが、近代において独自に編成された点を説明できるようになること、③特定の現象を社会学の方法を用いて説明できるようになること、を目標とする。本科目は、大きく三つのパートから構成される。第一部は現代社会学の潮流をなす社会学理論の基礎と思考様式を学ぶ。第二部は現代社会の諸現象を家族、労働、都市、メディア、地域、身体、社会運動という主要トピック別に検討する。その上で、第三部はグローバリゼーションやリスク社会といった特定の現象の分析を受講者間の「アクティブ・ラーニング」によって行う。これら全体を通じて、受講者は現代社会学の基礎とその具体的な応用の仕方を学ぶ。	

専門科目	教育科目	教育専門科目	国際政治学	本科目は講義形式で行われ、①国際政治・世界政治の基本概念について理解し、それらの概念を活用して、地球社会の現状に接近できるようになること、②現在の地球社会は大きな変動期を迎えているが、近代における変化のトレンドを認識し、21世紀における変化の方向を判断できるようになること、③言葉によって考えを整理し、それを平明な言葉で表現できるようになること、を目標とする。第一に国を所与とみなして、地球社会の意味を説明するための枠組みをもたずにきた伝統的な国際政治の枠組みについて学ぶ。第二に「グローバル化」が国際政治に与えた影響について学ぶ。第三に感染症、資源危機、環境破壊、食料と人口など、今日の私たちが直面する多様な地球的問題群を検討する。第四に地球的問題群への対処としての「地球政治の組織化」について学習する。以上より、地球という天体に住むヒト社会の現状・課題・解決策について、理解を深める。	
			宗教学	本科目は講義形式で行われ、①伝統宗教の成り立ちと思想の基本について説明できるようになること、②現在の宗教状況に対する自分なりの関心や問題意識を、正確な知識にもとづいて説明できるようになること、③宗教学という学問の基本的な目的と特質を説明できるようになること、を目標とする。本科目ではキリスト教や仏教など、長大な伝統をもつ宗教の成り立ちと思想の基本を解説しながら、「われわれはどこから来て、どこへ行くのか」「われわれはいったい何者なのか」といった問いを人類が「宗教」を通してどのような仕方で問うてきたのかを具体的な事例に則して考える。また、現在進行形の「宗教」の変化に対する敏感で柔軟な好奇心と探究心を養うために、身近で具体的な事例をもとに、今日の宗教状況について解説を行う。以上は常に「宗教学」の視点から行うため、この学問の基本性質と基礎理論、および今日的な課題についても解説する。	
			現代政治学	本科目は講義形式で行われ、①現代政治の制度、議会制度の様々な働きと限界について知識を身に付けること、②21世紀の現代において政治に求められている諸課題を知り、私たち一人一人が、現代政治の主役であることを学ぶこと、を目標とする。政治とは人類発祥の時から続く人間の活動であり、「自己と違う他者と共存する活動」と一般的に定義できる。ただし、今の日本社会では政治は議会を中心とした国会議員や政治家の活動としてイメージされることが多い。本科目では、日常使われる政治のイメージを離れ、政治の政治たる由縁～政治のアイデンティティ～を明らかにしたうえでグローバル化する世界の中で、私たち一人一人、そして将来の世代の幸福に直接つながる現代政治の様々な側面を学ぶ。	
			社会思想史	本科目は講義形式で行われ、①社会思想に関する基本的な知識を身に付け，説明できるようになること、②社会思想の展開を理解し，説明できるようになること、③現代の社会を相対化して捉え，説明できるようになること、を目標とする。社会思想の歴史を学ぶことを通じて私たちを支配しているものとは全く異なった考え方や見方がある、またはあったということ、それらの考え方や見方が、人々の生活を支えたり、大きく変えたりしたという事実を理解することができる。本科目では、政治、経済、文化、宗教、歴史、自然が織りなす社会の在り方と、それに対する人間の関わり方について考える思想を論じることによって、さまざまな見方や考え方と出会い、現代社会という「時代と社会」の見方や考え方を相対化し、未来社会を構想するための足がかりを提供する。	
			国際経済学Ⅰ	本科目は講義形式で行われ、①国際経済学の基本的諸概念・諸理論を説明できるようになること、②上記の諸概念・諸理論を現実の国際経済の諸現象に適用し、考察できるような能力を養うこと、③南北関係に着目して、現代世界経済の基本的枠組を理解し、その中に現実の国際経済の諸現象を位置づけて説明できるようになること、④目まぐるしい現実の変化を大きな枠組の中で把握する力を養うこと、を目標とする。第一に国際経済へのアプローチをする仕方として、国民経済を分析単位とする考え方と世界システムを分析単位とする考え方を学ぶ。第二にモノの移動ーすなわち国際貿易を規制する諸法則についてみるために学説史を学ぶ。第三に、カネ（＝資本）の移動を取り上げ、特に直接投資の主たる担い手として多国籍企業に焦点を当てる。多国籍企業の特徴、企業の多国籍化を説明する諸理論、多国籍企業と国民国家との関係、などについて論じる。	

専門科目	教育科目	教育専門科目	法学概論	本科目は講義形式で行われ、①日本国憲法を最高法規とする日本の実定法の在り方に関する基礎的な知識について説明できるようになること、②個人の尊厳・立憲主義・民主主義・罪刑法定主義・適正手続主義・私的自治の原則・契約自由の原則など近代法の理念や原則に関する知識について説明できるようになること、③前記①②をふまえ、諸法の現代的な発展も考慮しつつ、現代社会の法的課題に関して、規範的かつ創造的な解決法を提起することができるようになることを目標とする。講義形式だが、予習を元にした学生同士の議論や教員との質疑応答などアクティブに学ぶ方法を取り入れる。本科目では、学生諸君が誤解しやすい概念（例えば、人権、権利、義務、責任、自由、平等、公平、公正、適正、公と私、公共の福祉など）を丁寧に解きほぐしながら、個人の尊厳を保障するための法や課題解決の在り方を共に考えたい。	
		特別支援教育専門科目	知的障害者の病理保健	本科目は特別支援学校教員免許取得のための必修科目であり、講義形式で行う。国際生活機能分類に基づく障害概念、特には神経発達症の現状と課題、特別支援教育などについての理解をすることが目的である。具体的には、小児の発達を理解し、学校保健について、知的発達症・自閉スペクトラム症・注意欠陥多動症（ADHD）・限局性学習症（LD）・発達性協調運動症（DCD）の各用語の変遷と定義・疫学・合併症とそれらへの対応についても理解する。また、小児の精神疾患と感情・行動の障害及び物質関連障害についても併せて理解する。	
			肢体不自由者の病理保健	本科目は特別支援学校教員免許取得のための必修科目であり、講義形式で行う。肢体不自由者を病態生理学的に理解することを目的とする。具体的には、障害の捉え方及び「肢体不自由」の定義、身体の運動機能に関連した各器官の構造と機能・運動の発達についての基礎的な知識、各疾患を通した肢体不自由の医学的理解、重症心身障害者と子どものリハビリテーションについて理解する。特に、肢体不自由の原因となる疾患及び脳性麻痺について、その病態の理解や、それに随伴する構音障害、摂食・嚥下障害、呼吸障害について理解を深め、肢体不自由者の発達と療育に関わる多職種のチームアプローチについて説明できるようになることを目指す。	
			病弱者の病理保健	本科目は特別支援学校教員免許取得のための必修科目であり、講義形式で行う。病弱児童・生徒の心身の状態を理解できるようになるため、各種疾患や健康障害についての基本的知識を獲得することが目的である。健康障害をもつ児童・生徒を理解するためには、心身の健康を総合的にみることが必要であるが、本科目では特に精神障害・内部系疾患の観点から解説する。具体的には、悪性腫瘍・循環器疾患（心機能と構造、先天性心疾患や心筋症・不整脈・川崎病、その他の基礎疾患）・腎臓疾患・呼吸器疾患・糖尿病（肥満）・膠原病・内分泌疾患・心身症・思春期摂食障害・小児の統合失調症、そして虐待被害と心身への影響について理解する。	
			知的障害教育方法論Ⅰ	本科目は特別支援学校教員免許取得のための必修科目であり、講義形式で行う。本科目では、特別支援教育のもと、知的障害や発達障害のある子どもに対する教育方法について理解し、併せて特には就学までの期間を中心に、親支援を含めた就学のあり方についても理解する。具体的には、特殊教育と特別支援教育の思想・制度的変遷の理解をはじめ、知的障害・発達障害の国内外における概念の変遷、発達アセスメントの考え方と手法（行動観察と心理諸検査・テストバッテリー）、知的障害・発達障害の早期発見と療育システム、就学指導・相談と障害児福祉機関と学校教育との連携について理解することが目的である。	

専門科目	教育科目	特別支援教育専門科目	知的障害教育方法論Ⅱ	本科目は特別支援学校教員免許取得のための必修科目であり、講義形式で行う。「知的障害教育方法論Ⅰ」を踏まえて、本科目では、就学以降の学校教育における知的障害のある子どもの教育方法について理解するとともに、障害の程度や特性に応じた具体的な指導法と学校における授業実践を身につけ、展開できるようになることが目的である。講義は、特別支援学校（知的障害）での教育実践や教育課程について、視聴覚教材を活用して教育臨床の観点から具体的な理解を促す。そして、指導内容については、学習指導要領から基本的事項を学び、教科や合科の授業について実践的に展開するための演習によって身につける。	
			病弱教育方法論	本科目は特別支援学校教員免許取得のための必修科目であり、講義形式で行う。本科目では、病弱教育が対象とする児童・生徒について現状を把握し、特別支援学校（病弱）や特別支援学級（病弱）の主な実践内容を踏まえ、病弱教育における教育課程全般について理解することが目的である。具体的には、病弱教育の意義と教育課程の編成における考え方、指導上の全般的な留意事項、児童生徒の様々な病状に対応した指導上の課題（ベッドサイドやターミナル期での指導等）、病弱教育における教科指導上の工夫と留意点、合理的配慮と各教科等を合わせた指導、自立活動と個別の教育支援計画・個別の指導計画の内容、病弱児童生徒の進路とキャリア教育、医療との連携、その他の病気等に応じた教育配慮の実際について理解をする。	
			重複障害・ＬＤ等教育論	本科目は特別支援学校教員免許取得のための必修科目であり、講義形式で行う。本科目では、2つ以上の障害を併せ持つ重複障害や、ADHD・LD・自閉スペクトラム症などの発達障害について、心理的・生理的な基礎的知識を含めた教育論について捉え、教育的な取り組みの実際について理解することが目的である。授業では、これらの障害それぞれについて、診断と定義、臨床像と指導の実際、保護者理解とソーシャルスキルトレーニングなどについて解説し、それぞれについて実践的な指導場面を映し出した視聴覚教材による理解や、保護者を招聘しての体験談を講話してもらう方法などにより、実践的な理解を促す。	
			肢体不自由教育方法論	本科目は特別支援学校教員免許取得のための必修科目であり、講義形式で行う。本科目では、肢体不自由教育についての指導内容や指導方法を理解し、特別支援学校（肢体不自由）において教育実践が展開できるための資質を培うことが目的である。授業は、肢体不自由教育の歴史的背景やその思想の発展について学ぶこと、学習指導要領を基に肢体不自由教育の教育課程と教育内容について解説し、各教科や領域における指導内容と方法について、学校現場での取り組み方として理解する。具体的には、肢体不自由教育における障害特性を踏まえた指導、個別の教育支援計画と指導計画の内容、教科別指導と療育・教科を合わせた指導、キャリア教育と進路指導、学級経営の実際、障害の重い児童生徒への医療的ケアや摂食指導について理解する。	
			視覚障害教育論	本科目は特別支援学校教員免許取得のための必修科目であり、講義形式と授業時間中に行うワークショップ形式で行う。本科目では、視覚障害児の視覚的模倣による日常生活動作や技術の習得が困難な状態への理解を踏まえ、点字による読み書きや白杖による歩行、視覚障害児や弱視児用に工夫された各種の教材を用いて見えにくさについての体験学習を行うことによって、視覚障害児の教育に関する基本的な事項を理解し、その指導に関する実践的なイメージの形成ができるようになることが目的である。併せて視覚障害教育の歴史を踏まえて、盲児・弱視児のそれぞれに対する指導内容・方法・配慮点、教科や自立活動における配慮事項について理解をする。	

専門科目	教育科目	特別支援教育専門科目	聴覚障害教育論	本科目は特別支援学校教員免許取得のための必修科目であり、講義形式で行う。本科目では、聴覚障害教育の歴史的変遷を踏まえ、聴覚障害教育に従事する教員に広範に求められる専門性について基礎的な理解をすることが目的である。聴覚障害教育における、聴覚口話によるコミュニケーションの重視、聴覚口話と手話教育との二元論的対立、聴覚口話に手話を併用する教育の主流化、そして現在のろう者の手話言語である日本手話を活用した教育実践への歴史的系譜を理解するとともに、補聴器や人工内耳の性能向上を始めとする諸技術的進歩や発達障害・知的障害を重複するケースなど、教育ニーズの多様化に応じた教育内容・指導方法の概要について理解する。	
			障害児教育実習	本科目は特別支援学校教員免許取得のために必要な実習科目であり、特別支援学校における教育実習及び事前・事後指導を行う。事前指導において学生は、教育実習の意義と実際の理解に始まり、学習指導要領による特別支援学校の教育課程の理解、学習指導・学級指導の実際、学習指導案の作成について理解する。それらの講義を踏まえ、学生は模擬授業を実施することによって授業展開スキルを身につける。そして、３週間程度の特別支援学校における教育実習に参加することによって実践的な指導について学習する。実習後の事後指導では、教育実習内容の振り返りと実習報告（発表）会、実習受け入れ校の教員を交えての反省会を実施し、教育実習による学びの成果と課題を捉えることが目的である。	
大学共通科目	人間科学		健康管理学	本科目は、健康の定義や健康観など、健康の捉え方について学修し、疾病予防や生活習慣の改善に向けた正しい知識や方法についての理解を深めることを目的とする。超高齢化社会に突入している我が国にあって、生活習慣病対策や2011年に起きた未曾有の大震災及び昨今の新型コロナウイルス感染症の拡大など健康に関する世の中の状況は刻々と変化をきたしている。また、積雪寒冷地にあっては、寒冷や雪がもたらす身体への負担やストレスも健康障害に至ることが指摘されている。本科目では、健康に関する指標や現状を学修し、健康増進と健康管理に関する具体的な知識を身につけることをねらいとする。	
			身体の科学Ⅰ	本科目は、身体の構造や機能に関する基本的な知識について理解し、身体活動の基本的な仕組みである筋と関節の動きについて学修することを目的とする。特に、身体の科学Ⅰでは、動きのメカニズムについて解剖学や生理学によるアプローチを中心に学修する。身体活動の重要性に関連して、活動性を高めるために必要な科学的な知識や理論を活用するための能力を身につけることをねらいとし、このことは、健康関連体力（生活関連体力）として、高齢化や生活習慣への懸念が生じている日常における生活活動ばかりではなく、スポーツ活動を中心とする競技関連体力に対しても重要な役割を果たすものと考えられる。本科目では、これらの重要と思われる役割について、身体活動の基本的な仕組みを中心に、科学的なメカニズムを背景に学修する。	
			身体の科学Ⅱ	本科目は、個々のパーツの動きが身体の運動にどのように関係しているかということの応用を中心に学修することを目的とする。身体の科学Ⅰでは、個々の筋と関節に関する動きのメカニズムを中心に学んだが、身体の科学Ⅱでは、運動を包括的に捉え、バイオメカニクスなどの力学的な基礎や体幹や上肢、下肢といった各部分における構造と動き及び機能などについて学修する。最終的には、バイオメカニクスや運動と力学に関する基礎知識を説明できるようになり、身体の仕組みと機能に関する科学的な知識と理論について活用できることを目指していく。	

大学共通科目	人間科学	スポーツ医学	本科目は、スポーツ活動の実施にあたり必要な医学的知識・技能の習得とスポーツ指導者として求められる医科学的知識を修得することを目的とし、スポーツ指導者の持つ役割について学習するとともに、特に多い整形外科的な事例を中心に、その発生のメカニズムから治療法及びリハビリテーションの実践までを取り扱う。整形外科的な問題は対処法はもちろんのことその予防に関して学ぶ。予防法に関してはテーピングとの関連でも学ぶ。また、マウスピースと歯科口腔外科との関係も取り扱う。スポーツの現場で日常的に発生している事例を基に講義を進めていく。	
		スポーツ生理学	本科目は、「運動によって身体の仕組みがどのように変化するか、その現象と働きについて探求する学問」であることを理解し、スポーツによって起こる様々な身体機能の変化を学ぶことにより、健康な生活を営む上で必要な知識の組み合わせによって個々人に合った健康法を確立するための一助とすることを目的とする。知識の記憶にとどめることなく、思考の深さや広さ及び関連科学との融合に結びつく考え方を習得することを講義の課題とし、まずはスポーツや身体活動と身体の機能変化に伴うメカニズムを理解する。wholehuman、wholebodyとして考えることを習得することを目的として講義を展開し、その過程で「科学は仮定」であることを常に念頭に思考を深めることが重要である。また、スポーツ生理学の基礎知識により、自己のスポーツ活動の調整や健康管理の動機付けになり、生活の質的向上につながる機会を創造することも期待する。	
		スポーツ栄養学	本科目は、学んだ知識を「（1）自分のスポーツ活動や健康づくりに応用できるようになること」「（2）知識を求める他者に、正確、適切に伝達できるようになること」「（3）学んだ知識をもとに、氾濫した栄養情報の中から、正しい情報を取捨選択できるようになること」を目的とする。摂取された食物が遺伝子情報のもと処理された結果、体は形づくられ、存在し、機能することから、不適切な栄養摂取は体の形や働きに悪影響を与える。競技スポーツや健康づくりの場面で行われる運動は、時には体にとってストレスであり、これを上手に処理し、運動を体にとってプラスの刺激とするには、栄養への十分な配慮が欠かせない。前半部で栄養学の基本的知識を学び、後半部でスポーツや健康づくりのために運動する人たちがパフォーマンスの向上や健康度のアップにどのように栄養を摂取すればよいか、その科学的で具体的な方法について学習する。	
		スポーツ科学	スポーツは、思いきりからだを動かすことや、競うこと、仲間と協力して目標を達成することを楽しむ活動であり、スポーツ科学は、様々な情報（データ）に基づいて、スポーツ活動を充実させるための学問分野である。一般的にスポーツ科学には力学や生理学、栄養学、生化学、医学、心理学など多くの専門分野があるが、これらの専門分野に触れる本科目では、スポーツの事象を、それぞれの専門分野の応用的手法を用いて、数値的に理解し、スポーツ科学の理解と活用方法を学修することを目的としている。	
		体力育成論	本科目は、身体活動能力を高めることをねらいとして、その方法論を学修し、トレーニングの原理や原則及びトレーニング処方などの理解を深めることを目的とする。様々な身体活動能力を高めるためのトレーニング方法を学ぶとともに、トレーニング計画やそのプロセスも学び、実際に運用する能力を身につける。また、施設の整備などの環境や管理面の学修をはじめ、トレーニング指導に関連する安全性やスポーツ文化に対する享受能力の向上も目指したい。	
		体育実技Ⅰ	本科目は、健康に関連した体力や運動の必要性を理解した上で、自己の体力を保持・増進できるよう、主体的に運動の実践に取り組めるようになることを目的とする。具体的には実習形式の授業で、健康に関連する知識を深めながら、複数開講されているスポーツ種目等から選択し、自主的に自らのウエルネスの向上に取り組むことを期待する。障がいなどにより運動を行うにあたり特段の配慮が必要な学生、あるいは運動を制限されている学生のために、アダプテットスポーツクラスも開講する。	

大学共通科目	人間科学	体育実技Ⅱ	本科目は、身体知を通して、スポーツ文化の享受能力を育み、体育実技Ⅰを修得の上、さらに理解を深め学習深度を増すことを目的とする。具体的には、各種身体運動やスポーツ活動の実践を通し、「（1）心身の健康と体力の向上を図る」「（2）身体運動に関する科学的知識を深める」「（3）体育やレクリエーションに関する社会的、道徳的意義を理解する」「（4）リーダーやサポーターとしての社会的態度を修得する」「（5）スポーツ技能を習得する」ことを主な目的とする。これらの目的を十分理解し、生涯にわたって体育・運動を実践することを期待し、健全な心身を育むことを目指す。	
		生涯スポーツⅠ	本科目は、運動の定着化をはかりスポーツを通して健康体力の増進を図ることをねらいとして、授業目的であるスポーツ文化の享受を実技実習を通して体得し，健康体力の保持・増進を自ら実践することを目的とする。生涯にわたり健康な生活を送るためには、運動の定着化が必要となることから、自らの体力を維持・増進させる手法を身につけ、身体活動を通して健康的な生活習慣の獲得をねらいとする。生涯スポーツとして卒業後も継続しやすい種目を設定し、テニス、バドミントン等を中心に適宜、ライフステージに応じたニュースポーツを紹介する。また、エルゴメータを用いた運動負荷試験や体力テストを実施し、自分の体力の現状を把握し運動処方を作成する。	
		生涯スポーツⅡ	本科目では、生涯スポーツⅠの目的、概要を踏襲し、その続きのテーマで授業を行なう。スポーツ文化の享受を実技実習を通して体得し、健康体力の保持・増進を自ら実践することを目的とする。現代社会では、健康に対する重要性が高まっており、青年期は生涯に向けての健康関連体力の総仕上げの大切な完成期にあたる。生涯に渡り健康な生活を送るためには、運動の定着化が必要となることから、自らの体力を維持・増進させる手法を身につけ、身体活動を通して健康的な生活習慣の獲得をねらいとする。生涯スポーツとして卒業後も継続しやすい種目を設定し、テニス、バドミントン等を中心に適宜、ライフステージに応じたニュースポーツを紹介する。また、エルゴメータを用いた運動負荷試験や体力テストを実施し、自分の体力の現状を把握し運動処方を作成する。	
		スポーツ指導論	本科目は、公認スポーツ指導者として必要な発育、発達に応じた運動能力とライフステージに応じて獲得されるスキルの基本となる運動動作の概念を理解し、実技師範能力をはじめ，スポーツ活動特有のスキルの獲得に結びつく指導体系を自ら構築する知識・技能を体得することを目的とする。なお、本科目は、体育実技実習科目とは異なり、公認スポーツ指導者としての資質と技能について学ぶ授業である。	
		健康体力論	本科目は、公認スポーツ指導者として必要な実技師範能力を始め、資質、態度、師範能力を体得することを目的とする。ライフステージや様々な対象に応じた運動プログラムの作成と運動実践に当たり、それぞれの対象に関わる個別の留意事項を学習し、指導計画と安全管理についての深い見識を高める。本科目は、体育実技実習とは異なり、自ら指導・助言を行う公認スポーツ指導者として資質を学ぶ授業である。	
		人間科学演習Ⅰ	本科目は、スポーツ指導における指導者の役割とプレイヤーズセンタードの考え方を理解することを目的とする。スポーツの価値やスポーツの未来への責任を自覚し、プレイヤーズセンタードの考え方のもと、常に自ら学び続けながらプレイヤーの成長を支援することを通して、豊かなスポーツ文化の創造やスポーツの社会的価値を理解する。スポーツ指導を行う上で求められるコミュニケーションスキルとして、論理的な思考能力、意思伝達、交渉能力、調整能力を獲得・向上させ、プレイヤーズセンタードなコーチングについて学習する。	

大学共通科目	人間科学	人間科学演習Ⅱ	本科目は、身体に関わる知を、スポーツ社会学的に思考できるようになること、スポーツ文化の享受に向けたスポーツ政策の策定から実行までのプロセスを理解すると共に、スポーツを取り巻く様々な事象を考察し、社会学の視座から学習できるスキルを修得することを目的とする。スポーツを社会現象として捉え、それをゼロから思考してみることは、私たちがスポーツをどのように受け止め、それを実践しているかを自覚させる。このことによって、これまで学習してきた体育・スポーツにかかわる知をより理解することになる。	
	人文科学	哲学Ⅰ	本科目は、世界の全てについて知ることを楽しみ、疑う力を身につけるために、これまでの西洋の哲学者がどのようなことを考えてきたか知ることを目的とする。哲学という言葉は、「知ることを愛する」を意味するギリシア語に由来し、「なにかすでに知っていること」すなわち何らかの知識が哲学なのではなく、あくまで知ろうとする姿勢こそが哲学を哲学たらしめる。一つ一つの知識を尊重することは大切だが、それと共に、そうした知識が何に由来するのか、どれだけ信頼できるのか、どういう特徴を持ち、どういう限界を持つのか確かめてみる必要がある。そういう観点からも、歴史的に、哲学は全ての学問のスタートであったということを知っておくことが役立ち、価値の問題や人生の意味といった問題を考えるヒントを与えてくれる。「考える楽しさ」、「考えることの奥深さ」の「考え方のサンプル」として、哲学史上のさまざまな人の考え方を紹介していく。	
		哲学Ⅱ	本科目は、「哲学（者）とは何であるか」という問いに含まれる哲学と社会との関係について理解することを目的とする。「哲学」については、実際の姿や期待されるあり方など様々なイメージがある。また、仮に期待通りの「哲学者」が存在したとして、その人は哲学にのみ従事しているのか、あるいはそうすべきなのかについても、様々な意見がある。例えば、その人は孤独に生きているのか、それとも家族や友人、マーケットや国家、さらには国際社会やグローバル化社会と何らかの関係をもっているのか等と問うことができる。そして、哲学（者）の存在は果たして必要なのか。そもそも哲学（者）は「何を」するものなのか。本科目は、西洋の哲学の歴史を振り返ることにより、哲学（者）とは何であるかについて、また哲学という精神的生と、他者との交流を含む社会的生との関係について考察する。	
		心理学Ⅰ	心理学は、人間の心理・行動を科学的に研究する学問である。人間の心理・行動は多様な側面を持っているため，心理学の研究もまた、知覚心理学，学習心理学、認知心理学、感情心理学、社会心理学、発達心理学、臨床心理学など多岐に渡って行われている。本科目では、まず心理学の歴史について学び、さらに、知覚、認知、記憶、学習、動機づけ、情動に関する基礎知識を身につける。最終的には、心理学の基礎的な知見を説明できるようになることを目標とする。	
		心理学Ⅱ	本科目では、心理学Ⅰで学んだ知識を基礎として、多岐にわたる心理学の領域の中から社会生活を営む上で理解すべきいくつかの領域（問題解決、性格心理学、発達心理学、社会心理学、臨床心理学など）を取り上げ、解説する。学んだ知識を基に，自己や他者の行動や心理を客観的に理解しようとする態度を身につけ、日常生活における様々な行動を心理学的視点に立って理解し、各自が置かれた物理的・社会的環境において適応的な行動を取れるようになることを目標とする。	
		現代社会と倫理	現代において、人間の倫理について最も厳しく問い直しが迫られているのは、医療や生命科学に関連する分野においてである。代表的な問題としては、生殖医療技術（体外受精・代理母等）に伴う問題や、出生前診断にもとづく選択的中絶の是非、脳死臓器移植、安楽死・尊厳死の問題などがある。本科目は、これらの諸問題について内容と論点を解説する。そして最終的には、これらの内容と論点の理解を踏まえ、各問題について自分自身で考察し、自分なりの見解を持てるようになることを目的としている。	

大学共通科目	人文科学	音楽の世界	音楽は、人間の知的活動によって創出される文化的営みである。人間が創出するものであるから、音楽を考察する際には、時代的・社会的・文化的な人間活動として音楽をとらえようとする姿勢、つまり、「社会の中の音楽文化」「音楽を通して社会を見る」という視点が重視される。本科目では、西洋芸術音楽の歴史を社会・文化との関わりの中で理解し、時代的・社会的・文化的な人間活動として音楽を考察する視点を身につける。	
		美術の世界	本科目は、人間の創造性と感性の所産である美術について、多様な表現に触れながらそこに表された思想、信念、感覚、感情などを考察し、視覚芸術である美術の本質と文化所産の伝播・伝承の実相を探究することを目的としている。古今東西の美は、人類の創造力の証として世界各地の文化財や美術作品にその姿をあらわしている。本科目では、各地域・各時代の代表作によって美術の歩みを概観し、その基礎知識を学ぶとともに、特徴的なテーマについて時代と空間を往来しながらその特質にアプローチし、美術文化の創造と受容の過程を理解する。さらにこれらの美術史を構成する美術作品が美術館や博物館において文化財として保護・活用され、新たな美的価値の創造に大きな役割を果たしていることにも理解を深める。	
		文学の世界Ⅰ	本科目では、昭和のはじめから戦後直後にかけての「日本」で活動した小説家である太宰治に注目し、そのテキストのうち、代表的なものをいくつか取り上げる。そして、それらを「批評」の文学という観点から分析し、その意義を理解することを目的とする。ここでいう「批評」とは、テキストが発表された当時における社会状況を踏まえ、それに対して小説の表現を通じて何らかの問題提起を行うことである。太宰治の小説は従来、作者が自らの思いを赤裸々に作品化した「告白」の文学として理解されることが多かったが、本科目では、そのような理解の背景にある文学観を改めて見直すことまでを目指している。	
		文学の世界Ⅱ	本科目では、柳田国男（1875～1962）が、明治後期（1910年代）から昭和前期（1940年代）までに発表したテキストをとりあげ、そこに認められる「日本」に対する考え方と、その考えが発表された同時代における社会状況との関連を解説していく。従来柳田の活動は、日本に暮らす人々に受け継がれてきた習慣や営みでありながら、それまで学問の対象として注目されてこなかった事柄をとりあげた点に注目され、「日本民俗学の父」として評価されてきた。しかしそれを、ある時代の社会的テーマに対する、自らの言葉＝テキストを通じた、解決や改善の試みとしてとらえるとき、柳田の残したテキストは、もうひとつの「近代文学」として理解することが可能になる。そのような理解を可能にするための道筋と重要事項を修得していくことが、この講義の目的となる。	
		文化人類学	本科目では、社会と自然の二つの観点から「北海道」を解きほぐしていく。北海道の社会を考えていくにあたって炭鉱業を題材に挙げ、考察していく。「炭鉱」は，北海道の近代化を支え，街の形成や繁栄をもたらした一方，1970年代の「石炭から石油へ」エネルギー革命による炭鉱業の斜陽化は，近代化した北海道の社会構造を大きく変えた。このような北海道における炭鉱業の盛衰をたどることで，北海道の社会について理解を深めていく。また，積雪寒冷地帯である北海道についても、積雪寒冷地における人間の営みを顧みつつ，現代的な先進事例も取り扱うことで，北海道の自然，そして，それといかに社会や人間が関わっているかについて考察し、文化人類学の基礎的な概念を身につけることを目標とする。	
		比較宗教学	世界には様々な宗教があるが、それらを比較してみると、多様性と相互の大きな違いと共に、いくつもの共通性があることに気づかされる。本科目は、過去と現代の代表的な諸宗教について、聖と俗、一神教と多神教、民族宗教と世界宗教、「救い型」と「悟り型」などの観点からそれらを相互に比較し、分類、類型化しながら、それぞれの宗教の特色と、相互の相違やそのような相違を超えた共通性について考えていく。世界の主要な諸宗教のそれぞれの特色を理解し、共通性と相違を適切に説明できるようになることを目的としている。	

大学共通科目	人文科学	イスラム教の思想と文化	本科目では、イスラムの歴史をたどりながら、その思想、文化、生活習慣などを平易に紹介しつつ、「異文化」としてのイスラムの適切な理解に努める。また、各地のイスラムの文化的多様性についても明らかにしていく。異文化としてのイスラムについて適切な基本的知識を身につけ、イスラム教が関わる最近のニュースの背景などを正しく理解し、適切に説明できるようになることが目標である。さらに、ユダヤ教、キリスト教とイスラム教の歴史的、思想的関係についても適切に理解し、共通性と差異についても正しく説明できるようになることを目指す。	
		人文科学基礎演習Ⅰ	本科目は、日本の古典文学を主体的・実証的に読み解く方法を身につけるとともに、日本の古典や文化に対する理解を深めることを目的とする。江戸時代に書かれた作品をテキストにするが，そこに描かれている当時の人々の悲喜劇は、喧嘩・殺人・破産・成金・詐欺など、330年も前のものとは思えず、現代人への教訓で溢れている。教室ではディスカッションの時間を多くとり、疑問点や解釈をめぐる議論を行う。具体的には、教師の側から作品に即した時代背景や古文の基礎知識解説などを織り交ぜながら、担当者のプレゼンを中心に進めていく。「多様なものの見方」「問題を発見し、目的を持って調べる技術」「読解力」を身につける。	
		人文科学基礎演習Ⅱ	本科目は、日本の古典文学を主体的・実証的に読み解く方法を身につけるとともに、日本の古典や文化に対する理解を深めることを目的とする。人文科学基礎演習Ⅰは入門だが、Ⅱは応用であるため、作者の構想や人物造形、心理描写などについて、より深い探求を行なう。「多様なものの見方」「問題を発見し、目的を持って調べる技術」「読解力」が身につけながら、ディスカッションを通して、解釈の広がりや自身の読みの深化をはかる。	
	自然・数理科学	科学と人間	本科目は、科学の営みについて哲学的見地に立って考察し、基礎科学に焦点を当てて進めていく。哲学の視点から見るなら、科学の営みを「確証」と「説明」とに大別することができ、さらに、「論証」概念を基軸に据えることで、両者を統一的に捉えることができることから、「論証」について一定の共通理解を形成することから議論を始めていく。最終的には、科学が決して覆ることのない不朽の真理ではなく限界をもつこと、それにもかかわらず科学が信頼に足る知識であることを説明できるよう理解を深めていく。	
		物質の世界	本科目は、物理学を歴史からひも解いて、最新のトピックスまでなるべく直感的に理解することを目指す。併せて、近年影響が顕著になってきた環境問題やエネルギー問題など、科学と密接に関係している社会問題を理解するための物理学についても簡単な基礎知識を習得していく。身近な我々の生活にどのように関わっているか等も含めながら、物質やそれが従う物理法則について解説する。身近な自然現象に対して何故その現象が起こるのか興味を持ち、自然法則に基づいてそのメカニズムを考える姿勢を身に付けていく。	
		生命の科学Ⅰ	本科目は、生命誕生の過程への「元素の生成→分子の構成→細胞の形成」という宇宙論的視座からの理解を行ない、約38億年前から原始的な「生命」が存在したと言われている地球生命史の基本を学ぶ。私たちの地球が生命の星として歩んできたその歴史と秘密を学んでいくことが本科目の大きな目的である。この目的に沿って原始地球から生命が誕生し、酸素発生型光合成細菌の出現を経て、地球大気が酸素に満たされ、更に生命が進化した過程を学ぶことにより、我々自身がこの地球の中で生かされている生物種の一つであることの深い理解を持つことが目標である。	
		生命の科学Ⅱ	一見不思議な生物の能力の背後には、それを可能にする精巧な仕組みが存在する。本科目は、生物の基本的な仕組みを理解し、同時に生物学と社会とのつながりを学ぶことを目的とする。代謝や遺伝、発生、光合成、進化などの生物の重要な概念を学び、最近発展してきたバイオテクノロジーの基本的な技術や、それがどのような可能性を持っているか、また医療や農業の課題に生物学はどのように取り組んでいるのかを紹介していく。理解を深めるため、できる限り科学史的な視点を加える。	

大学共通科目	自然・数理科学	環境と人間Ⅰ	本科目は、地球環境問題について、その基本的なメカニズムの理解とその対策の考察について学ぶことを目的とする。その中で多くのメカニズムの根底にあるフィードバック機構について学び、その対策としての予防原則の重要性の理解を図る。また現在の最も大きな地球環境問題であり、近年頻発している豪雨災害等の異常気象の原因と考えられている地球温暖化に関して、そのメカニズム（種々の説も含めて）と現況および種々の対策（エネルギーの対策を中心として）について講義で取り上げる。これらの講義を通して、自然環境を保全しつつ、安全で快適な生活を送ることについて、すなわち「自然と人間との共生」について、自然科学的、社会科学的、人文科学的に考えていく。	
		環境と人間Ⅱ	本科目では、最初に現在の地球環境と生命ができるまでの歴史について触れ、地球上の様々な地域で問題化した環境問題と人間とのかかわりについて具体例を元に科学的に講義する。地球、環境、人間を含む生命がどのような物質の循環や動態によって制御されたり影響を受けているのかについて紹介する。地球環境について、正しく理解し、自分の言葉で説明できるようになることを目指す。これにより、環境問題に向き合うための基礎ができ、さらには総合的考察力が養われることを期待する。	
		統計学Ⅰ	本科目では、自然科学、社会科学を問わずその客観的なデータ解析のための基本的な方法論を教えてくれる統計学の基礎としての「データの分析」を学ぶ。データの特徴を把握するために、まず、データを収集・整理しグラフ化することでデータの全体の傾向を把握することを学び、次に平均・分散、相関係数といった様々な統計量を求めることを学ぶ。本科目では、「データの分析」について、その基礎概念と初歩的応用を学ぶことが目的である。基本的な原理を知り、それを元に具体的な計算演習を行い、最後に実際の応用例の中から実践的理解を目指す。	
		統計学Ⅱ	本科目では、「データサイエンス」への導入としての統計学の基礎概念への理解と基本的なツールの習得を目指す。そのために、まず「確率論」の基礎を学んだ上で、様々な確率分布を理解し、その理解を踏まえて「推定」、「検定」、「回帰分析」等の基礎を学ぶ。また近年幅広い分野で活用されるようになり「データサイエンス」の中の必須要素にもなっている「ベイズ統計」についても、事前確率である「ベイズ確率」から紐解いて理解を図る。以上の内容について、基本的な原理を知り、それを元に具体的な計算演習を行い、最後に実際の応用例の中から実践的理解を目指す。	
		数学Ⅰ	本科目のテーマとする「線形代数学」で扱う行列とベクトルは、自然科学、社会科学を問わず様々な現象解析の強力なツールである。ベクトル、行列という数学的道具を習得することで、社会科学、自然科学諸分野で大変効率的に定量的解析ができるようになる。本科目では、その為にまず行列の演算を学び、その応用として「連立方程式の解の分類」を学ぶ。また、変動していた現象（例えば価格の変動、人口変動等）が安定する、安定状態（平衡状態）は行列の固有ベクトルとして理論解析され、安定値（価格、人口等）は行列の固有値として与えられる。この固有ベクトルと固有値を本科目の最後で集大成として解説し、その理解を目指す。	
		数学Ⅱ	本科目のテーマとする「微分積分学」で扱う微分法は、自然科学、社会科学を問わず、様々な現象解析の強力なツールになりうる。微分という数学的道具を習得することで、社会科学、自然科学の諸分野で扱われる様々な変量の増減の様子、最適値等の定量的解析が可能となる。本講義では、べき関数、三角関数、指数関数、対数関数という関数の基礎から紐解き、その振る舞いを微分法によって理解する。積分法については自然現象や社会現象を解明するための非常に重要な数学的手段であり、問題解決の道具として使えるように知識の理解と習得を目指す。	

大学共通科目	自然・数理科学	自然・数理科学基礎演習Ⅰ	本科目の目的は、モデル解析を基本とする「数理科学」の基礎概念と基本的手法を学ぶことである。そのために、様々な自然現象（社会現象を含む）の中に潜む数理科学的構造を理解し、中学、高校で学んだ基礎的な数学（指数、対数、微分、行列・ベクトル他）を使った「モデル解析」の基本を学び、随時具体的な練習問題で簡単な演習を行なう。簡単なモデルを使ったテーマと演習問題が与えられたテキストから各自が選んだテーマについて、事前に「レジュメ」を作成して黒板（ホワイトボード）を使って発表する形式で演習を進める。演習参加者を交えた質疑応答を行なうことで、論理的な思考力、表現力と、ディスカッション力を高めることも本科目の目的である。	
		自然・数理科学基礎演習Ⅱ	本科目の目的は、「自然・数理科学基礎演習Ⅰ」の目的と同じであり、その概要を踏襲し、その続きのテーマで演習を行なう。様々な自然現象（社会現象を含む）の中に潜む数理科学的構造を理解し、中学、高校で学んだ基礎的な数学（指数、対数、微分、行列・ベクトル他）を使った「モデル解析」の基本を学び、随時具体的な練習問題で簡単な演習を行なう。簡単なモデルを使ったテーマと演習問題が与えられたテキストから各自が選んだテーマについて、事前に「レジュメ」を作成して黒板（ホワイトボード）を使って発表する形式で演習を進める。演習参加者を交えた質疑応答を行なうことで、論理的な思考力、表現力と、ディスカッション力を高めることも本科目の目的である。	
	社会科学	日本国憲法	本科目では、裁判所の判例や政府の実践にも十分目配りしながら、日本国憲法が私たちの生活にどのように活かされ、あるいはどの点で力を発揮できていないのかを考えていく。その上で、立憲主義の理念を踏まえ、日本社会で果たす憲法の役割について正しく理解すること、日本社会における人権保障の現状と課題を把握し、主権者としてその課題に取り組む意欲を持つこと、人権に関する基本的な判例と学説を正確に理解し説明することができるようになることを目標とする。	
		法学	本科目では、憲法，民法，刑法の全体像と基礎知識を理解することと、法的な考え方を学ぶことを目的とする。講義では、教科書の事例を素材にして、憲法分野、刑法分野、民法分野それぞれについて、法律的な知識と考え方（リーガル・マインド）をレクチャーしていく。学生のアクティブな参加を求める講義である。本科目を受講することで、学生には、法律の基本知識を習得し（リーガル・リテラシーを身に付ける）、法律的な考え方（リーガル・マインド）とは何たるかを理解することを目標とする。	
		世界の近現代史Ⅰ	本科目は、20世紀を中心に西洋の現代史の基本を適切に理解することを目的とする。特に、現代世界の歴史や社会を規定した、君主制と共和政、帝国主義と民族主義、資本主義と社会主義・共産主義、ファシズムと民主主義、冷戦構造とその崩壊、グローバリゼーションと民族紛争といった概念について、正しい理解を持ち、20世紀から21世紀にかけての西洋世界の歴史の流れ全体を頭に入れ、その主たる出来事が現代世界の在り様をどのように規定しているかについて、適切に説明できるようになることを目指す。世界の複雑な在り様は、過去の歴史の産物であり、その帰結である。この講座では、20世紀から21世紀にかけての西洋世界の歴史の流れを整理し直し、それが現在の世界の在り様をどのように規定しているかを明らかにしていく。	
		世界の近現代史Ⅱ	本科目は、19世紀後半から第二次世界大戦後にいたる東アジア世界の歴史的過程を、「帝国」日本を中心に当該地域を取り巻く外交関係や政治的論理とあわせて理解することを目的とする。明治維新以降の「帝国」日本がたどった、東アジア世界を中心とした対外拡張について、国際政治との関係、各植民地・占領地での政策までを含む広い視野で考察し、その選択の背景や、運営の実態を学ぶ。西洋列強の「外圧」のなかから出発した近代日本は、次第に「帝国」日本として周辺部への拡大を続けた。対外拡張にともなって選択された支配の方式は、日本本土への統合から、植民地獲得、傀儡政権樹立、軍政へと移行し、それを維持・経営するための政治制度や対外論理を形成してきた。総体としての「帝国」日本の辿った歴史的過程を、背景となる時代環境とあわせて理解することが目的であり、その上で日本と東アジアを中心とする諸外国との歴史的関係性を考察する。	

大学共通科目	社会科学	政治学Ⅰ	本科目は、今我々が生きている時代の「政治」を身近な世界から見直し、12の問いを立てて「政治」と私たち一人一人のつながりを考え、政治という社会現象に対する理解を高め、現代政治を歴史的・世界的な視点から見つめる視点を得ることを目的とする。政治と私たちのつながりを考えることは、すなわち私たち一人一人が形成している無数の人間活動の網の目を見直し、それをより良いものに変えていくきっかけをつかむことにもなる。現代に生きる私たちは、好むと好まざるとに関わらず「政治」の影響を大きく受けながら暮らしている。「政治」について知っていること、知らないことは、現実世界の中で自らの手で人生を組み立て、それを自分の足で歩んで行く上で、ときに決定的に重要な意味を持つ。	
		政治学Ⅱ	本科目は、バングラデシュという国、そこに生きる人々の社会を、歴史的・文化的背景を含めて学び、「遠くて遠い」存在を「遠くて近い」存在として、同じ地球社会に暮らす多様な隣人の国・社会として、内在的に理解することを目指す。講義では、南アジアの国、バングラデシュに焦点を当てて、その政治の特徴を、歴史、国際関係、グローバル化の諸側面から明らかにする。バングラデシュは、これまで貧困と自然災害の国として知られてきたが、実は、世界最大のＮＧＯが生まれた国であり、世界第3位の人口を持つイスラム教国であり、世界の貧困解決のモデルとされるマイクロクレジットの発祥地でもある。バングラデシュ政治について一定の理解を得ることは、他の開発途上国の政治を理解する上で有益であるばかりでなく、バングラデシュが抱える問題を通して、国境を超える市民社会～地球市民社会～形成の意義と必要を照らし出すことにもつながる。	
		経済学Ⅰ	本科目は、経済ニュースに関心をもつようになること、経済学の歩みを理解し、経済学的思考のエッセンスを身につけること、経済現象に対し、理論の眼をもって向き合うようになることを目的とする。現代の精緻に組み上げられた経済理論そのものを追うのではなく、その源である18世紀の古典派経済学を理解のための補助線として活用し、貿易不均衡や失業など現実の経済問題に関わらせながら、近代経済学(ミクロ理論・マクロ理論)とマルクス経済学のエッセンスを紹介していく。	
		経済学Ⅱ	本科目は、教科書の批判的な読解を通じて、20世紀末からのグローバル化の中で現われた様々な問題を、資本主義経済の根本的な特質と、現在の特有の事柄との両面から学び、現代の経済社会が抱える諸問題の解決の方向について考える力を養うことを目的とする。講義の主要な論点は、「(1)資本主義経済が誕生した時代に資本主義を批判したＫ.マルクスは、資本主義の問題点をどう捉えたのか」「(2)マルクスが指摘した問題点のうち、現代にも当てはまるものは何か、そうでないものは何か」「(3)マルクスでは捉えられなかった問題は何か、その発見と理解には別のどのような見方が必要か」「(4)教科書の著者やマルクスの議論は妥当なものか、そうでないとすれば、それをどう批判し、どう改めるか」等である。これらの探求を通じて、経済社会の将来構想で求められる視点と考察力を育む。	
		社会学Ⅰ	本科目では、社会学的なものの見方を習得し、その基礎的な概念を使って社会を見る方法の理解を目指す。社会学(sociology)とは、文字どおり、社会(socio)の論理(logic)を見つける研究である。社会学が対象とする「社会」は、物理学が扱うような、モノ＝「物理的対象」ではない。むしろ、この「社会」は私たちの目の前にあるようで、「一定の論理を持った意味づけ」をしないと、モノ＝「社会学的対象・社会問題」として見えてこないものである。この講義では、社会に生きる人々がどのような意味を持って〈行為〉をしているか、どのようなやりとり〈相互行為〉をしているか、どのような〈集団〉に属しているのか、そしてその〈構造〉と〈変動〉はいかにして見ることができるか等々の課題に対して、社会学的な補助線を引くことにより、私たちが自覚していないまま使っている社会の論理を解明していきたいと考える。	
		社会学Ⅱ	本科目は、社会学の基本的な考え方とキーワードを理解し、社会学が探究してきた自律の社会的条件について考えることを目的とする。社会学は人と人が日々関わり合う相互作用のあり方に注目することによって、人々が社会をつくり、また社会に影響される現象を記述・説明していこうとする科学である。講義ではまず社会学のねらいや基本的な発想法、キーワードを学ぶ。続いて、相互依存のネットワークにおける人間という発想が個人が自律するための条件につながることを学び、自律という価値についての見直しとその価値を実現するための社会的条件について考える。また、都市と農村の関係、社会の分断とネットメディアなどのトピックを通して、社会学の基本的な発想法とキーワードを応用していく。	

大学共通科目	社会科学	ジェンダーと社会	本科目は、「ジェンダー」という概念を正しく理解し、世の中や自分の中の「常識」を新たな視点から見直すための道具として使えるようになることを目的とする。はじめに、「ジェンダー」の定義を示し、ジェンダー研究の背景を述べた後、さまざまなライフステージや領域におけるジェンダー問題を具体的に取り上げ、一緒に考えていく。様々な場面からジェンダーについて考察し、「ジェンダー」という概念について、説明できるようになること、現代社会におけるジェンダー問題を指摘できるようになること、ジェンダーに限らず、社会的弱者が置かれた不利な立場に思いを致し、抑圧に加担しないでいられる方法を考えられるようになることを目指す。	
		平和学	本科目は、平和学に関する基礎知識と特徴としての学際性について理解し、現在の平和学の到達点と課題について、自分なりに論じることが出来るようになることを目指す。学生の時に、私たちの身近にある社会的な諸課題から地球的問題群と呼ばれる全人類が直面する課題までを幅広く考える機会を持つことは、いわゆる「グローバル化」の賛否が叫ばれる現代の社会にあって必要なことであると考える。知的関心を刺激して、一人でも多くの方にそれぞれの平和の課題を深めることが出来るような講義展開を目指す。	
		社会科学基礎演習Ⅰ	本科目は、日本の現代社会の多様な課題について考察し、検討する能力を高めることを目的とする。現代の日本社会には、コロナ禍に加えて、社会的格差と貧困、少子高齢化と子育て・年金問題、都市一極集中と地域格差など様々な社会的課題がある。この演習では、日本の様々な論点をテキストを用いて考察する。この演習を通じ、日本の現代社会の諸課題について、教養として自己の考えを持ち、文字や言葉で表現できることを目指す。	
		社会科学基礎演習Ⅱ	本科目では、社会科学基礎演習Ⅰの目的、概要を踏襲し、その継続的テーマで演習を行なう。それによって、日本の現代社会の多様な課題について考察し、検討する能力を高めることを目的とする。現代の日本社会には、コロナ禍に加え、社会的格差と貧困、少子高齢化と子育て・年金問題など様々な社会的課題がある。この演習では、これら日本の様々な論点をテキストに加えて、可能であれば映像資料を用いて考察する。この演習の受講により、日本の現代社会の諸課題について、教養として自己の考えを持ち、文字や言葉で表現できることを目指す。	
	地域と世界	北海道・北方地域文化論Ⅰ	本科目は、南北に長い日本列島のなかで最北に位置する北海道の地理的な特徴を踏まえた上で、北海道の文化を「博物館展示」を素材としながら考えていくことが目的である。「文化」を「考える」と書いたが、「文化」といっても研究者によって様々な定義がある。そこで、文化についての定義を概観した上で、北海道や北方地域の文化について「道具」を中心に考えていくという方法をとる。「北海道文化」を語るにも、様々な切り口や語り口があるが、まずは、博物館が展示しているモノを中心にして、北海道で展開されてきた人々の生活、その移り変わり、他の地域との比較を紹介していく。	
		北海道・北方地域文化論Ⅱ	本科目は、北方圏の歴史・文化的背景を学ぶとともに北方圏は自分たちを取り巻く実世界・実社会であることを理解すること、また、日々刻々と変化する北方圏の動向とその背景を理解できる素地を自らの中に構築し、説明できるようになることを目標とする。北海道は日本と世界の接点に位置しているにもかかわらず、日本史の教科書にも世界史の教科書にも、ほとんど取り上げられない曖昧な立場に置かれてきた。本科目では、私たちの住む北方圏のダイナミックな歴史と文化を知るとともに将来の大きな可能性に注目していく。	

大学共通科目	地域と世界	日本の文化Ⅰ	本科目は、主に2000年までの日本のミステリジャンルの歴史を追いながら、小説、マンガ、ゲームなど、様々なメディアで展開する謎解き物語について学び、日本文化の中でも特にサブカルチャー領域についての理解を深めることを目的とする。現代の日本ではミステリ作品が人気を集めている。古くは江戸川乱歩から現代では『名探偵コナン』や『相棒』まで、どのような時代にも、誰でも一度は耳にしたことがあるミステリ作品が途切れることなく存在している。本科目では、私たちの身近にあり様々なメディアで展開するミステリを題材として、その歴史を概観するとともに、いくつかの作品を具体的に分析しながら、謎やトリックを成立させるためのテキスト上のテクニックについて学ぶ。ミステリを軸として、日本のサブカルチャー領域についての基本知識を身につけ、基礎的な文学理論や批評理論を理解し、作品分析の手法を身につけることを目指す。	
		日本の文化Ⅱ	本科目は、主に2001年以降の日本の本格ミステリ作品を取り上げて分析することを通して、日本文化の中でも特にサブカルチャー領域についての理解を深めることを目的とする。日本の本格ミステリは、戦後の一時期、松本清張に象徴される「社会派」ミステリの勢いにおされていたが、1980年代後半から劇的な復活を遂げた。以来、映画やアニメ、マンガ、ゲームなどのメディア展開も含めて様々な形で人気を博し続けている。その流れのなかでは、このジャンルの特徴である作者と読者の知恵比べを成立させるための工夫のなかからいくつかの論点が提起され、多様な作例で検討されてきた。本科目では、2000年以降のいくつかの作品を具体的に分析し、それらの作品が先行作をどのように乗り越えようとしているのかを考察していくことを通して、21世紀の日本のサブカルチャー領域に関する基礎知識を身につけることを目指す。	
		中国の文化	本科目は、中国の書籍・文献について、その原典を眺めながら、中国の文化の根底に流れる様々な思想に触れてもらい、先人たちの思考法を追体験しながら、そこにあらわれる中国の文化についての理解を深めることを第一の学習目的とする。講義を通じ、中国の様々な物事についての基礎的な知識を身につけ、様々な中国古典の原典に親しみ、そこにみられる中国的思惟と文化を把握し理解することを通して、同時に日本の文化についても理解を深めていく。	
		韓国・朝鮮の文化	本科目は、隣国である韓国について知り、その固有の文化を理解することを目標とする。近年、韓国と日本は、人的・物的交流が増え相手の文化に接する機会が多くなった。さらに両国には「韓流」に代表されるような新しい文化的潮流も見られる。反面、依然として歴史認識問題などによる葛藤的要素も内在している。また情報の氾濫は、時々間違った知識や認識を持たせることもある。こうした状況の中で、一国の文化を理解するためには、その背景にある歴史や社会状況を把握することが非常に重要だと言える。本科目では、韓半島の歴史を理解しながら、当時の社会と文化がどのように影響され、どのように形成されたのかに焦点を当て、その背景にあったのは何か、それが今日にいかにつながっているのか等について考察していく。	
		アメリカの文化	本科目は、1990年以降に製作されたハリウッド映画が描くアメリカ合衆国の文化を、セクシュアリティの視点から観察していく。また、テーマについて批評・評価していくスタイルで講義を進めていく。実際に映画を５本程度鑑賞し、その前後に担当者による講義や解説、質疑を行いながらアメリカの文化についての理解を深めていく。作品を通して、アメリカの文化背景や映画内容について考察することにより、多角的に考え表現できる能力を養うことを目指す。	
		ヨーロッパの文化	本科目は、「ヨーロッパ」とは何かという問いについて、地理、歴史、芸術、制度、思想などの観点から多角的に調べ、知り、考えることによって、自己とは異なる他者の存在を理解すると同時に、自己を相対化する視座を獲得することを目的とする。本科目を通じて、ヨーロッパをなす地形や気候、言語や宗教の分布についての基本的な知識を獲得し適切に説明できる力、ヨーロッパ文化の礎であるギリシア・ローマの文化ならびにキリスト教について、それぞれの特色を理解し具体的に説明できる力、またとりわけキリスト教がヨーロッパ各地の歴史、文化芸術、社会制度、倫理や道徳にどのような影響を与えたかについての基本的な知識を得て、それらを具体的に説明できる力を養う。	

大学共通科目	地域と世界	国際・比較文化論	本科目は、国際社会が抱える諸問題・諸課題について社会学・文化人類学による観点から考察し、考える力を身につけることを目的とする。国際文化論とは、文化と文化との関係性を比較しながら、国際社会の現在を読み解く学問である。授業では、国際文化論の第一歩として基本的な理論及び比較の方法論を学ぶ。具体的には、文化人類学や社会学の観点を中心として、これまで文化をめぐっていかなる議論が展開されてきたのかを紹介し、国際文化論の立場から現代社会を考察する。講義を通して、国際文化論の基礎を習得し、それを身の回りの具体的な社会問題へと結びつけ、説明できるようになることを目標とする。	
		地域と世界基礎演習Ⅰ	本科目は、現代の学生の身近にある様々な文化について学び、現代文化を分析するための基礎を身につけることを目的とする。取り上げる題材は、インターネット、マンガ、ゲーム、アート、スポーツ、音楽、携帯電話（スマートフォン）など多岐にわたる。その際、現在の文化を相対化する視座として、1990年代の文化についても検討する。現代と90年代の共通点と差異の検討を通して、自身の身の回りにある様々な文化やメディアが過去から変容を遂げてきており、さらに今後も変化していく可能性があることを共通理解する。この経験を通して、現代文化の成り立ちに興味を持ち、日常的な題材を分析対象とするための考え方を身につけることを目指していく。	
		地域と世界基礎演習Ⅱ	本科目は、現代のメディアやコンテンツを分析するための基礎を身につけることを目的とする。現代では、ひとつのコンテンツが様々なメディアを横断して展開することが一般的である。本科目では、メディア・コンテンツに関わる文献を輪読することによって、作品と媒体との関係性に関する考察を深めていく。取り上げるテーマは、アニメ、コンテンツツーリズム、ゾンビ、魔法少女、推理小説など多岐にわたる。演習形式の授業を通じ、やや難度の高い文献の読解ができるようになること、現代のメディアやコンテンツについての基礎知識を身に付け説明できるようになること、現代のメディアやコンテンツについて自ら探求し、独自の論点を導き出せるようになることを目標とする。	
	キリスト教学	キリスト教文化入門Ⅰ	本科目は、本学の建学の精神を支えるキリスト教の文化について、多角的に調べ、知り、考えることによって、自己とは異なる他者の存在を理解すると同時に、自己を相対化する視座を獲得することを目的とする。今日の文化、制度、倫理や道徳の背景に広がるキリスト教についての基礎知識を、北星学園大学とキリスト教、世界の諸宗教の中でのキリスト教の歴史、文学・経済・福祉という大学各学部とキリスト教との関わりから学び、受講者の人格形成に寄与すると共に、人類の歴史と文化を洞察する力をもって自己の行動指針を考察・実践できるようになることを目指す。本科目を通じて、施設・制度の面での北星学園大学とキリスト教の関わり、各学部での学びの土台となるキリスト教の文化的・思想的役割、世界宗教としてのキリスト教についての基礎的な理解を、歴史的側面から獲得できるようになる。	
		キリスト教文化入門Ⅱ	本科目は、聖書、キリスト教の歴史、本学の行事から、本学の建学の精神を支えるキリスト教文化について、調べ、知り、考えることによって、自己とは異なる他者の存在を理解すると同時に、自己を相対化する視座を獲得することを目的とする。今日の文化、制度、倫理や道徳の背景に広がるキリスト教についての基礎知識を、本学と関わりのある聖書の言葉、日本・北海道におけるキリスト教の歴史と位置付け、本学の祝祭行事から学び、そこに見られる世界観や人間観について理解を深めることを目指す。本科目を通じて、聖書の基本的な知識と共に、関連する聖句を通じて北星学園大学とキリスト教の関わり、日本および北海道におけるキリスト教の歴史についての基礎的な知識を身に付け、文化としてのキリスト教が果たす役割や意義を考察し、主体的に実践する力を獲得する。	
		聖書入門Ⅰ	本科目は、キリスト教の思想や文化の基盤である聖書のうち、旧約聖書の内容や、そこに含まれる諸文書の成立事情ならびにその歴史的背景などを理解することを目的とする。キリスト教ならびにその思想的根幹である旧約聖書の内容や神髄に触れつつ、「人間としてのあるべき姿」を自らの力で探究、発見、そして実践するために必要な力を身に付けるための教養的土台を培う。その際、キリスト教や聖書を信仰の対象としてのみではなく、学問の対象として体系的にとらえ、人間活動の所産として客観的に分析できる視点や知識を身につける。本科目を通じて、旧約聖書が生まれた自然環境、歴史的背景について適切な知識、旧約聖書が書き伝えられた言語ならびに全体的な構成についての正確な知識を獲得し、旧約聖書の全39文書の基本的な内容と特徴、それらの成立過程について解説できるようになる。	

大学共通科目	キリスト教学	聖書入門Ⅱ	本科目は、キリスト教の思想や文化の基盤である聖書のうち、新約聖書の内容や、そこに含まれる諸文書の成立事情ならびにその歴史的背景などを理解することを目的とする。キリスト教ならびにその思想的根幹である新約聖書の内容や神髄に触れつつ、「人間としてのあるべき姿」を自らの力で探究、発見、そして実践するために必要な力を身に付けるための教養的土台を培う。その際、キリスト教や聖書を信仰の対象としてのみではなく、学問の対象として体系的にとらえ、人間活動の所産として客観的に分析できる視点や知識を身につける。本科目を通じて、キリスト教が形成されるまでの時代史的な流れを説明できるようになり、新約聖書の歴史的・政治的・社会的・宗教的な背景、新約聖書が書かれた言語、その写本や本文、ならびに各文書の全体的な内容についての適切な知識を獲得する。	
		キリスト教史Ⅰ	本科目は、キリスト教が固有の宗教として確立してから、約2000年の歴史を通じて世界宗教として発展していく経過の中で、古代から中世に至るまでを、キリスト教の宗教としての特色や固有性と共に歴史的に適切に理解することを目的とする。キリスト教が、民族宗教であるユダヤ教から分離し、ローマ帝国の領土内で迫害から公認、国教化へと向かう過程を経て、独自の世界宗教として発展していく過程、さらには東西教会の分裂へと至る経緯を歴史的に概観する。またそれに関わるキリスト教自体の変化、宗教としてのキリスト教の基本的教義と信仰内容についても概説する。本科目を通じて、地中海世界に端を発する宗教のキリスト教が、民族宗教であるユダヤ教から分離・独立し、ヨーロッパ全土に広がった経緯について適切に説明できるようになり、宗教としてのキリスト教の教義とその特徴についての基本的な知識を獲得する。	
		キリスト教史Ⅱ	本科目は、キリスト教が固有の宗教として確立してから、約2000年の歴史を通じて世界宗教として発展していく経過の中で、さまざまな教派への分化の様相を、キリスト教の宗教としての特色や固有性と共に歴史的に適切に理解することを目的とする。世界宗教としてのキリスト教の中で、西ヨーロッパではローマ・カトリック教会が、東ヨーロッパでは東方正教会が発展した過程、さらに16世紀以降、宗教改革を通じて生まれたそのプロテスタント諸教会が、どのような経過や理由から生まれたのかを歴史的にたどりながら、それぞれの特色を明らかにする。本科目を通じて、東方教会（正教会）と西方教会（ローマ・カトリック教会）のそれぞれの特徴と違い、プロテスタント諸教会が誕生した歴史的な背景や経緯について適切に説明できるようになり、プロテスタント諸教会の特徴と相互の相違についての基本的な知識を身に付ける。	
		聖書講読Ⅰ	本科目は、キリスト教の思想や文化の基盤である聖書のうち、旧約聖書にたたみ込まれた思想やその背後にある歴史や文化を理解し、それらが関わる現代的な課題について考察するための多角的な視座を獲得することを目的とする。旧約聖書の中から、現代的な課題に関連する具体的なテキストを、これまでの学びで得た知識も援用しつつ精読し、議論することで、旧約聖書の思想的特質を学べるようにする。それらを通じてより一般的に、対象を批判的に考察し、そこから得た自らの知見・見解を説得的な文章で表現する力を身に付けられるようにする。本科目を通じて、旧約聖書における古代イスラエルの歴史観や思想的特質について、具体的なテキストを基に考察できるようになると共に、現代社会の諸課題について考え、より良き答えを導きだすための多角的な視座とその是非を検証する力を獲得する。	
		聖書講読Ⅱ	本科目は、キリスト教の思想や文化の基盤である聖書のうち、新約聖書の思想やその背後にある歴史や文化を理解し、それらが関わる現代的な課題について考察するための多角的な視座を獲得することを目的とする。キリスト教の思想の礎である新約聖書の中から、現代的な課題に関連する具体的なテキストを、これまでの学びで得た知識も援用しつつ精読し、議論することで、新約聖書の思想的特質を学べるようにする。それらを通じてより一般的に、対象を批判的に考察し、そこから得た自らの知見・見解を説得的な文章で表現する力を身に付けられるようにする。本科目を通じて、新約聖書におけるイエスやパウロの思想的特質について、具体的なテキストを基に考察する力を身に付けると共に、現代社会の諸課題について考え、より良き答えを導きだすための多角的な視座とその是非を検証する力を身に付ける。	

大学共通科目	キリスト教学		キリスト教学演習Ⅰ	本科目は、人文・社会科学の分析方法である批判的読解・フィールドワークの目的と方法を理解し、それらを日常や身近にあるキリスト教文化について実践することを目的とする。学内各所に点在する、また札幌近郊におけるキリスト教文化について、それらの由来や意義を調査し、他の類例との比較などの報告、討議によって理解を深める。これらの事前準備を踏まえた後で、実際に現地に赴いて現物を調査・観察することで、それまでの学びで得た自らの知識の定着と深化を行う。本科目を通じて、身近にあるキリスト教文化に気付き、その背景や由来についての適切な知識を調査・分析・提示する力を身に付けると共に、資料から獲得した知識について、それらを実地での調査・観察によって検証・深化する能力を獲得する。	
			キリスト教学演習Ⅱ	本科目は、人文・社会科学の分析方法である批判的読解・フィールドワークの目的と方法を理解し、それらを日本におけるキリスト教文化について実践する。日本ならびに北海道におけるキリスト教文化について、それらの由来や意義を調査し、他の類例との比較などの報告、討議によって理解を深める。これらの事前準備を踏まえた後で、実際に現地に赴いて現物を調査・観察することで、それまでの学びで得た自らの知識の定着と深化を行う。本科目を通じて、今日の日本社会の中に生き続けるキリスト教文化の背景や由来についての適切な知識を調査・分析・提示する力を身に付けると共に、資料から間接的に獲得した知識について、それらを実地での調査・観察によって検証・深化する能力を獲得する。	
	キャリア支援	キャリア教育科目	職業と人生	本科目は、自分と社会を知り、卒業後の自分のキャリアを具体的にデザインできるようになることを目的とする。道内外の企業経営者や人事採用担当者、本学の卒業生を中心とする多様な職種の社会人ゲストによる講演を通じて、就職活動の現状や今後の社会で求められる力について具体的に学び、受講者同士が相互に主体的に学び合うアクティブラーニング形式でのワークショップによって、個人が属するチームや社会との関係性を積極的、効果的に接続する方法を獲得する。本科目を通じて、自分と社会の関係性を具体的に発見し、明確化できるようになり、その理想に向かって一歩進み出すことができる力を身に付ける。	
		日本語科目	日本語表現Ⅰ	本科目は、大学および社会において必要とされる論理的な日本語の運用能力の基礎を、実際に文章を作成する過程を通じて習得することを目的とする。文章作成過程を「調べる」「考える」「書く」という3つの段階に分け、各側面についてバランスよく基本的能力・技能を高めることを目指す。加えて、大学での研究活動に際しての基本的倫理についても触れる。特に、レポート作成に際しての不正行為について理解し、適切に引用・執筆する技能習得を目指す。これにより、あらかじめ指定されたテーマに関して、以下の小目標を満たした文章を作成できるようになることを目指す。(1) 書きことばや表記法に関する決まりを守れる。(2) 文章全体を、序論（問題提起―主張）、本論（根拠）、結論で構成する。(3) パラグラフ内部を論理的に構成する。(4) 他者の意見や客観的な資料を適切に引用する。	
			日本語表現Ⅱ	本科目は、日本語表現Ⅰに続き、日本語表現Ⅰで習得した基礎的日本語運用能力を有効に活用し、大学および社会において必要とされる論理的な日本語の運用能力の基礎をさらに深め、実際に文章を作成する過程を通じて習得することを目的とする。文章作成過程を「調べる」「考える」「書く」という3つの段階に分け、各側面についてバランスよく基本的能力・技能を高めることを目指す。加えて、大学での研究活動に際しての基本的倫理についても触れる。特に、レポート作成に際しての不正行為について理解し、適切に引用・執筆する技能習得を目指す。これにより、あらかじめ指定されたテーマに関して，以下の小目標を満たした文章を作成できるようになることを目指す。(1) 書きことばや表記法に関する決まりを守れる。(2) 文章全体を、序論（問題提起―主張）、本論（根拠）、結論で構成する。(3) パラグラフ内部を論理的に構成する。(4) 他者の意見や客観的な資料を適切に引用する。	

大学共通科目	キャリア支援	情報科目	情報入門	本科目は、コンピュータの操作技能や情報処理に関する基礎的な知識の習得だけでなく、情報社会に参画する上で適切な態度を身につけるとともに、今後の社会におけるデータやAIの利活用や取り扱いの重要性についても理解することを目指す。本科目の主な目的は以下の通りである。(1)今後、大学や実社会において直面する情報活用場面で必要となるパソコンやソフトウェアの基本的な知識・操作技能を習得すること、(2)コンピュータウイルス、情報の漏洩や改ざん、不正アクセス、著作権侵害など、情報倫理・モラルならびに情報セキュリティに関する初歩的な知識を習得すること、(3)ビッグデータ、IoT、Society 5.0など、社会におけるデータやAIの利活用やその必要性について理解すること、(4)個人情報保護、データ倫理、研究倫理といった情報を取り扱う際の留意事項などに目を向け、情報社会に参画する上で適切な態度を身につけること。	
			情報活用	本科目は、情報入門をさらに発展させ、今後の大学生活や社会で必要となる情報活用能力を総合的に涵養することを目指す。調べたい事柄についての企画立案に始まり、調査の実施、データの集計・整理・分析、調査結果の報告やプレゼンテーション等を通じて、ソフトウェアやネットワークサービスなどの多様な手段を活用する方法を習得し、得られたデータを適切に取り扱う力を養う。本科目の主な目的は以下の通りである。(1)個々のソフトウェアを連動させて使いこなし、新しい意見やアイデアを提案していく能力の習得、(2)他者への情報伝達や情報共有に利用できる多様なサービスについて、それらの有効性と危険性を理解して活用すること、(3)データ（変数、尺度）の種類、また、分布やばらつきなどの統計情報をもとにデータの特徴を読み解き、グラフやチャートなど適切な可視化手法を選択して、他者にデータを表現、説明するデータリテラシーを身につけること。	
	外国語	英語	英語Ⅰ	本科目は、実践的な英語運用のための基礎固めを目的とする。実技中心の科目であり、具体的には、オーラルを中心としたコミュニケーションスキルの習得を目指す。コミュニケーションスキルを身につけるには、基礎となる語彙や文法、読解力、またリスニング等の学習も不可欠である。そのため、リーディング・リスニング（受信スキル）、ライティング・スピーキング（発信スキル）をバランス良く進めていく。様々な日常の場面において、英語で簡単な会話をすることができること、会話や解説を聞き内容を聴解することができること、説明文、記事等を読み、概要を読解することができること、英語で得た情報をまとめ、相手と交換することができること、自分の考えや意見をまとめ、小エッセイ・オーラルで正しく表現することができること、TOEIC のListening と Readingのための基礎スキルを固めることを目標とする。	
			英語Ⅱ	本科目は、英語Iに引き続き、実践的な英語運用のための基礎固めを目的とする。実技中心の科目であり、具体的には、オーラルを中心としたコミュニケーションスキルの習得を目指す。コミュニケーションスキルを身につけるには、基礎となる語彙や文法、読解力、またリスニング等の学習も不可欠である。そのため、リーディング・リスニング（受信スキル）、ライティング・スピーキング（発信スキル）をバランス良く進めていく。様々な日常の場面において、英語で簡単な会話をすることができること、会話や解説を聞き内容を聴解することができること、説明文、記事等を読み、概要を読解することができること、英語で得た情報をまとめ、相手と交換することができること、自分の考えや意見をまとめ、小エッセイ・オーラルで正しく表現することができること、TOEIC のListening と Readingのための基礎スキルを固めることを目標とする。	
			英語Ⅲ	本科目は、英語Ⅰ、Ⅱで習得した基礎的英語技能を有効に活用し、以下の２点を目的とする。①実社会で応用できる表現方法等を含めた、効果的なスピーチのための基礎を身につける。教師による指導・評価のみならず、学生同士の協同作業もスキル発展の要であるため、ピアオブザベーションなどのペア活動、グループ活動も取り入れる。②アカデミック英語の基礎を学ぶ。社会学、ビジネス等、テーマ別の関連記事を読み、講義を聞き、ノートを取り、内容をまとめ自分の意見を発表する。	

大学共通科目	外国語	英語	英語Ⅳ	本科目は、英語Ⅲに引き続き、英語Ⅰ、Ⅱで習得した基礎的英語技能を有効に活用し、以下の２点を目的とする。①実社会で応用できる表現方法等を含めた、効果的なスピーチのための基礎を身につける。教師による指導・評価のみならず、学生同士の協同作業もスキル発展の要であるため、ピアオブザベーションなどのペア活動、グループ活動も取り入れる。②アカデミック英語の基礎を学ぶ。社会学、ビジネス等、テーマ別の関連記事を読み、大学の講義を聞き、ノートを取り、内容をまとめ自分の意見を発表する。	
		ドイツ語	ﾄﾞｲﾂ語Ⅰ	本科目は、基本的な文法を一通り学習することにより、言語運用能力の養成、「話す、聞く、読む、書く」という四技能の基礎的な力を身につけることを目的とする。本科目を通して、自己紹介・専攻・言語・食事・趣味・家族・持ち物・買い物等、学生の日常生活をテーマに、基本的な語彙と表現を学ぶ。文法は、動詞の現在人称変化、名詞の格変化１・４格、話法の助動詞 koennen, moechten、現在完了形などを学ぶ。これにより、ドイツ語で自己紹介ができること、専攻科目・言語・食事・趣味・家族・職業・年齢等のテーマについてドイツ語で話したり書いたりできることを目指す。また、相手に質問し、相手の言うことを理解することを目指す。文法は、日常よく使用する基本的な動詞の現在人称変化をマスターし、正しく作文できることを目指す。最終的には、独検５級程度のドイツ語能力習得を目指す。	
			ﾄﾞｲﾂ語Ⅱ	本科目は、基本的な文法を一通り学習することにより、言語運用能力の養成、「話す、聞く、読む、書く」という四技能の基礎的な力を身につけることを目的とする。本科目を通して、休暇中にしたこと・住まい・一日の活動・大学生活・休暇の予定・経験や体験等、日常生活や身近なテーマについて、ドイツ語で表現できるようになることを目指す。文法は、前置詞、分離動詞、sein, haben の過去形、話法の助動詞 wollen 等を学習する。これにより、日常生活について、ドイツ語で話したり書いたりすることができる、相手に質問し相手の言ったことを理解する、手紙やメールを書く形式を学び友人に簡単な手紙を書けるようになることを目指す。文法では、名詞の格変化を理解し、現在完了形や話法の助動詞を使って正しい語順で作文することを目指す。最終的には、独検４級程度のドイツ語能力習得を目指す。	
			ﾄﾞｲﾂ語Ⅲ	本科目は、基本的な文法を一通り学習することにより、言語運用能力の養成、「話す、聞く、読む、書く」という四技能の基礎的な力を身につけることを目的とする。本科目を通して、休暇・旅行・天気等をテーマに、「食事を注文する、支払う、宿を探す、予約を頼む、道を尋ね、両替する、切符や切手を買う、体験を話す、理由を話す、意思を伝える」等の表現を学び、ドイツ語の基本文型と文法を学習する。また、テーマごとにドイツ語圏と日本の文化の違いを学び、ドイツ語で日本の事情を説明できるようになることも目指す。これにより、１年生で学んだ語彙と文法を自由に使えるようにし、関連語彙と表現を増やすことを目指す。新しい語彙と文法では、特に副文の語順を定着させ、理由などを言えるようにすることを目指す。ドイツ語Ⅳと合わせて、最終的にはヨーロッパ共通参照枠レベルA1のドイツ語能力習得を目指す。	
			ﾄﾞｲﾂ語Ⅳ	本科目は、基本的な文法を一通り学習することにより、言語運用能力の養成、「話す、聞く、読む、書く」という四技能の基礎的な力を身につけることを目的とする。本科目を通して、健康、贈物、環境問題、学校制度、祝祭等をテーマに、より複雑な表現や文法を学習する。これにより、再帰動詞、zu 不定詞句、命令形などを使ってドイツ語で話すことを目指す。また、副文、関係文、受動文、不定詞構文など、高度な文法を含むテキストを読むことを目標とし、最終的には、ヨーロッパ共通参照枠レベルA1のドイツ語能力習得を目指す(独検３級程度に相当)。	

大学共通科目	外国語	フランス語	ﾌﾗﾝｽ語Ⅰ	本科目は、実際のコミュニケーションに役立つフランス語の習得を目的とする。本科目を通して、実生活の様々な場面において、挨拶、自己紹介、家族や趣味についての簡単な対話ができるよう学ぶ。また、フランスの社会・文化・生活習慣等について知識を広げていくことを目指す。また、フランス語の音と綴り字の関係性を理解し、簡単な挨拶、自己紹介、家族や趣味について発言できる能力を身につけることを目指す。最終的には、仏検５級レベルの４技能（聞く・話す・読む・書く）の習得を目指す。	
			ﾌﾗﾝｽ語Ⅱ	本科目は、実際のコミュニケーションに役立つフランス語の習得を目的とする。本科目を通して、複合過去形や近接未来形を学ぶ。また、フランスの社会・文化・生活習慣について学び、知識を広げていくことを目指す。これにより、表現の幅を大きく広げ、自らの日常生活や未来の予定を語ること、一日の出来事を日記のように綴ることができるようになることを目指す。また、基本的な表現で簡単な意志の伝達、聞きたいことを発言したり、聞き取ったりすることができるようになることを目標とする。最終的には、仏検5級レベルの4技能（聞く・話す・読む・書く）の習得はもちろん、次なる4級獲得への準備期間とみなし、その習得を目指す。	
			ﾌﾗﾝｽ語Ⅲ	本科目は、フランス語Ⅰ・Ⅱに引き続き、初級フランス語の基礎文法を学ぶとともに、実際のコミュニケーションに役立つフランス語の習得を目的とする。本科目を通して、レストランでの会話、旅をめぐる様々な場面、健康状態や病状等の表現用例を学ぶ。また、フランスの社会・文化・生活習慣について知識を広げていくことも目的の一つである。これにより、これらの用例を「パターン」として確実に習得し、使いこなすことを目指す。また、フランス語Ⅰ・Ⅱで学んだ事柄を血肉化し、さらにその内容をレベルアップして、細かいニュアンスの伝達が可能になることを念頭に置き、レストランでの注文、列車の切符やホテルの予約、健康状態や病状等、具体的な日常生活に不可欠なコミュニケーション力が身につくことを目指す。最終的には、仏検4級レベルの技能（聞く・話す・読む・書く）の習得を目指す。	
			ﾌﾗﾝｽ語Ⅳ	本科目は、フランス語Ⅲに引き続き、初級フランス語の基礎文法を学ぶとともに、実際のコミュニケーションに役立つフランス語の習得を目的とする。本科目を通して、郵便局での具体的なやりとり、商店での服や靴のサイズの指示等、生活に役立つ内容をはじめ、家族の形態や環境問題、エネルギー問題等について、自分の意見を語る場面を通してフランス語の習得を目指していく。これにより、フランス語Ⅲに引き続き、細かいニュアンスの伝達ができるようになり、自らの考えを説明したり、独自の意見を述べたりすることが可能になる。また、フランスの社会・文化・生活習慣について知識を広げると同時に、自らの環境を比較し、相対的なものの見方を養っていくことも目的のひとつである。最終的には、仏検３級レベルの技能（聞く・話す・読む・書く）の習得を目指す。	
		中国語	中国語Ⅰ	本科目は、「話す、聞く、読む、書く」の基本的な技能を身につけることを目的とする。本科目を通して、身近なテーマや場面をもとに、基本的な語彙や文型を学ぶ。学生同士の対話練習を中心とした授業により、中国語を「話す」ための訓練に重点を置き、また、聞き取り、読み物、作文等の練習も行うことで、「話す、聞く、読む、書く」の四技能の習得を目指していく。中国語文法の基礎を身につけ、初歩の会話や作文ができるようになることを目指す。	
			中国語Ⅱ	本科目は、中国語Iで学んだことを基礎に、「話す、聞く、読む、書く」の基本的な技能をさらに深め、身につけることを目的とする。本科目を通して、身近なテーマや場面をもとに、基本的な語彙や文型を学ぶ。学生同士の対話練習を中心とした授業により、中国語を「話す」ための訓練に重点を置き、また、聞き取り、読み物、作文等の練習を行うことで、「話す、聞く、読む、書く」の四技能の習得を目指していく。さらに、対話文や読み物を通して中国の日常文化を理解し、日本の文化を平易な中国語で表現できるようになることを目標とする。最終的には、実用中国語検定4級合格レベルを目指していく。	

大学共通科目	外国語	中国語	中国語Ⅲ	本科目は、中国語Ⅰ・Ⅱで学んだことを基礎に、「話す、聞く、読む、書く」ことについて、より高度な技能を身につけることを目的とする。本科目を通して、より高度な文型や表現を学習し、学生同士による対話練習を中心とした授業により、中国語を「話す」ための訓練に重点を置いて学んでいく。また、聞き取り、読み物、作文などの練習を行うことで、「話す、聞く、読む、書く」の四技能の習得を目指す。さらに、対話文や読み物を通して中国の日常文化を理解し、日本の文化を平易な中国語で表現できるようになることを目標とし、基礎的な中国語運用能力に加えて、少し複雑な文法などを用いられるようになることを目指す。	
			中国語Ⅳ	本科目は、中国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲで学んだことを基礎に、「話す、聞く、読む、書く」ことについて、さらに高度な技能を身につけることを目的とする。本科目を通して、さらに高度な文型や表現を学習し、学生同士による対話練習を中心とした授業により、中国語を「話す」ための訓練に重点を置いて学んでいく。また、聞き取り、読み物、作文などの練習を通して、「話す、聞く、読む、書く」の四技能の習得を目指す。さらに、対話文や読み物を通して中国の日常文化を理解し、日本の文化を平易な中国語で表現できるようになることを目標とし、最終的には、実用中国語検定３級合格レベルの力を身につけることを目指す。	
		韓国語	韓国語Ⅰ	本科目は、ハングルを覚え、自己紹介ができることを目的とする。日本語と韓国語の語順は似ていて比較的学び易いが、文字や発音はかなり異なる言語であり、まずこの文字と発音についてじっくり学んでいく。基本子音・基本母音の読み書きを学び、激音・濃音の子音、合成母音の順で覚えていく。文字に慣れてきたら、パッチムや発音変化を覚え、その後辞書の引き方、簡単な挨拶言葉、平叙形、疑問形、否定形、助詞と段階を踏んで学びを進めていく。	
			韓国語Ⅱ	本科目は、趣味や好きなこと等を話せ、相手にも聞くことができ、韓国のWEBサイトや新聞から情報を入手できる力をつけることを目的とする。発話と文法の両方に重点をおいて学んでいく。まず韓国語Ⅰ同様に教科書に沿って文法を学び会話力を身につける。漢数詞・固有語数詞のほかに、ハムニダ体やヘヨ体、過去形などの様々な語尾も覚えていく。また、平叙文、否定文、疑問文の作り方も学び、さらに、2つの文章を1つに連結する表現や尊敬形などの学習も行い、話したい内容をより豊かに表現できることを目指す。同時に、より正しい発音で音読し、学んだ表現を用いて会話する練習も行う。韓国の大衆文化映像を通し、韓国文化及び生きた韓国語の表現について学んでいく。	
			韓国語Ⅲ	本科目は、初中級レベルの語尾や表現を習得し、より幅広い作文・会話ができるようになることを目的とする。韓国語Ⅰ・Ⅱを履修した人を対象とし、各品詞の連体形及び連体形と関連した表現を学ぶことに重点をおく。また、意思と推量、仮定、感嘆、尊敬、因果関係、不可能など様々な場面で使える語尾や表現を学び、より具体的な状況を描写できる力を身につける。話す・聞く練習は、各自本文の内容を把握し、教員の質問を聞いて適切な表現で答える。時には各自質問を作文し、他の人に聞いたり、答えてもらう練習をする。それと同時に正確な発音で内容を伝える練習もする。さらに会話でよく用いられるフレーズに慣れ、基本的な文のスタイルを習得する。そして、韓国語Ⅱで習った助詞・疑問詞などをさらに的確に使えるようにし、韓国語の基礎力を確実にしていく。	
			韓国語Ⅳ	本科目は、変則活用と語尾、慣用表現に重点をおいて学ぶことを目的とする。韓国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲで身につけた基礎力を発展させ、表現できることの幅を広げていく。具体的に「動作の進行と結果をあらわす」「約束をする」「理由を述べる」「可能・不可能をあらわす」「推測する」「許可を求める」「禁止・注意する」などの場面で使う様々な文の形を学んでいく。特に、意思の推量の接尾辞や婉曲及び前置きをする表現についても学習する。さらに、より長い文章の読解や作文にも挑戦していく。教員の質問に対し新しく学んだ表現で答えたり、各自応用して作った質問や答えを他人に伝える練習を着実にこなせば、韓国メディアや実際の会話場面において、聞き取れる語彙が増えたり、対応できる自信がついていく。なお、韓国の大衆文化映像に触れ、韓国文化及び生きた韓国語の表現についても学んでいく。	

大学共通科目	外国語	英語	英語と文化	本科目は、英語そのものだけではなく、その背景にある文化についての理解も重視しており、言語の機械的な側面を把握しながらコミュニケーション能力を身につけることに留まらず、英語圏等の国々の文化との強い結びつきについても理解を深めていくことを目的としている。また、海外事情（英語）の準備も併せて行い、クラスによっては海外でのイベント運営や交流企画等の立案・準備もしていく。最終的には、本科目を通して、異文化コミュニケーション能力を向上させることを目標とする。	
			海外事情（英語）	本科目は、英語圏である国々に渡航し、現地の大学教員や大学生との交流を通し、多様な価値観に触れ、多文化社会が持つ課題に対する理解を深めることが目的である。また、各国から来た学生たちとともに集中的に英語を学び交流をすることで、実践的な語学技能の向上を図り、世界の国・地域への見識を広げることを目指している。クラスによっては、テーマ別プロジェクトの主体的な企画の運営を通して、将来グローバルな場面で必要とされる異文化コミュニケーションスキルやマインドセットを育成することを目標としている。	
			上級英語Ⅰ	本科目は、英語でのコミュニケーション能力を継続的に開発することを目的とする。英語運用能力の養成と専門的な語彙力の拡大を図る。口頭能力の開発、語彙の構築、文法の復習、読解力、聴解力、ライティング力を身につける。科学からビジネス、地球規模の問題に至るまで様々なトピックを用いて、グループワークやプレゼンテーションを行っていく。TOEIC（Listening-Reading)スコアー600点レベルを目指していく。	
			上級英語Ⅱ	本科目は、英語力、特に発信力の強化と異文化コミュニケーション能力の向上を目的とする。ビジネス・教育・福祉・異文化コミュニケーション・ダイバーシティ・多文化理解などをテーマに、幅広い視点から社会の課題を捉え、英語でディスカッションできるようスピーキングの力を向上させる。リーディングとリスニングについては、学生の継続的な自主学習・グループ学習を促す。幅広く提示されたテーマに、常に自分の意見を持ち、それを素早く相手にわかりやすく伝えることができるコミュニケーション力を、英語での活動を通して培っていく。履修開始時にTOEIC600点台の学生は700点台へ、700点台の学生は800点台を目標とし、学習を進めていく。	
			外国語演習Ⅰ（英語）	本科目は、Building Intercultural Competence（異文化の社会的基礎力の構築）を目的とする。多文化理解に関連する多様な事例をもとに英語で議論を行い、異なる背景を持つ人々との円滑なコミュニケーションの鍵となる考え方・知識・スキル・行動について学んでいく。特に日本と諸外国の共通点・相違点を比較しながら、多様性への取り組み、例えばジェンダー、LGBTQ、人種差別問題などを扱う。授業内で与えられた各テーマや、そこから派生する学生が調べてきたサブテーマをもとに、主にディスカッション形式で行う。	
			外国語演習Ⅱ（英語）	本科目は、４年間の総まとめとして、高いレベルの英語を正確に聞き取り、自分の意見を詳細に伝えられるようになることを目的とする。そのために、映画教材を用いて内容を理解し、内容についてディスカッションを行っていく。また映画のストーリーに沿って、富と貧困、人種差別問題、多様性との共生などのトピックについて発表する機会を設ける。さらに、社会的な問題に関しての国内・国際ニュースを共有し、発表するため、学生の積極的な態度が求められる。	
		ドイツ語	ﾄﾞｲﾂ語と文化	本科目は、異文化を理解しドイツ語の運用能力向上を目的とする。ドイツ語圏の文化を学びながら、ドイツ語Ⅰ・Ⅱで学習した語彙や文法を復習すると同時に、語彙を増やし、ドイツ語の表現力を高める。学生同士のペアやグループ、インタビュー形式での対話練習、クラスでの発表など、学生の活動を中心に展開する形式で進める。１年生で学習した語彙や文法を確かなものにし、対話と聴き取り能力の向上を図る。ヨーロッパ共通参照枠レベルA1のドイツ語能力の習得を目標とする（独検４級程度）。	

大学共通科目	外国語	ドイツ語	海外事情（ドイツ語）	本科目は、ドイツで生活しながらドイツ語を学び、実際に使用してコミュニケーション能力の向上と、異文化を実際に体験することを目的とする。授業は既に学習した語彙や文法を使い、全てドイツ語で進行し発音指導も行う。研修期間中、午後に週２回程度の市内にある歴史的建物や博物館などの見学と文化体験をする。週末には、ベルリン・ポツダム、ドレスデン・マイセン、ライプツィヒなどへ出かけて連邦議会や博物館等を見学したり、オペラの鑑賞や教会での音楽礼拝を体験することなどを予定している。現地のDaF（外国語としてのドイツ語）専門家による少人数の語学授業で、積極的に話すことが求められる。研修を通して、ヨーロッパ共通参照枠レベル A1のドイツ語能力の習得を目指す。	
			上級ﾄﾞｲﾂ語Ⅰ	本科目は、「話す、聴く、読む、書く」の四技能をバランスよく習得し、併せてコミュニケーション能力の向上を目的とする。ドイツ語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳを基礎に、学習したことを繰り返しながら、語彙を増やし文法知識を広げる。また、ビデオでドイツの事情や日常生活を見ながら、ドイツに対する興味や理解を深める。ペアやグループでの練習、さらにインタビューやリポートなどで実際に声を出してドイツ語を話しながら学んでいく。上級ドイツ語IIと合わせてヨーロッパ共通参照枠レベルA2の前半（A2.1)のドイツ語能力の習得を目標とする。	
			上級ﾄﾞｲﾂ語Ⅱ	本科目は、上級ドイツ語Ⅰの目的、概要を踏襲し、その続きのテーマで行う。「話す、聴く、読む、書く」の四技能をバランスよく習得し、併せてコミュニケーション能力の向上を目的とする。ドイツ語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳを基礎に、学習したことを繰り返しながら、語彙を増やし文法知識を広げる。また、ビデオでドイツの事情や日常生活を見ながら、ドイツに対する興味や理解を深める。ペアやグループでの練習、さらにインタビューやリポートなどで実際に声を出してドイツ語を話しながら学んでいく。最終的にはヨーロッパ共通参照枠レベルA2の前半（A2.1）のドイツ語能力の習得を目標とする。	
			外国語演習Ⅰ（ﾄﾞｲﾂ語）	本科目は、現代ドイツの日常文化について理解を深めると同時に、異文化コミュニケーション能力を養うことを目的とする。都会と田舎の生活、文化都市、職業、祝祭、感情表現、アイディアと発明等のテーマについて、日本とドイツの現代社会を比較しながら、テーマに合ったドイツ語の表現や文型・文法を学習する。授業は演習形式で、学生同士の対話・発表・活動を中心に展開する。ドイツ語圏の現状を新聞記事などを基に議論することもある。外国語演習Ⅱ（ドイツ語）と合わせて、ヨーロッパ共通参照枠レベルA2のドイツ語能力を修得することを目標とする。	
			外国語演習Ⅱ（ﾄﾞｲﾂ語）	本科目は、外国語演習Ⅰ（ドイツ語）の目的、概要を踏襲し、その続きのテーマで演習を行う。現代ドイツの日常文化について理解を深めると同時に、異文化コミュニケーション能力を養うことを目的とする。都会と田舎の生活、文化都市、職業、祝祭、感情表現、アイディアと発明等のテーマについて、日本とドイツの現代社会を比較しながら、テーマに合ったドイツ語の表現や文型・文法を学習する。授業は演習形式で、学生同士の対話・発表・活動を中心に展開する。ドイツ語圏の現状を新聞記事などを基に議論することもある。ヨーロッパ共通参照枠レベルA2のドイツ語能力を修得することを目標とする。	
		フランス語	ﾌﾗﾝｽ語と文化	本科目は、社会、政治・経済、文学、芸術などのトピックを通してフランスの基本事情を学び、アクチュアルなフランスの文化・社会についての認識を広げ、理解を深めることを目的とする。フランス語による授業の要点を聞きとること、テーマ毎に出される語彙を用い自らの考えを口頭発表及びレポートにまとめることを通じてフランス語の全般的技能を向上させることも目標である。	
			海外事情（フランス語）	本科目は、実際にフランスで生活し、フランスの文化を直に体験する。文化や社会への理解を深め、集中的にフランス語を学び、コミュニケーションスキルを磨き、語学技能の向上を図ることを目的とする。また、異文化の体験や観察を通じて、自らの考え方や行動様式を相対化できる視点を持つこともねらいの一つである。フランスのヴィシー市で2週間ホームステイをし、CAVILAM校で語学研修を受ける。さらに、その後、約3日間パリで文化研修をする。渡航が不可能である場合は、オンラインにて研修を実施する。	

大学共通科目	外国語	フランス語	上級ﾌﾗﾝｽ語Ⅰ	本科目は、フランス語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳを修了した後で、さらにフランス語を用いて積極的に情報発信すること、広い視野に立ち、柔軟な姿勢で異文化に接し、自らの立ち位置を考えることのできる力を養成することが目的である。フランスの政治・経済・社会・文化に関する時事的な話題を中心に展開し、文法の練習問題を通し「読む」「書く」「聞く」「話す」の4技能のさらなる技能向上を目指していく。仏検3級レベルの4技能の習得はもちろん、次なる準2級獲得への準備期間とみなし、その習得を目標とする。	
			上級ﾌﾗﾝｽ語Ⅱ	本科目は、上級フランス語Ⅰの目的、概要を踏襲し、その続きのテーマで行う。フランス語を用いて積極的に情報発信すること、広い視野に立ち、柔軟な姿勢で異文化に接し、自らの立ち位置を考えることのできる力を養成することが目的である。フランスの政治・経済・社会・文化に関する時事的な話題を中心に展開し、文法の練習問題を通し「読む」「書く」「聞く」「話す」の4技能のさらなる技能向上を目指していく。仏検準2級レベルの4技能の習得を目標とする。	
			外国語演習Ⅰ（ﾌﾗﾝｽ語）	本科目は、上級フランス語Ⅰ・Ⅱを終了した後で、フランス語を用いてさらに積極的に情報発信すること、多様な分野に関わる一般的な質問に対して、自分の意見を述べ、相手と対話することができるレベルになることを目標とする。広い視野に立ち、柔軟な姿勢で異文化に接し、自らの立ち位置を考えることのできる力を伸ばす。授業はフランスの政治・経済・社会・文化に関する時事的な話題を中心に展開し、グループに分かれ、任意に選んだ日常場面での会話をフランス語で作成し、発表する。さらに練習問題を通し、4技能である「読む」「書く」「聞く」「話す」のさらなる技能向上を目指していく。仏検準2級～2級レベルの4技能の習得を目標とする。	
			外国語演習Ⅱ（ﾌﾗﾝｽ語）	本科目は、外国語演習Ⅰ（フランス語）の目的、概要を踏襲し、その続きのテーマで演習を行う。フランス語で積極的に情報発信すること、多様な分野に関わる一般的な質問に対して、自分の意見を述べ、相手と対話することができるレベルになることを目標とする。広い視野に立ち、柔軟な姿勢で異文化に接し、自らの立ち位置を考えることのできる力を伸ばす。授業はフランスの政治・経済・社会・文化に関する時事的な話題を中心に展開し、会話文のシナリオ、和文・仏文のレポートを編集し、演習論集を作成する。さらに練習問題を通し、4技能である「読む」「書く」「聞く」「話す」のさらなる技能向上を目指していく。仏検準2級～2級レベルの4技能の習得を目標とする。	
		中国語	中国語と文化	本科目は、中華圏の文化と言語について海外事情(中国語)の準備を視野に入れて進めていく。中華圏の文化について幅広い深い知識を身につけること、簡単なヒアリングと短い文章が言えるようになること、簡単な感想を中国語で書けるようになることを目標とする。毎回、文化背景とそれに関わる会話を勉強し、加えて、中華圏の現状に関する映像資料を視聴することで実践的に学んでいく。中華圏の文化について様々な角度から学び、偏った情報に左右されないグローバルな視点と思考を身につける。	
			海外事情（中国語）	本科目は、中国語を学ぶ学生が、現地にて中国語と文化を経験し学ぶことを目的とする。台湾で語学研修を行う予定である(ただし様々な事情により場所など変更する可能性あり)。現地では、各自、研修前に定めた目標をクリアし、生きた文化を肌で感じ学び、中国語会話に臆することなく参加できるようになることを目標とする。また、研修前(日本語)と研修後(中国語)にレポート提出し、帰国後に2つのレポートを中心とした文集を作成する予定である。	
			上級中国語Ⅰ	本科目は、中国語の確実な基礎力を身につけることを目的とし、日常的な会話を聞き取り、簡単な会話ができること、基本的な文法を理解し、簡単な作文ができるようになることを目指していく。文法とヒアリングの教科書から毎回課題を提出してもらい、確実に力を身につけていく。また、進度に応じてビデオ教材(映画やドキュメンタリーなど)も視聴する。これにより、中国語検定3級レベルの文法能力を身につけることを目標とする。	

大学共通科目	外国語	中国語	上級中国語Ⅱ	本科目は、上級中国語Ⅰの目的、概要を踏襲し、その続きのテーマで行う。中国語の確実な基礎力を身につけることを目的とし、日常的な会話を聞き取り、簡単な会話ができること、基本的な文法を理解し、簡単な作文ができるようになることを目指していく。文法とヒアリングの教科書から毎回課題を提出してもらい、確実に力を身につけていく。また、進度に応じてビデオ教材(映画やドキュメンタリーなど)も視聴する。これにより、中国語検定3級レベルの文法能力を身につけることを目標とする。	
			外国語演習Ⅰ（中国語）	本科目は、文法の基礎を確認しつつ、中国語検定試験2～3級レベルに対応できる応用範囲までを確認・習得することを目的とする。ヒアリング力を強化し、教科書を中心に進め、力がついてきた段階でニュースやドラマなど別の教材を使用していく。基礎力がついたと判断した時点で、実践的な会話練習、簡単な討論の練習に入る。中国語で読み書き、会話ができるだけでなく、中国の経済や文化など背景も把握するように努める。一般的な会話や作文ができ、中華圏の人と意思疎通ができるようになることを目指していく。	
			外国語演習Ⅱ（中国語）	本科目は、外国語演習Ⅰ（中国語）の目的、概要を踏襲し、その続きのテーマで演習を行う。文法の基礎を確認しつつ、中国語検定試験2～3級レベルに対応できる応用範囲までを確認・習得することを目的とする。ヒアリング力を強化し、教科書を中心に進め、力がついてきた段階でニュースやドラマなど別の教材を使用していく。基礎力がついたと判断した時点で、実践的な会話練習、簡単な討論の練習に入る。中国語で読み書き、会話ができるだけでなく、中国の経済や文化など背景も把握するように努める。一般的な会話や作文ができ、中華圏の人と意思疎通ができるようになることを目指していく。	
		韓国語	韓国語と文化	本科目は、韓国語を成す一つ一つの単語や表現の背後にあるものを意識して学び、韓国の慣習や文化についてより多角的に理解することを目的とする。海外事情（韓国語）の履修を希望する学生は、現地で必要とされる語学力や知識を、より実質的に向上させることができる。授業では、基本的にテキストの内容に沿って進め、テキストの用語解説や辞書を使って本文の内容を翻訳できる程度の韓国語レベルが必要である。また、適宜、関連映像やエッセイ・記事も用いながら授業を進めていく。各回の本文の翻訳は毎回提出してもらい、長文の翻訳を通して訳す力と読解力、語彙力を養っていく。さらに、そのトピックに関して日本と比較しつつ、学生同士で討論することで韓国語能力の向上を図る。	
			海外事情（韓国語）	本科目は、韓国語を学ぶ学生あるいは既に学んだ学生が、韓国へ行き、現地の講師から授業を受けたり、伝統および現代文化に関するプログラムの体験を通して、韓国語能力の向上とともに現地の生きた言語および文化を学ぶことを目的とする。渡航前に事前学習として数回オリエンテーションを実施する。渡航先での語学学習や文化体験に関する具体的な計画を立て、その内容を発表する。渡航後は、韓国の大学の韓国語教育センターにて、月曜日から金曜日まで、現地の教員が韓国語で授業を行う。週に数回韓国市内で文化体験授業や見学に参加する。研修の最後には、それまで学んだ内容についてテストを実施し、その結果は担当教員にも報告される。帰国後は現地での学習と体験について、その成果及び内容を中心にレポートを提出し、本科目を総括する。	
			上級韓国語Ⅰ	本科目は、中上級レベルの文法と表現を習得し、より話せる・使える韓国語を身につけることを目的とする。本科目における韓国語レベルは、簡単な語彙や表現なら十分に理解でき、その意味の伝達が可能な程度が望ましい。韓国の記事やエッセイ、歌詞等を材料としたテキストを用い、書き言葉と話し言葉の両方の学習を並行して行う。さらにリスニング教材や映像資料を用いて聞き取りの訓練をする。イントネーションや発音練習、書き取り、話す練習に取り組み、韓国語全般にわたるスキルアップを目指していく。毎回、ショートスピーチやピア活動を行い、最低1回は韓国語で発表をしてもらう。またそれに対する質問と答弁も韓国語で行うことで、韓国語能力の向上を図る。	

大学共通科目	外国語	韓国語	上級韓国語Ⅱ	本科目は、上級レベルの文法・語彙・表現を習得することを目的とする。上級韓国語Ⅰの修了者を対象とし、韓国の歴史・政治・社会・文化に関する文献を理解するために必要な文法と表現を学習しつつ、より実践的な言語活用のための「読む」「聞く」「書く」「話す」スキルをさらに向上させていく。さらに、一般的なテキストの他に、記事やエッセイ、映像資料も適宜用いる。全員最低1回は、韓国語のプレゼンテーションを行う。また、そのレジュメの作成や質問・答弁も全て韓国語で実施する。あらゆる場面におけるコミュニケーション学習を重視しつつ、適切な語彙と正しい表現を用いて長文を書く。また、長文を的確に要約する訓練も行う。より実践的に韓国語を使え、自分の努力次第では検定試験において最高レベルにも挑戦できる力を身につけることを目指していく。	
			外国語演習Ⅰ（韓国語）	本科目は、教科書づくりのプロセスを通して、韓国語力を総合的に高めていくことを目的とする。まず日本で刊行されている韓国語の教科書の種類や内容の傾向を把握する。そして既刊の教科書を学生各自が1冊ずつ担当して分析し、発表し合ってその情報を全員が共有する。そのうえで自分のアイディアやレベル、志向に応じたオリジナルの韓国語テキストを作る。重要なのは既刊の教科書にない特徴をいかに出すかという点である。これまで3年間にわたって韓国語を学んできたが、受け身の立場が多かったため、本科目では立場を変えることによって、気づかされることを補完しつつ、最上級レベルの韓国語力を目指していく。	
			外国語演習Ⅱ（韓国語）	本科目は、外国語演習Ⅰ（韓国語）の目的、概要を踏襲し、その続きのテーマで演習を行う。教科書づくりのプロセスを通して、韓国語力を総合的に高めていくことを目的とする。自分の言葉で教えることを意識して、各自計画した自家版教科書を引き続き作成する。既刊の教科書にない特徴を出しつつ、学生各自が自分のアイディアやレベル、志向に応じたオリジナルの韓国語テキストを作る。なお、その内容について発表し、議論しながら修正および補完していく。これまで3年間にわたって韓国語を学んできたが、受け身の立場が多かったため、本科目では立場を変えることによって、最上級レベルの韓国語力を目指していく。	
国際交流関係科目	国際交流コース		日本の文学〔国際〕	本科目は、日本文学（SF、ロマンチズム、リアリズム、ドラマや演劇、殺人ミステリー、宗教、神秘主義、コメディ、戦争、伝説、詩と日記、戦争や超自然的な伝説の物語など）の概説を目的としている。授業では早期から現代の主要な作品を読むことにより日本文化、人々、社会の変遷を追う。そのことにより日本文化や美学に対する理解を深める。授業では北海道開拓の村や北海道博物館への２回のフィールドトリップ、日本の短編小説の英語版読解、映画やドキュメンタリー視聴を元に、教員やクラスのメンバーと意見交換を行う。明治時代から現代までの日本の近代文学、または奈良時代から江戸時代までの日本の古典文学のいずれかについて、クラス内で各1回のプレゼンテーションとエッセイを書く。	
			日本のサブカルチャー	本科目は、日本のサブカルチャー、主に小説、漫画、映画、ドラマ、アニメ、ゲームなど幅広い分野について、作品を通して日本のサブカルチャーを学ぶと共に、各自の文化を紹介・討論することによって、日本文化と各国文化の比較を行い、理解を深めることを目的とする。英語の同時通訳付きで、日本の多種多様な文化の作品を読んだり見たりすることによって基本的な日本のサブカルチャーの基礎的知識を増やす。インターネットの発展に伴うメディアの歴史とそのコンテンツを学ぶことにより、日本文化と各国文化を比較しつつグローバルな視点を身につけていく。	
			日本の歴史〔国際〕	本科目は、1853年にアメリカから東インド艦隊司令長官ペリーが日本に来航してから1945年第二次世界大戦で日本が敗戦するまでの期間および終戦後から1960年代の高度経済成長期までの期間の歴史を学んでいく。特に政治、外交、経済的側面に重点を置いた講義を行う。日本の様々な時代の背景にある日本文化や歴史について知識を得ることを目的とする。授業は講義形式で進めていく。	

国際交流関係科目	国際交流コース	日本の社会〔国際〕	本科目は、現代の日本社会について学ぶことを目的とする。毎週、現代日本社会の様々な側面を取り上げ、それがグローバル社会における日本人の立場にどのような影響を与えているのかについて考察する。現代の社会問題についての読み物、アンケート調査、特定のテーマについて討論を行うことで、日本の社会や他国の社会の動向について批評し、現代日本における社会問題や変化の過程に関する知識を身につけていく。本科目の最終目標は、グローバル社会における日本の立ち位置をより深く理解すること、日本社会における流行を批判的に見ることができるようになることである。 現代日本社会の課題に焦点を当て、それらの課題が日本の将来と世界における日本の立ち位置に、どのような影響を与えるのかを明らかにすることである。	
		日本社会における言語とジェンダー〔国際〕	本科目は、「女性（男性）間での多様性」や「社会的な場面・文脈・慣習における個々の行動」に目を向ける必要があるという考え方に基づき、「女性と男性は会話において異なる話し方をする」という通説に批判的な検討を加える。また、その俗説が引き起こす悪影響の可能性について、批判的に考えられるようになることを目標とする。授業では、課題に関するディスカッションを行い、また、履修者の実際の会話を録音し、その分析を行っていく。	
		日本の金融と経済〔国際〕	本科目は、日本における非慣習的な金融政策やQQEと称されるQuantitative and Qualitative Easingを中心とする日本の金融政策と日本の経済について理解することを目的とする。日本の経済政策や金融市場、経済状況、さらには日本国内の経済に深く関わる世界情勢などを学び、日本経済の現在の課題や将来の展望について学術的検討を行う。授業では講義のテーマに対するディスカッションも行い、授業を通して、日本の金融政策の現在の問題および将来の動向についてアクティブラーニングを通じて理解する。学生は現代における経済の問題について自身の意見を述べられるようになることを目標とする。	
		マネジメント論〔国際〕	本科目は、現代の経営の基礎を学ぶことを目的とする。経営の目的を学び、成功した経営者たちが何をどのように行っているのかを明らかにすることで、適切な経営の特徴を見極め理解する。ビジネスの根本的な目的は、市場が求めるニーズを満たすために製品やサービスを生み出すことであるという考えに基づく。経営理論の歴史と様々な理論が現在までにどのように発展してきたのかを理解し、経営者や会社が行っていることを検討し、ビジネス経営のための重要な知識の幅を広げる。授業は、講義、プレゼンテーション、ディスカッションを交えて進めていく。	
		日本の文化〔国際〕	本科目では、文化は、言語的・非言語的な行動の意味に影響を与える文脈の一つであると考え、履修者に日本文化に関する概念に慣れ親しむ機会を提供する。典型的な行動や現象を反映した日本人の価値観や世界観についての理解を深めるとともに、日本人とのコミュニケーションにおける基礎知識をつけることを目的とする。授業では、日本の文化についての講義と学生同士のディスカッションを行う。毎週、読み物や映像を用いて、日本文化を説明するための主な概念や関連した問題を解説していく。ディスカッションでは、自身の文化体験を共有するための短いshow-and-tellや他の人の発表に対する意見交換などを行っていく。	
		国際経済〔国際〕	本科目は、国際経済への非正統的アプローチについて学ぶ。主流派経済学は、外国貿易に関する自由放任政策が社会の経済厚生を増加させると主張してきた。しかし他方、ある条件の下ではそれは有害であるかもしれないという主張もあり、かわりに保護主義を国際貿易に導入するべきであるという提案もなされてきた。本科目では、新古典派に対する代替的考えとして、貿易に関する非正統的アプローチについて検討する。その検討過程において、日本の外国貿易と企業についても言及する。授業は、講義とディスカッションを交えて行う。	
		日米（経済）関係〔国際〕	第二次世界大戦以降、日米関係は非常に親密となった。第二次世界大戦から今世紀に至るまで、二国間で様々に変化してきた互いへの対応を経済・政治・文化の観点から考察する。特に両国の関係が大きくメディアに注目され摩擦が生じた1980年代や1990年代初頭は集中して取り扱う。授業では講義とディスカッションを行い、毎週、参考映画を視聴する。最終週は、まとめとして20世紀の終わりから現在までの関係について分析し、二国間の将来の関係についてディスカッションする。	

国際交流関係科目	国際交流コース	日欧（経済）関係〔国際〕	本科目は、主に経済的観点から第二次世界大戦後のヨーロッパと日本の関係について考察する。戦争により経済的基盤に相当な打撃を受けた日本とヨーロッパは、経済復興前の状態が類似している。しかし、復興後の結果は大きく異なっている。本科目では、復興後の結果の相違点が生まれた理由と背景を検討する。戦後から21世紀までの日本経済・ヨーロッパ経済の業績や政策を分析し、両者間の現代における経済関係を深く理解することを目的とする。	
		比較文化〔国際〕	本科目は、北海道のアイヌとニュージーランドのマオリの歴史や文化を比較する。そのことにより、両文化をより深く理解し、どのように過去の歴史が両文化に影響したかを理解する。言語と文化は結びついているため、授業に必要なアイヌ語とマオリ語も学んでいく。アイヌの方、あるいはアイヌについて発表できる方をゲストスピーカーとして招き、より理解を深めていくことも予定している。視聴覚教材等を用いながら、ディスカッションも交えて進めていく。	
		日韓比較文化論	本科目は、日韓のテレビ、映画、新聞、雑誌、インターネット等のメディアを活用して日韓の類似性と相違性を把握し、他文化を理解するとともに自文化を客観的な視点で捉え直す力を身につける。韓国人留学生と日本人学生の協働学習により、日韓間の諸問題を解決するのに必要な「相互理解」を深める。講義では日韓の多様なメディアを用い、日韓の文化を比較してその相違性が何に起因するのかを検討し、相互理解への解決法を模索する。これにより他文化を理解し、同時に、当たり前のように受容している自文化を客観的にながめる能力を身につけることを目指す。	
		メディア論〔国際〕	本科目では、まず第一に日本社会における例を用いて基本的なメディア倫理について学ぶ。トピックは、①巨大地震とメディア倫理、②メディア倫理の現代の諸問題、③メディア倫理における典型的な日本の問題、である。第二に、学生は北星学園大学の特派員として、ビデオカメラを用いて興味深い3分間のビデオレポートを作成する。これにより、報道による情報について論理的に考える力を身につけ、的確にメディアを使ってメッセージを発信する能力を高める事を目標とする。	
		コミュニケーション論〔国際〕	本科目では、日本企業や日本にある国際企業の危機を取り上げ、どのようにその対応が行われ、定着した日本の企業文化が出資者のグローバルな基準を満たすことができたのかどうか等を検討する。基礎的な教科書とケーススタディを用いて、上記の間における広報の役割について、実践者、歴史的、理論的な観点から議論する。これにより、パブリック・リレーションズの分野について実質的な理解を深め、日本でのパブリック・リレーションズのあり方などについて学んでいく。	
		環境経済	本科目では、経済学の実践と理論における環境の役割に焦点を当てる。議論にはミクロ経済学と統計的分析を用い、また、実世界での例も取り入れる。この授業の目標は、学生に知識、スキル、社会に貢献するための知恵を提供することである。授業は講義、ディスカッション、発表によって進められ、環境問題や経済についての深い知識を得ると同時に、その知識を応用して、実社会で活用できるようになることが本科目の到達目標である。	
		国際交流特別講義	本科目は、基本的に本学の交流教員制度により協定校から短期で受け入れる交流教員が担当する科目である。授業は主に英語で行われ、協定により内容は、①交流教員の自国の文化や社会について、②交流教員の専門分野について、に基づく形となる。他国に関する知識を取得し、日本と比較できるよう異文化について理解を深めること、他国の文化や社会への認識を深め、国際交流を行いながら、広い見識を身に付けていくことが目的である。	
		日本語教授法Ⅰ	本科目は、日本語非母語話者を対象とした日本語教育の基礎知識及び教室活動の実践方法を学ぶ。コース前半では理論を中心とした議論を行い、コース後半は実際に教室活動をいかに進めていくべきか理論を反映させながら検討するワークショップを行う。これまでに提唱されてきた様々な言語教授法について検討しながら変遷をたどり、また、「聞く・読む・話す・書く」技能について、相互行為の観点から考察するとともに実践的にこれら四技能のための教材のモデルを比較、検討していく。	

国際交流関係科目	国際交流コース	日本語教授法Ⅱ	本科目は、日本語非母語話者を対象とした日本語教育の基礎知識及び教室活動の実践方法を学ぶ。日本語教授法Ⅱでは、具体的に、音声、ひらがな、漢字、初級の文型とその使用法などを教える際の基礎知識を習得すると同時に、「模擬授業」を通じ、それらをどのように初級日本語の授業で練習させていくかについて学習する。音声、文型などの教授法の基礎知識を習得する際は、広範な知識の紹介というよりは、初めて日本語を勉強する初級学習者向けに焦点を絞って、どう知識を導入・説明していくかという点に重点を置く。また、英語を媒介語として使用可能な日本語学習者を前提にしているため、英語での簡潔な説明のための専門用語などに慣れることも目標とする。	
		日本語教授法Ⅲ	本科目は、日本語教授法Iで概観した観点を深め検討する理論的側面と、日本語教授法Ⅱで扱った初級文法の教授法を継続して学ぶ実践的側面の2本の柱により進められる。日本語教授法Ⅱでは扱えなかった初級文法のいくつかの項目について、その教授方法を継続して学んでいき、模擬授業についても引き続き実施していく。授業で扱った文法項目や漢字の教え方などについて説明できるようになること、授業で扱った会話分析概念の観点から日本語教科書のモデル会話の問題点を説明できるようになることを目標とする。	
		Academic Skills for Study Abroad	本科目は、英語を母語としない学生が海外留学先で専門科目を受講する際に必要となる事前知識やスキルを身につけることを目的とする。英語により専門的な科目を履修することを想定し、リーディング、ライティング、プレゼンテーションのスキルに加え、異文化圏でのコミュニケーションスキルについて学んでいく。例えば、自己紹介の仕方、講師からの質問への答え方、必要に応じて講師に質問する方法やタイミングなど、また、クラスでの講師やクラスメートとの関わり方についても学習する。講義に加え、実際のリーディング、ライティング、プレゼンテーション、Q&Aセッション、ロールプレイを通して、英語圏の大学で学ぶための学問的・社会的言語スキルを身につける。	

学校法人北星学園　設置認可等に関わる組織の移行表

令和4年度	入学定員	編入学定員（3年次）	収容定員
北星学園大学			
文学部			
英文学科	113	14	480
心理・応用コミュニケーション学科	90	10	380
経済学部			
経済学科	152	6	620
経営情報学科	102	6	420
経済法学科	110	10	460
社会福祉学部			
福祉計画学科	85	10	360
福祉臨床学科	85	10	360
福祉心理学科	64	7	270
計	801	73	3,350
北星学園大学大学院			
文学研究科			
言語文化コミュニケーション専攻（修士課程（2年制））	8	－	16
経済学研究科			
経済学専攻（修士課程（2年制））	10	－	20
社会福祉学研究科			
社会福祉学専攻（修士課程（2年制））	8	－	16
臨床心理学専攻（修士課程（2年制））	4	－	8
社会福祉学専攻（博士課程（3年制））	3	－	9
計	33	－	69
北星学園大学短期大学部			
英文学科	120	－	240
生活創造学科	80	－	160
計	200	－	400

令和5年度	入学定員	編入学定員（3年次）	収容定員	変更の事由
北星学園大学				
文学部				
英文学科	131	15	554	入学定員変更（18）、編入学定員変更（1）
心理・応用コミュニケーション学科	96	10	404	入学定員変更（6）
経済学部				
経済学科	161	6	656	入学定員変更（9）
経営情報学科	107	5	438	入学定員変更（5）、編入学定員変更（△1）
経済法学科	116	5	474	入学定員変更（6）、編入学定員変更（△5）
社会福祉学部				
	0	0	0	令和5年4月学生募集停止 ※3年次編入学定員は令和7年4月学生募集停止
	0	0	0	令和5年4月学生募集停止 ※3年次編入学定員は令和7年4月学生募集停止
心理学科	70	5	290	名称変更 入学定員変更（6）、編入学定員変更（△2）
社会福祉学科	120	5	490	学科の設置（届出）
計	801	51	3,306	
北星学園大学大学院				
文学研究科				
言語文化コミュニケーション専攻（修士課程（2年制））	8	－	16	
経済学研究科				
経済学専攻（修士課程（2年制））	10	－	20	
社会福祉学研究科				
社会福祉学専攻（修士課程（2年制））	8	－	16	
臨床心理学専攻（修士課程（2年制））	4	－	8	
社会福祉学専攻（博士課程（3年制））	3	－	9	
計	33	－	69	
北星学園大学短期大学部				
英文学科	120	－	240	
生活創造学科	80	－	160	
計	200	－	400	